

2023 年度

東京家政大学大学院

学生募集要項

人間生活学総合研究科

修士課程 児童学児童教育学専攻
健康栄養学専攻
造形学専攻
英語・英語教育研究専攻
臨床心理学専攻
教育福祉学専攻

博士課程 人間生活学専攻

2023 年度 東京家政大学大学院入試日程

《 全専攻 1期・2期 入試実施 》 男女共学

研究科	課程	専攻	定員	入試種別	試験日	願書受付	合格発表	入学手続期間
人間生活学総合研究科	修士	児童学児童教育学	5	1期 一般入試 社会人特別入試	2022年 10/24(月)	10/5(水)	10/27(木)	10/31(月)
		健康栄養学	5			∩		∩
		造形学	4			10/11(火)		11/4(金)
		英語・英語教育研究	4	2期 一般入試 社会人特別入試	2023年 2/3(金)	1/11(水)	2/9(木)	2/13(月)
		臨床心理学	8			∩		∩
		教育福祉学	4			1/17(火)		2/17(金)
	博士	人間生活学	3					

臨床心理学専攻

日本臨床心理士資格認定協会 第1種指定大学院
公認心理師受験資格対応

個人情報の取り扱いについて

- ① 東京家政大学大学院では、出願に際して、得られた住所・氏名その他個人情報は入試関連業務に限定して使用し、お預かりした情報は適切・安全に管理いたします。
- ② 出願書類を提出いただいたことにより、上記事項を理解し、同意していただいたものとして取り扱わせていただきます。

目 次

I. 2023年度東京家政大学 大学院入試

A. 人間生活学総合研究科 各専攻共通事項

1 試験日程, 出願関係, 合格発表・入学手続 等	1
入学検定料支払い方法	3
2 納入金	4
3 奨学金	5
4 入学辞退に伴う学費の返還について	5
5 東京家政大学大学院 長期履修学生制度	6

B. 2023年度一般入試・社会人入試

1 人間生活学総合研究科修士課程 一般入試	8
2 人間生活学総合研究科修士課程 社会人特別入試	9
3 人間生活学総合研究科博士課程 一般入試	10
4 人間生活学総合研究科博士課程 社会人特別入試	11

II. 東京家政大学大学院 人間生活学総合研究科の概要

A. 概要

1 目的	13
2 研究科設置の趣旨	13
3 研究科の構成と収容定員	15
4 修業年限・長期履修学生	15
5 課程の修了要件	15
6 学位の授与	16
7 各専攻の目的	16
8 アドミッションポリシー (入学者受入方針)	17
9 カリキュラムポリシー (教育課程編成方針)	20
10 ディプロマポリシー (学位授与方針)	24
11 教職課程の履修	27
12 臨床心理士・公認心理師 (臨床心理学専攻)	27
13 大学院生研究助成制度	29
14 東京家政大学大学院の院生に関する出産・育児休学取扱内規	30
15 大学院生の学会発表, 学外研究活動	31

B. 令和4（2022）年度教育課程表	
1 修士課程	33
(1) 児童学児童教育学専攻	33
(2) 健康栄養学専攻	35
(3) 造形学専攻	37
(4) 英語・英語教育研究専攻	39
(5) 臨床心理学専攻	40
(6) 教育福祉学専攻	41
2 博士課程	42
(1) 人間生活学専攻	42
3 大学院共通科目（修士課程・博士課程）	43
C. 令和4（2022）年度授業科目の講義内容（「特別研究」「特別研究・制作」以外）	
1 修士課程	44
(1) 児童学児童教育学専攻	44
(2) 健康栄養学専攻	51
(3) 造形学専攻	59
(4) 英語・英語教育研究専攻	68
(5) 臨床心理学専攻	72
(6) 教育福祉学専攻	75
2 博士課程	78
(1) 人間生活学専攻	78
3 大学院共通科目（修士課程・博士課程）	84
Ⅲ. 東京家政大学板橋キャンパス配置図・大学院事務室	86

2023年度入試日程 個人情報取り扱いについて	表紙裏
板橋キャンパスへのアクセス	裏表紙裏

I . 2023年度東京家政大学 大学院入試

I. 2023年度 東京家政大学 大学院入試

A. 人間生活学総合研究科 各専攻 共通事項

1 試験日程, 出願関係, 合格発表・入学手続 等

	1期入試	2期入試	備考
試験日	2022年10月24日(月)	2023年2月3日(金)	
入学検定料 支払い期間	2022年9月28日(水) ～10月10日(月)	2023年1月7日(土) ～1月16日(月)	指定のWeb申込み後、コンビニエンスストアあるいはクレジットカードにて支払をする。再度Webから「収納証明書」を出力し、入学志願票に貼付の上、出願手続きをする。(P3参照)
出願期間	2022年10月5日(水) ～10月11日(火)必着	2023年1月11日(水) ～1月17日(火)必着	出願方法：窓口もしくは郵送 窓口受付：平日 9:00～17:00 土曜日 9:00～12:00 ※2期入試2023年1月13日(金)、 14日(土)は大学入学共通テストのため窓口受付は行いません。 ご注意ください。
合格発表	2022年10月27日(木)	2023年2月9日(木)	大学院事務室前に掲示し、本人宛に合否通知書を発送する。
入学手続 期間	2022年10月31日(月) ～11月4日(金)	2023年2月13日(月) ～2月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・納入金納付後、誓約書等所定書類を提出し、入学許可書の交付を受ける。 ・手続期間内に入学手続をしないときは、入学を許可しない。 ・入学手続で提出した書類等は返還しない。
試験会場	東京家政大学 板橋校舎 (試験当日の試験会場は、受験票に記載する) 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1 TEL 03-3961-3473 FAX 03-3961-5260		
出願受付	東京家政大学 大学院事務室 (住所・連絡先は同上)		
出願手続 注意事項	<ol style="list-style-type: none"> (1) 児童学児童教育学, 健康栄養学, 造形学, 人間生活学の各専攻志願者は、出願前に大学院事務室に相談の上、希望研究分野の指導教員と事前に連絡をとり、研究指導の了解を得た上で出願すること。 (2) 出願期間の前に入学検定料支払い期間がある。早めの支払いをすること。 (3) 一度納入した検定料は払戻しをしない。 (4) 修士課程長期履修制度(P6参照)の利用を希望する者は出願時に申し出ること。 		

出願書類	全専攻志願者提出書類		
	①	入学志願票 (本学所定用紙)	写真は入学志願票の写真欄に貼付する。 郵送で出願する場合は受験票に切手を貼る。
	②	卒業(見込)証明書 修了(見込)証明書	修士課程志願者は、大学卒業(見込)証明書 博士課程志願者は、大学院修士課程修了(見込)証明書
	③	成績証明書	大学に編入学している者は、編入学前の大学、短大等の 証明書も提出する。複数の大学等を卒業している場合 は、すべての学校の証明書を提出する。
	希望者又は専攻によって提出する書類		
	④	長期履修学生申出書 (本学所定用紙)	修士課程 長期履修希望者のみ提出。 在職証明等添付。 <u>長期履修は、出願時のみ申請可。</u>
	⑤	研究計画書 (本学所定用紙)	修士課程 全専攻提出。 次の2点を含むこと。 1) 卒論要旨または今までの研究の内容 2) 入学後の研究計画(大学院で研究したいこと)
	⑥	勤務・社会的活動 経験の履歴 (本学所定用紙)	臨床心理学専攻 社会人特別入試志願者のみ提出。
	⑦	修士論文又はこれに 代わる学術論文	博士課程 人間生活学専攻のみ提出。 修士の学位授与見込みの者においては提出予定論文要旨 を含む。
	⑧	希望研究課題	博士課程 人間生活学専攻のみ提出。 題目を明記の上、内容を1,000字程度にまとめて提出す る。書式は任意。
	外国人志願者の提出書類(出願の前に大学院事務室へ必ず問合せること)		
	⑨	最終出身学校長の 推薦書	和訳を添付すること。
	⑩	日本語能力証明書	外国人日本語能力試験1級成績通知書 この試験を受けていない者は「日本留学試験」の「日本 語」を受験すること。
	⑪	在日保証書 (本学所定用紙)	
	⑫	在留カード(元:外国人登録票) 住民票	在留資格、期間が記載された区役所等発行の証明書

※各種証明書等は、原則として3ヶ月以内に取得したものを提出すること。

※④⑤⑥⑪は大学院ホームページからダウンロードできます。

東京家政大学大学院

コンビニエンス・クレジットカードでの入学検定料支払方法

Step
1

Web申し込み 必要事項を入力し、支払いに必要な番号を取得してください。






東京家政大学大学院HP→「入試情報」へアクセス



URL <https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/graduate/>

Step
2

お支払い方法 コンビニエンスストア、クレジットカードのいずれかでお支払いください。

コンビニエンスストア		現金支払い		
		コンビニ設置のATMは利用できません。コンビニでは現金のみの取扱いとなります。		
<p>ローソン・ミニストップ LAWSON </p> <p>[Loppi]</p> <p>[各種番号をお持ちの方]を選択</p> <p>[受付番号(G桁)]を入力し、[次へ]ボタンを押す</p> <p>お申込み時に登録した電話番号を入力し[次へ]を押す</p> <p>内容確認後、「了解」ボタンを押す</p> <p>端末から出力された申込券を持ってレジでお支払い</p>	<p>ファミリーマート </p> <p>[Famiポートまたはマルチコピー機]</p> <p>[代金支払い]を選択</p> <p>Famiポート[各種番号をお持ちの方はこちら]マルチコピー機[番号入力]</p> <p>Famiポート[企業コード・注文番号]を入力 マルチコピー機[第1番号・第2番号]を入力</p> <p>端末から出力された申込券を持ってレジでお支払い</p>	<p>デイリーヤマザキ </p> <p>[レジへ]</p> <p>レジで「オンライン決済」を申し込む</p> <p>レジ画面で決済番号を入力</p> <p>内容確認後、レジでお支払い</p>	<p>セイコーマート </p> <p>[レジへ]</p> <p>レジで「インターネット支払い」と伝える</p> <p>お客様側のレジ画面にて[受付番号][確認番号]を入力</p> <p>支払内容の確認画面が表示</p> <p>OKを押してお支払い</p>	<p>セブンイレブン </p> <p>[レジへ]</p> <p>店員の方へ「インターネット支払い」をする旨を伝え、「払込票番号」を伝えます。発行した「払込票」を渡しても構いません。</p> <p>お支払い</p>

クレジットカード



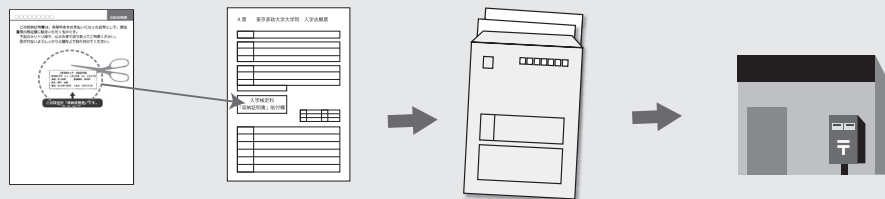
VISA, Master, JCB, American Express, Diners

※カードの名義人は受験生本人でなくとも構いません

Step
3

出願

支払完了後、マイページにアクセスし「収納証明書」を印刷して切り取り、入学志願票の所定欄に貼付。入試要項を確認して出願書類を準備し、出願期間内に郵送してください。



- 各入試の支払期間をご確認のうえ、締切に間に合うよう十分に余裕をもってお支払いください。
- 一度お支払いされた入学検定料は、一切返金できませんのでご注意ください。
- カード審査が通らなかった場合は、クレジットカード会社へ直接お問い合わせください。

2 納入金（2022年度）（財務部経理課へ納付）

(1) 入学時納入金

①（標準修業年限在学生 修士2年 博士課程3年）入学時納入金

納入金項目	金額	備考
入 学 金	150,000円	本学卒業生は入学金免除
授業料（前期分）	330,000円	年額660,000円
施設設備維持充実費 （前期分）	100,000円	年額200,000円
後 援 会 費	25,000円	入会金15,000円，年会費10,000円 （本学卒業生は年会費のみ）
合 計	605,000円	本学卒業生の入学時納入金は440,000円

②（長期履修学生 修士3年コース）入学時納入金

納入金項目	金額	備考
入 学 金	150,000円	本学卒業生は入学金免除
授業料（前期分）	220,000円	年額440,000円
施設設備維持充実費 （前期分）	70,000円	年額140,000円（3年目は，年額120,000円）
後 援 会 費	25,000円	入会金15,000円，年会費10,000円 （本学卒業生は年会費のみ）
合 計	465,000円	本学卒業生の入学時納入金は300,000円

③（長期履修学生 修士4年コース）入学時納入金

納入金項目	金額	備考
入 学 金	150,000円	本学卒業生は入学金免除
授業料（前期分）	165,000円	年額330,000円
施設設備維持充実費 （前期分）	50,000円	年額100,000円
後 援 会 費	25,000円	入会金15,000円，年会費10,000円 （本学卒業生は年会費のみ）
合 計	390,000円	本学卒業生の入学時納入金は225,000円

(2) 入学後の学費（後期分）

納入金項目	金額
授 業 料	標準年限：330,000円 長期3年：220,000円 長期4年：165,000円
施設設備維持充実費	標準年限：100,000円 長期3年：70,000円 長期4年：50,000円
実験実習費等経費 （後期に納付） （標準，長期共通）	児童学児童教育学専攻50,000円，健康栄養学専攻65,000円， 造形学専攻60,000円 英語・英語教育研究専攻35,000円， 臨床心理学専攻／教育福祉学専攻60,000円， 人間生活学専攻50,000円

3 奨学金

日本学生支援機構奨学金

2022年度貸与月額：下記種別，金額から選択，申請し，選考のうえ貸与される。

第一種（無利子）修士課程50,000円・88,000円，博士課程80,000円・122,000円

第二種（有利子）修士，博士全課程50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円

渡辺学園給付奨学金

渡辺学園三木奨学金，後援会奨学金，石川梅子（むめ）奨学金，松井奨励金等

4 入学辞退に伴う学費の返還について

2023年度入試合格者で入学時納入金を完納した者が入学を辞退する場合には，入学辞退・学費返還の手続を行うことにより納入学費等の一部を返還する。

- (1) 返還する学費等は，2023年度授業料（納入分），施設設備維持充実費（納入分），後援会費とする。
- (2) 入学辞退・学費返還の手続は以下のとおりとする。

下記の①～⑦を記載・捺印した入学辞退・学費返還願（様式は任意）を作成し，「入学金等受領書（本人控）」を同封の上，封筒表面に「学費返還手続き」と朱書し，書留で東京家政大学大学院事務室に郵送する。なお，振込口座名義は本人または保証人とする。

- ①氏名（捺印） ②生年月日 ③合格専攻 ④受験番号 ⑤入学辞退理由
- ⑥返還金振込希望金融機関名・支店名及び預金種目・口座番号と名義（フリガナ）
- ⑦保証人氏名（捺印）・住所・連絡先電話番号

- (3) 返還願提出期限は，2023年3月31日〔当日消印有効〕までとする。
- (4) 返還金は，2023年4月中旬頃「学校法人渡辺学園」名で指定金融機関に振込む。

5 東京家政大学大学院 長期履修学生制度

(資格)

○長期履修学生を志願できる者は、本学大学院修士課程に入学予定の者で、次の各号の一に該当し、2年の標準修業年限での修業が困難な者で、3年または4年の修業年限を希望する者とする。

- (1) 職業を有し就業している者
(自営業及び臨時雇用(単発的なものを除く)を含む。)
- (2) 家事, 育児, 介護等の事情を有する者
- (3) 教育免許状取得希望者
- (4) その他研究科委員会で相当と認められた者

(授業料等)

○長期履修学生の授業料等は、通常の大学院修士課程の授業料等の年額を3年または4年で納入する。(詳細は別表参照。)

(出願時期, 志願手続)

○長期履修学生を志願する者は、大学院出願時に他の出願書類とともに下記の書類を提出する。
出願期間以降、長期履修学生の志願はできない。

- (1) 長期履修学生申出書(大学院ホームページよりダウンロード)
- (2) 職業を有している者は在職証明書または在職が確認できる書類
- (3) その他研究科委員会で必要とされた書類

(履修期間の変更)

○長期履修学生の履修期間の変更は原則として認めない。

ただし、特別な事情がある場合、在学中1回に限り、1年次の1月末までに変更を申請し、研究科委員会で承認された場合、履修期間の変更ができる。

(履修期間変更後の授業料等)

○履修期間変更後の授業料等の年額は、別表を参照。

別表 東京家政大学大学院 長期履修学生授業料等年額

単位：円

学生区分	在学年数	学年	授業料 (年額)	施設維持充実費 (年額)
長期学生 (3年コース)	3	1	440,000	140,000
		2	440,000	140,000
		3	440,000	120,000
長期学生 (4年コース)	4	1	330,000	100,000
		2	330,000	100,000
		3	330,000	100,000
		4	330,000	100,000
変更長期学生 (3→4)	4	1	400,000	140,000
		2	300,000	90,000
		3	300,000	90,000
		4	280,000	80,000
変更長期学生 (3→2)	2	1	440,000	140,000
		2	880,000	260,000
変更長期学生 (4→3)	3	1	330,000	100,000
		2	500,000	150,000
		3	490,000	150,000
変更長期学生 (4→2)	2	1	330,000	100,000
		2	990,000	300,000

B. 2023年度一般入試・社会人入試

1 人間生活学総合研究科修士課程 一般入試

(1) 募集人員 (男女共学)

専攻	募集人員
児童学 児童教育学	5名
健康 栄養学	5名
造形学	4名
英語・英語教育研究	4名
臨床心理学	8名
教育福祉学	4名

(2) 出願資格 各専攻共通

下記のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び2023年3月大学卒業見込の者
- (2) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) その他本学大学院研究科委員会において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(3) 試験科目・内容及び試験時間

時 間	9 : 10 ~ 10 : 50	11 : 10 ~ 12 : 10	13 : 00 ~
専攻 \ 試験科目	専 門 科 目 ※1	外国語 ※2	面 接 ※3
児童学児童教育学	・保育学 ・保育実践学 ・育児支援学 ・子ども臨床学 ・教育実践学 ・学校教育学 から2科目選択 (1科目は指定科目)	英 語	面 接 (臨床心理 14 : 00 ~)
健康 栄養学	・食品学 ・調理科学 ・栄養学 ・生命科学分野 ・実践研究分野 から2科目選択 (1科目は指定科目)		
造 形 学	・被服科学 ・被服造形学 ・服飾文化史 ・服飾デザイン・色彩 ・美術史 ・デザイン史 ・工芸論 ・造形表現論 から2科目選択 (うち1科目は指定科目)		
英語・英語教育研究	・英文学 ・米文学 ・英語学 ・英語教育学 から1科目選択		
臨 床 心 理 学	臨床心理学領域から出題		
教 育 福 祉 学	・心理学 ・社会福祉学 ・教育学 から1科目選択		

※1. 児童学児童教育学専攻、健康栄養学専攻、造形学専攻の専門科目は、研究指導予定の教員が指定する研究指導を受ける予定分野の1科目2問とあらかじめ選択する分野の1科目2問を解答する。

※2. 児童学児童教育学専攻の外国語は2問中2問を、健康栄養学専攻、造形学専攻の外国語は3問中2問を解答する。英語・英語教育研究専攻を除く各専攻では、英語の辞書は貸与する。

※3. 臨床心理学専攻を除く各専攻の面接試験は、13 : 00から実施する。
臨床心理学専攻の面接試験は、専門科目・外国語の筆記試験に合格した者に対して、14 : 00から実施する。

2 人間生活学総合研究科修士課程 社会人特別入試

(1) 募集人員（男女共学）

専攻	募集人員
児童学 児童教育学	若干名
健康 栄養学	
造形学	
英語・英語教育研究	
臨床心理学	
教育福祉学	

(2) 出願資格

下記のいずれかに該当する者。

- (1) 大学を卒業後、2年以上勤務・社会的経験のある者
- (2) 大学を卒業した者及び2023年3月に大学卒業見込の者で、入学時に27歳以上の者
- (3) その他本学大学院研究科委員会において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で2年以上勤務・社会的経験のある者又は入学時に27歳以上の者

(3) 試験科目・内容及び試験時間

専攻	時間	9:10～10:50	11:10～12:10	13:00～
児童学児童教育学, 健康栄養学, 造形学			小論文	面接 ※2 (臨床心理) (14:00～)
英語・英語教育研究, 教育福祉学			小論文	
臨床心理学		専門科目・英語 ※1 (臨床心理学領域から出題する)	小論文	

※1. 英語の辞書は貸与する。

※2. 臨床心理学専攻を除く各専攻の面接試験は、13:00から実施する。
臨床心理学専攻の面接試験は、14:00から実施する。

3 人間生活学総合研究科博士課程 一般入試

(1) 募集人員 (男女共学)

専攻	募集人員
人間生活学	3名

(2) 出願資格

下記のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位を有する者及び2023年3月大学院修士課程修了見込の者
- (2) 外国において修士に相当する学位を授与された者
- (3) その他本学大学院研究科委員会において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(3) 試験科目・内容及び試験時間

専攻 \ 時間	9:10 ~ 10:10	10:20 ~ 12:10
人間生活学	英語 ※1	面接 ※2

※1. 研究希望分野からの専門問題1題及び共通問題2題のうち1題の合計2題を選択する。
英語の辞書は貸与する。

※2. 修士論文又はこれにかわる学术论文(論文要旨)、研究希望課題にもとづくプレゼンテーション(15分程度)及び質疑。プレゼンテーション用のデジタルデータ資料はUSBに入れて、試験3日前までに、大学院事務室に提出する。

4 人間生活学総合研究科博士課程 社会人特別入試

(1) 募集人員（男女共学）

専攻	募集人員
人間生活学	若干名

(2) 出願資格

下記のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位を有し、2年以上勤務経験のある者
- (2) 修士の学位を有する者で、入学時に29歳以上の者
- (3) その他本学大学院研究科委員会において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で2年以上勤務経験のある者又は入学時に29歳以上の者

(3) 試験科目・内容及び試験時間

専攻	時間	9:10～10:10	10:20～12:10
人間生活学		小論文	面接 ※

※ 研究希望課題にもとづくプレゼンテーション（30分程度）及び質疑。プレゼンテーション用のデジタルデータ資料はUSBに入れて、試験3日前までに、大学院事務室に提出する。

Ⅱ. 東京家政大学大学院 人間生活学総合研究科の概要

A. 概 要

1 目 的

東京家政大学大学院は、建学の精神に則り、学部の教育課程を基礎とし、高度にして専門的な学術の理論及び応用を研究教授し、その深奥をきわめ、広い視野に立って高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、広く社会と文化の発展に寄与することを目的とする。

2 研究科設置の趣旨

東京家政大学は、明治14年に東京女子師範学校（現お茶の水女子大学）の教師であった渡辺辰五郎が、「時代の要請に応え、民衆の必要を基盤とし、女性の自主自律を願い、新しい時代に即応した学問技芸に秀でた師表となる有能な女性を育成する」ことを教育理念として、本郷湯島の地に創設した和洋裁縫伝習所をその起源に持つ。和洋裁縫伝習所に起源を持つ学校法人渡辺学園は現在、大学院、大学、短期大学部、附属女子中学校、女子高等学校、幼稚園、ナースリールーム併せて7,000人を超える学生・生徒・園児を擁する学園となっている。本学園は平成23年度には創立130周年を迎え、戦後1949年に大学が設置認可されてからも60余年が過ぎている。

家政学研究科は、平成元年に修士課程からスタートし、平成5年に博士課程を設置し、文字通り家政系大学の最高学府に相応しい内容を整えた。その間多くの修了生を輩出し、37名の博士が誕生した。

家政学研究科は家政学部児童学科、栄養学科、服飾美術学科を基礎として、食物栄養学専攻、被服造形学専攻、児童学専攻を柱として修士課程を築き、博士課程は家政学を核としながらさらにフィールドを広げ、人間生活全般にかかわる探求へと発展させた人間生活学専攻として、それぞれを開設してきた。

家政学研究科が開設され20余年を過ぎており、基礎となる家政学部は、服飾美術学科美術専攻が、生活美術全般を中心とした造形表現学科に発展し、児童学科児童教育専攻は、学校教育においてより質の高い教育力・実践力・教科教育の力を伸ばす教員養成を目的として児童教育学科を設置する方向へ発展した。また、栄養学科理科コースも環境情報学科から環境教育学科へと改組転換を図った。栄養学科も、平成14年に栄養士法が改正され、管理栄養士国家試験が施行されたことに伴いカリキュラムを一新し、栄養士・管理栄養士の専門資質の向上に対して全国レベルでの改革が行われた。何れも、従来の家政学をさらに深化させ、生命と生存に根差した、人の一生と生活全般にかかわる学際的探求課題へと裾野を広げてきている。

一方、文学部においても、人文学部へと名称変更を行い、心理教育学科は時代の要請に応じて心理臨床、生涯学習及び社会福祉の三分野の充実を図ってきたが、それぞれの学問領域の専門化、高度化に対応するため、心理カウンセリング学科と教育福祉学科の2学科に発展改組を行っ

た。また、英語英文学科は英語教育を中心にしながら、コミュニケーション能力育成をより重視した教育を目的としたカリキュラムとし英語コミュニケーション学科へと名称変更を行った。

文学研究科は、平成8年英語英文学専攻及び心理教育学専攻を設置し、平成12年には財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認可する第1種指定大学院として臨床心理士を養成するため、心理教育学専攻に臨床心理学コース・心理教育学コースを設定したが、その後、従来の文学研究から、人文全般に関する学際的探求課題への展開がなされてきた。

本学では、以上のように家政学をさらに深化させつつ、生命と存在に根ざした人の一生と生活全般にかかわる課題探求へと裾野を広げてきている家政学研究科と、従来の文学研究から人文全般に関する学際的探求課題へと展開が進んできた文学研究科とを統合し、人間生活学総合研究科の1研究科とし、修士課程6専攻と博士課程の人間生活学専攻を設置することとした。

人間生活学総合研究科は、家政学と人文学の基盤を踏まえつつ、生活学の内容を従来の内向きの「家庭」という枠に囚われることなく、衣、食と健康、福祉から心と保育、教育までを包括した人間の生命活動と生存活動の探求を深めると共に、グローバル化し、文化的な質の高い生活技術と生活意識を幅広く探求するものと捉えなおすものである。このように2研究科の統合によって、人間生活学総合研究科はこれまでの2研究科内の専門相互の学びあいも可能となり、広く複眼的な視野を持つ有為な人材を養成することが可能となる。また、修士課程の専攻名称は基礎学部の名称と対応しており、学部と大学院の継続性を明確に示すとともに、新たな今日的課題に応えられるように養成する人材像を明確にし、学修システムの弾力化を図ることによって、学生・社会人のニーズに幅広く応えるものとなっている。

本学の2代目学長青木誠四郎は、戦後の文部省にあって戦後教育の復興に力を尽くし、その後本学に着任した。青木誠四郎に“実際家は日々の事に追われて研究に遑（いとま）なく、研究者は現実を見ず、現状を知らずして机上に理論を楽しむといった風では好ましくない。畢竟^{ひっきょう}、学は協同事業でなくてはならない”という言葉がある。研究のための研究でなく、本学は所謂大学院大学を目指すのでもなく、「現場に学び、共に研究し、研究成果を現場に生かせるように！」を本大学院の基本理念としたい。そのためには、研究能力と課題解決能力を合わせ持ち、実社会でリーダーとなれる人材育成を目指すと共に、現職社会人を広く迎え入れられるよう、さらに段階を踏んで体制を整えていく計画である。

これらを踏まえ平成24年4月から、人間生活学総合研究科修士課程に、児童学児童教育学専攻（入学定員5名）、健康栄養学専攻（入学定員5名）、造形学専攻（入学定員4名）、英語・英語教育研究専攻（入学定員4名）、臨床心理学専攻（入学定員8名）、教育福祉学専攻（入学定員4名）を、博士課程に人間生活学専攻（入学定員3名）を設置し、大学院のさらなる教育・研究の向上に取り組むこととした。

3 研究科の構成と収容定員

東京家政大学大学院 (Graduate School of Tokyo Kasei University)
人間生活学総合研究科 (Graduate School of Humanities and Life Sciences)

課程	専攻	入学定員	収容定員
修士課程	児童学児童教育学専攻 (Master's Program in Child Care, Education and Science)	5	10
	健康栄養学専攻 (Master's Program in Health and Nutrition)	5	10
	造形学専攻 (Master's Program in Clothing & Art)	4	8
	英語・英語教育研究専攻 (Master's Program in English Language and Culture)	4	8
	臨床心理学専攻 (Master's Program in Clinical Psychology)	8	16
	教育福祉学専攻 (Master's Program in Education and Social Welfare)	4	8
博士課程	人間生活学専攻 (Doctoral Program in Human Life Sciences)	3	9
合計		33	69

4 修業年限・長期履修学生

- (1) 本学大学院の修士課程の修業年限は2年、博士課程の修業年限は3年とする。
- (2) 修士課程において、学生が職業を有している等の事情により、前項に定める修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを希望し認められた長期履修学生の修業年限は3年又は4年とする。
- (3) 大学院に在学できる期間は、休学期間を除き修士課程は4年間、博士課程は6年間とする。
- (4) 修士課程の長期履修学生の在学年数は、修業年数が3年の場合は4年を、修業年数が4年の場合は5年を超えることはできない。

5 課程の修了要件

- (1) 修士課程の修了要件は、大学院に2年以上在学し、履修授業科目について30単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた後、修士論文の審査又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。
- (2) 博士課程の修了要件は、大学院に3年以上在学し、所定の授業科目について6単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することと

する。ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

6 学位の授与

本学大学院研究科において、所定の課程を修了した者に対しては次の学位を授与する。

人間生活学総合研究科	児童学児童教育学専攻	修士課程	修士（家政学）
	健康栄養学専攻	修士課程	修士（健康栄養学）
	造形学専攻	修士課程	修士（家政学）
	英語・英語教育研究専攻	修士課程	修士（文学）
	臨床心理学専攻	修士課程	修士（心理学）
	教育福祉学専攻	修士課程	修士（学術）
	人間生活学専攻	博士課程	博士（学術）

7 各専攻の目的

- (1) 児童学児童教育学専攻は、子どもの豊かな人格を育て、身体的、精神的かつ社会的に健全に育成するための学究を行い、高度な研究教育に携わることのできる人材および児童学・児童教育学における実践的課題を探究・研究し解決できる高度な専門知識と方法論を修得した人材の養成を目的とする。
- (2) 健康栄養学専攻は、食品栄養調理科学と生命科学、実践研究の分野における、高度の知識、技能を教授して、人の健康維持、生活習慣病の予防、老化のメカニズムなどの諸問題の解決に役立つような研究能力と応用力を有する人材および栄養士・管理栄養士の資格を生かした高度な専門的能力のある職業人の養成を目的とする。
- (3) 造形学専攻は、服飾美術と造形表現を融合させたカリキュラムにより、自然・社会環境や産業技術などの、衣服の美的・機能的側面に対して起こりうる新しいニーズに対し、産業や教育などの分野で対応できる高度な専門性と実践力を備えた人材および生活を様々な面で豊かにする造形表現活動・文化活動を支える能力を有する人材の育成を目的とする。
- (4) 英語・英語教育研究専攻は、国際化時代に対応できる実践的な英語コミュニケーション能力を養成し、英語文学及び文化の研究並びに英語、英語教育の研究を深め、視野の広い総合力を持った高度な専門教育を行うことのできる人材の養成を目的とする。
- (5) 臨床心理学専攻は、複雑化した社会における人間関係の諸問題に対応する総合的な力を育成し、臨床心理士及び公認心理師としての高度な専門知識や技術を持ち、医療・教育・産業・司法等の社会のあらゆる領域で柔軟に対応し、適切な援助、介入及び研究のできる人材の養成を目的とする。

- (6) 教育福祉学専攻は、学校や地域社会の複雑化・複合化した諸問題について、生涯学習・社会教育、社会福祉学、心理学についての高度な専門知識や技術を修得し、人間関係を調整し、社会資源を有効に使い、問題解決を創造的に行うことができる高度専門的職業能力を備えた人材の養成を目指す。
- (7) 人間生活学専攻は、博士課程に相当し、人間生活をめぐる生活科学、社会科学、心理臨床学等の分野において、総合的、学際的視野にたつ人材を養成することを目的とし、自立した研究者養成のみならず確かな教育能力と高度な研究能力をもつ大学教員の育成をも図る。

8 アドミッションポリシー（入学者受入方針）

東京家政大学大学院

東京家政大学大学院は、平成元年に家政学研究科食物栄養学専攻並びに被服造形学専攻（修士課程）を開設し、平成4年より児童学専攻（修士課程）、同5年より人間生活学専攻（博士課程）、同8年には文学研究科英語英文学専攻、心理教育学専攻（修士課程）を設置し現在まで多くの修了生を送り出している。

平成24年度から、これまでの家政学研究科と文学研究科を人間生活学総合研究科に統合し、児童学児童教育学専攻、健康栄養学専攻、造形学専攻、英語・英語教育研究専攻、臨床心理学専攻、教育福祉学専攻（以上 修士課程）と、人間生活学専攻（博士課程）を設置した。

大学院の教育目的

本学大学院は、建学の精神に則り、大学での教育課程を基礎とし、高度にして専門的な学術の理論及び応用を研究教授し、その深奥をきわめ、広い視野に立って高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、広く社会と文化の発展に寄与することを目的にして、①学術研究の高度化と優れた研究者の養成、②高度専門職業人の養成、③教育研究を通じた国際貢献、の3点を共通の目標としている。

大学院のアドミッションポリシー

本学大学院は、東京家政大学の建学の精神と生活信条に基づき次のような人を求めている。

- ・ 自主自律の精神を持ち、人間の生活に関わる専門性の高い学術・実践・応用力を身につけ社会に貢献し活躍することを志す人
- ・ 現代の人間の生活に関わる諸問題に対し柔軟に対応し解決する高い知性と能力を修得し、社会に役立ちたいと努力する人
- ・ 世界的な広い視野を持ち、自己の幸福と社会の幸福とを合わせ願い行動することのできる心の豊かな人

○研究科の人材養成・教育目的およびアドミッションポリシー

人間生活学総合研究科は、家政学部と人文学部の内容と実績を基礎として、修士課程である児童学児童教育学専攻、健康栄養学専攻、造形学専攻、英語・英語教育研究専攻、臨床心理学専攻、教育福祉学専攻及び博士課程である人間生活学専攻において、大学院の教育目的にそった教育を行い高度な専門知識を持ち、それを土台とした研究能力、実践力を持つ人を育てることを人材養成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・児童学児童教育学専攻、健康栄養学専攻、造形学専攻、英語・英語教育研究専攻、臨床心理学専攻、教育福祉学専攻及び人間生活学専攻において修得した、高度でより専門的な知識ならびに資格・免許を活かして各方面で活躍したい人
- ・専門知識を学ぶだけでなく、それを土台に自分自身で考えさらに発展・深化させようとする人
- ・人間生活に関わる諸問題に対し、指導的立場で適切に対処し、実践・応用できる能力を涵養したい人
- ・知識だけでなく、その場に応じた柔軟な対応ができる実践力を身につけ、社会に貢献しようとする人

○修士課程 各専攻の入学受入方針（アドミッションポリシー）

*児童学児童教育学専攻

児童学児童教育学専攻では、現代社会における乳幼児、児童に関する問題を探究する研究者を育成するとともに、保育所、幼稚園、小学校などにおける研究的実践者を養成することを人材育成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・乳幼児や児童の問題に広く関心を持ち、創造性豊かな研究をする意欲を持った人
- ・保育、教育の現場において、乳幼児や児童の幸せや育ちを見据え、研究的実践の創造を志す人
- ・乳幼児や児童をめぐる社会の多様なニーズに対応できる専門性を磨く志を持つ人
- ・幼稚園、小学校の教員として専門性を深め専修免許取得を希望する人

*健康栄養学専攻

健康栄養学専攻では、摂食前の段階の「食品」から、食品を摂食する生体側の機能を研究し、少子高齢化社会に対応できるような高度専門職業人、教育指導者、研究者を養成する。そして地域住民の保健・医療・福祉の向上に寄与することを人材育成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・管理栄養士・栄養士養成施設における教育・研究に携わりたい人
- ・保健・医療・福祉・介護などの領域で地域栄養活動のリーダーとして活躍したい人

- ・企業や試験・研究機関等において栄養・商品開発等の研究分野に関わりたい人
- ・職業に就きながら、食物栄養に関する実践的な研究を通じて、高度な職業人としての能力を高めたい人

*造形学専攻

造形学専攻では、被服材料、被服管理、被服構成、服飾文化、造形、工芸の各分野において基礎を確かなものとし、高度な専門性を身につけることを人材養成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・専門分野の教育・研究機関や博物館、編集、美術・デザインなどの分野で活躍を希望する人
- ・家庭科の教員として専門性を深め専修免許取得を希望する人
- ・家政学の視点から深い専門性と教養を身につけたい人

*英語・英語教育研究専攻

英語・英語教育研究専攻は、国際化時代に対応できるコミュニケーション能力を養成し、英語圏文学・文化、英語学、英語教育に関する研究を深め、視野の広い総合力を持った人材育成、また英語教員として指導的な役割を果たす人材（小学校の英語教育のコア教員等を含む）を養成することを人材養成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・英語の実践能力を高めその機能を洗練させてより高度な職業人を目指そうとする人
- ・英語英文学作品を研究し、人間、社会、文化、歴史の仕組みについて理解を深めたい人
- ・英語という言語の仕組みやその歴史を体系的に学びたい人
- ・英語教育や言語習得について最新の情報を取り入れながら多角的に研究し、教育の現場で実践・活動したい人
- ・グローバル化によって急速に変化する世界のありように柔軟に対応し、積極的に社会貢献していこうとする好奇心、意欲、情熱を持つ人

*臨床心理学専攻

臨床心理学専攻では、心理カウンセリング学科の教育を基礎にして、さらに高度な専門知識を持ち、それを土台とした研究能力及び医療・教育・産業・司法などの分野における臨床実践力を持つ臨床心理士・公認心理師を育てることを人材養成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・基礎的な心理学の知識をベースに、高度の臨床心理学的なアセスメント、心理面接などの技法を修得できる学力、能力のある人
- ・科学的な思考と臨床的態度を身につけ、医療・教育・産業・司法などさまざまな領域で適切な援助、介入を行う意欲のある人
- ・心の問題や不適応行動のメカニズムや援助の在り方について研究したい人

*教育福祉学専攻

教育福祉学専攻では、生涯学習・社会教育分野、社会福祉分野、心理学分野を総合的に学び、地域社会や学校にあって人を支援するネットワークやチームワークのリーダーとして活躍できる人材を育てることを人材育成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・生涯学習・社会教育、社会福祉、心理学の各分野を幅広く学び、人の支援についての高度の研究をしたい人
- ・地域社会や学校で人を支援するネットワークやチームワークのリーダーとして実践したい人
- ・社会福祉や社会教育の分野ですでに仕事についている方で、スキルアップをはかりたい人

○博士課程の入学受入方針（アドミッションポリシー）

*人間生活学専攻

人間生活学専攻では、学部及び修士課程における教育を基盤とし、一層高度な教育を行うことによって、人間生活に関わる複雑な事象を理解し、真理を見出す能力を涵養することを目的としている。このような教育を通じて、現在の多様化、高度化する社会の要請に応えられる人材、当該専門分野の次代を担う人材を育てることを人材育成及び教育研究上の目的としている。

この目的に基づき、次のような人を求めている。

- ・人間生活に関連した分野の研究に強い熱意を有する人
- ・関連分野の高度な学識の修得に強い熱意を有する人

9 カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

大学院のカリキュラムは、大学院生が学位授与規程に相応しい能力を身につけられる学修・研究ができるために、コースワークとリサーチワークの観点から構成されている。

コースワークの特徴としては、新入生フレッシュマンセミナーにおいて各教科の授業の概要を説明し、懇談する機会を設けている。またフレッシュマンセミナーの実質化のため、大学院の教育・研究環境の特徴と大学院での学修、研修、フィールドワーク、充実した実りある大学院生活を送るための心構え、研究へのアプローチ法などをテーマとした、数名の教授と研究科長によるレクチャーが行われている。大学院共通科目として大学院に必須の基礎学力を教授する「アカデミック・ライティング」「論文作成のための統計解析入門」「プレゼンテーション論」を設け、単位認定後も大学院修了まで相談に応じている。大学院においては、視野の広い精深な学識を得るために専攻分野を超えて8単位まで他専攻の授業科目を履修できるようにしている。カリキュラム構成は全体として、特論（講義）、演習、実験・実習の構成となっており、理論的にも実証的・体験的にも学修できるようになっている。さらに新たな発展が期待できる分野においても、講義科目として開講し、社会の負託に応えられるよう多様な人材育成に対応している。科目の履修については研究指導者が相談に応じ、リサーチ活動と関連した適切な指導を受けることができる。

リサーチワークの特徴としては、入学試験時に研究計画書の提出を求め、面接試験で大学院での研究の抱負を尋ね、質疑する。入学後には、指導教員のもと、詳細な研究計画をたてた上で研究論文題目を提出している。また、論文中間発表においては、研究活動および成果の経過を多くの教員の前で発表し、プレゼンテーション技術と研究内容を深めると共に多様な視点からの批判を受け、指導教員の指導のもと、独善的・独りよがりの研究に陥らぬよう改善・修正できる。研究経過の中で論文題目の変更が必要となった場合は、専攻会議、専攻主任会議での審議を経て研究科委員会で承認し、適切な論文内容とそれを表す論文題目となるよう指導教員がサポートしている。リサーチは、結果を出して終わるのではなく、結果を発表し批判を受けて完成させていくものであり、本大学院は、プレゼンテーションの意義を高めるため学会などの外部での発表経験を重視しており、研究助成制度として必要経費の助成をしている。特別研究指導者には副指導者を認め、複数指導者による研究論文の充実にも努めている。研究機器や研究環境が学内で不十分となった場合は、研究科委員会で承認を受けた後、学外でのリサーチワークとして外部の研究所や研究機関で機器の借用及び個別の研究指導が受けられるようになっている。学位論文の審査においては、複数の副査を置き、予備審査を含む十分な審査期間のもと論文の構成と正確な文章表現なども含めて厳正に確認を行い、発表と質疑応答ならびに口頭試問で審査し、研究科全体の研究科委員会で合否を決定する。

本研究科修士課程は、コースワーク、リサーチワーク共に含めて、修業年限2年に限定せず、就業年限3年と4年の長期履修制度を設けている。また、博士課程は論文の学会誌掲載年限を考慮して、課程修了後1年間の学位授与審査の猶予を設けている。また、出産育児のために学業の継続が困難となった場合は、育児休学制度を設けている。

○修士課程の教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

*児童学児童教育学専攻

児童学児童教育学専攻の教育目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- ・「保育学」「保育実践学」「育児支援学」「子ども臨床学」「教育実践学」「学校教育学」の6つの区分から幅広く学ぶことにより、深い識見と広い視点にたって児童学、児童教育学の研究をすることができる力を育成するとともに、児童に関わる様々な分野で応用可能な知識を身につける。
- ・児童学、児童教育学の研究分野から、自分の専攻分野を選び、とくに「特別指導」を通して、その分野における研究の計画を作成し、研究をまとめていけるように充実した研究指導を行う。
- ・学校教育の場で、より高度な専門性をもって、幼児および児童の教育を行うことができる能力と技術を身につけるために、幼稚園教諭専修免許と小学校教諭専修免許を取得するための科目を開設する。

*健康栄養学専攻

健康栄養学専攻の教育目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- ・カリキュラムにおける分野別区分としての食品栄養調理科学分野，生命科学分野，実践研究分野における各授業科目を履修し，特別研究に対する修士論文作成のための研究手法を学ばせる。
- ・専任教員の指導のもと，企業，施設，病院などにおける豊富な実践体験を通じ，実践・応用力を修得させる。
- ・学内学外における研究発表の機会をもうけ，研究能力の向上をめざす。
- ・学校教育の場で，より高度な専門性をもって，家庭科の教育を行うことができる能力と技術を身につけるために，中学校教諭専修免許（家庭）と高等学校教諭専修免許（家庭）を取得するための科目を開設する。

*造形学専攻

造形学専攻の教育目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- ・カリキュラムにおける分野別区分として，服飾美術分野と造形表現分野における各授業科目を履修し，服飾美術分野では特別研究において被服科学，服飾造形学，服飾デザイン学等の研究を通じ修士論文作成のための研究手法を学ばせる。また，制作希望者においては，作品の課題研究を通じて研究能力の向上をめざす。学会等学外において発表の場を設ける。
- ・造形表現分野では，作品の制作活動を通して学内学外における発表の機会を設け研究能力の向上をめざす。論文作成志望者に対しては，美術史，造形教育，アートマネジメント等の研究を通じ，修士論文作成のための研究手法を学ばせる。
- ・服飾を科学とファッションの両面からとらえ，豊富な実験・実習を通して実践・応用力を修得させ，アパレル，教育界に高度の専門的知識と技能を持って貢献できる人材を育てる。
- ・造形表現の分野において，高度の専門的知識と技能を習得させ，創造性豊かな表現力をもって作家・高度専門職業人として自立した活動を行うことができる人材を育てる。
- ・学校教育の場で，より高度な専門性をもって，家庭科及び美術科の教育を行うことができる能力と技術を身につけるために，中学校教諭専修免許（家庭）・中学校教諭専修免許（美術）と高等学校教諭専修免許（家庭）・高等学校教諭専修免許（美術）を取得するための科目を開設する。

*英語・英語教育研究専攻

英語・英語教育研究専攻の教育目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- ・英語に関わる広範囲な分野において，高度な専門知識を身につけさせ，幅広く深い視野に立って高度で独創的な研究を進めるための能力を育成するため，英語・英語文学分野には，言語学系，文学系，文化研究系等の諸科目を設置する。

- ・外国語教育に関わる高度な専門知識を身に付けさせ、幅広く深い視野に立って高度で独創的な研究を進めるための能力を育成するため、英語教育分野には、第二言語習得研究や英語指導理論や教育課程研究に関わる諸科目を設置する。
- ・両分野に共通する、研究論文執筆に必要な高度な英語表現技能を獲得させる。
- ・健全な理論に基づいた適切な研究手続きに従った調査、研究等を計画し実施できる技術と能力を獲得させ、研究成果の発表、さらに修士論文の完成に向けて、専任教員が充実した個別指導を行う。
- ・関心を持つ分野の知識に加え、高度な専門性をもって、学校現場における英語科教育を行うことができる能力と技術を身につけるために、中学校教諭専修免許（英語）と高等学校教諭専修免許（英語）を取得するための科目を開設する。

*臨床心理学専攻

臨床心理学専攻の教育目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- ・統計学、研究法、認知心理学などに関わる基礎科目の修得および心理臨床学の分野を修得し、幅広く深い視野に立って、高度かつ独創的な研究を行う能力を育成する。
- ・学外及び学内施設における豊富な実践体験を通じ、心理臨床に必要な技法を身に付け、かつ専任教員によるスーパービジョンを受ける。
- ・専攻分野の研究計画を策定し、それを可能にする理論的・実践的研究能力及び研究成果を発表できる能力を身につけさせることを目的として、個別指導を中心とした研究指導を行う。
- ・学校教育の場において、高度な専門性をもって、公民科の教育を行うことができる能力と技術を身につけるために、高等学校教諭専修免許（公民）を取得するための科目を開設する。

*教育福祉学専攻

教育福祉学専攻の教育目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- ・心理学、社会教育・生涯学習、社会福祉に関わる各分野の基礎・中心となる特論科目を履修し、いずれかの分野の専門性を高めると同時に、隣接分野の知識・技術が得られるよう指導する。
- ・関心を持つ分野の知識に加え、幅広く深い視野に立った、高度かつ独創的な研究活動や、実践的な課題解決に向けた検討が行えるよう、研究方法の理解を図り、専門分野の研究計画を作成し、それを可能にする理論的実践的研究能力を身につけさせ、研究発表に向けて個別指導を充実させた研究指導を行う。
- ・学校教育の場において、より高度な専門性をもって公民科の教育を行うことができる能力と技術を身につけるために、高等学校教諭専修免許（公民）を取得するための科目を開設する。

○博士課程の教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

- ・人間生活に関わる総合的・学際的研究のために、各分野の専門科目を置く。
- ・各専門分野の研究の集大成として、研究計画に基づいた指導のもとで、本学学位規程に定められた基準の博士論文を課す。

*人間生活学専攻

人間生活学専攻の教育目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

- ・修士課程における教育の成果をふまえ、それを一層高度化、深化させるのみならず、広く人間生活を総合科学として捉えることのできる能力の涵養を目的とし、講義、実験などを通じて教育・研究指導を行う。

10 ディプロマポリシー（学位授与方針）

○研究科の学位授与方針（ディプロマポリシー）

人間生活学総合研究科では、東京家政大学家政学部、栄養学部と人文学部での基礎的知識を基盤とし、家政学分野と人文学分野での精深な学識と高度な専門知識を有し、それを基盤に独創的に発展させることができる研究能力と豊かな創造力、応用できる実践力を備えた研究者、教育者、及び専門職業人としての能力を修得し、得られた成果を学会・研究会などで発表し、学位論文、研究成果として明示させたものに、博士（学術）及び修士（家政学）、修士（健康栄養学）、修士（文学）、修士（心理学）、修士（学術）の学位を授与する。

○修士課程の学位授与方針（ディプロマポリシー）

*児童学児童教育学専攻

児童学児童教育学専攻では、現代社会における乳幼児、児童に関する問題を探究する研究者を育成するとともに、保育所、幼稚園、小学校などにおける研究的実践者を養成することを人材育成及び教育研究上の目的とし、以下の学識・能力を有するに至ったものに修士（家政学）の学位を授与する。

- ・乳幼児や児童の問題に広く関心を持ち、知識を深め、創造性豊かな研究を進めることができる。
- ・保育、教育の現場において、乳幼児や児童の幸せや育ちを見据え、研究的実践の創造に寄与できる。
- ・乳幼児や児童をめぐる社会の多様なニーズに対応できる専門性を身につけている。

*健康栄養学専攻

健康栄養学専攻では、少子高齢化社会に対応できる中央及び地域の保健・医療・教育・福祉の

向上に寄与すると共に、我が国の産業の発展に貢献することのできる高度専門的職業人、教育指導者、研究者の養成を目的とし、以下の学識・能力を有するに至ったものに修士（健康栄養学）の学位を授与する。

- ・専門分野における高度な知識・技術を修得し、探究・研究能力及び課題解決能力を有する。
- ・食品調理栄養科学分野，生命科学分野，及び実践研究分野を広く深く理解し，豊かな専門的能力を修得している。
- ・社会や文化に対する幅広い見識を有するとともに，専攻分野にその見識を活かせる探究・研究課題解決能力が認められる。
- ・管理栄養士・栄養士，地域栄養・食育活動のリーダーとして実地に役立つ実践的指導力が育成されている。

* 造形学専攻

造形学専攻では、服飾美術分野（被服科学，服飾造形学，服飾デザイン学）においては、衣服の美的・機能的側面の追究を通して、また造形表現分野（メディア表現，表現と社会，美術史，工芸，平面表現，空間表現）においては生活美術の追究を通して、産業や教育，創作などの場面における有為な人材の養成を目的とし、以下の学識・能力を有するに至ったものに修士（家政学）の学位を授与する。

- ・服飾美術及び造形表現の分野において，高度の専門的知識を修得している。
- ・服飾美術及び造形表現の分野において，高度の実践力，技能を身につけている。

* 英語・英語教育研究専攻

英語・英語教育研究専攻では、国際化時代に対応できるコミュニケーション能力を養成し、英語学，英語文学，英語文化に関する研究や，英語教育実践の方法，言語習得理論等の英語教育学に関する研究能力を有した視野の広い総合力を持った人材の養成を目的として，以下の学識・能力を有するに至ったものに修士（文学）の学位を授与する。

- ・高度なコミュニケーション能力，論理的思考，共感的理解力を身につけている。
- ・英語の実践的能力を高め，これによって国際的に活躍することが期待できる。
- ・英語という言語の仕組みやその歴史を体系的に学んでいる。
- ・英語文学作品を研究し，人間，社会，文化，歴史の仕組みについて理解を深めている。
- ・英語教育学や言語習得理論の最新の情報を取り入れながら多角的に研究し理解を深めている。
- ・研究の成果を生かし，高度職業人として教育の現場で指導的教育実践活動ができる。

* 臨床心理学専攻

臨床心理学専攻では、高度かつ独創的な研究をおこなう能力を身につけ、心理臨床に関する理論と知識を駆使して、心理的な問題を抱えた人に対する援助や組織・集団を心理学的に支援す

ることができる実践力を身につけた人材の養成を目的とし、以下の学識・能力を有するに至った者に修士（心理学）の学位を授与する。

- ・臨床心理士・公認心理師としての人間性と広い視野を有する。
- ・臨床心理士・公認心理師としての必要な理論と実践能力を身につけている。
- ・研究成果を学会などで発表し、学術論文として公表できる研究能力を備えている。
- ・身につけた専門的知識と総合的判断力を生かして、臨床心理士・公認心理師として活躍できる資質と能力が備わっている。

*教育福祉学専攻

教育福祉学専攻では、高度かつ独創的な研究をおこなう能力を身につけ、生涯学習・社会教育分野、社会福祉分野、心理学分野を総合的に学び、高度な専門知識や技術に精通し、地域社会や学校にあって人を支援するネットワークやチームワークのリーダーとして活躍できる人材の養成を目的とし、以下の学識・能力を有するに至ったものに修士（学術）の学位を授与する。

- ・心理学を基礎に、社会教育・生涯学習、社会福祉の現場におけるリーダー（高度専門職業人）としての人間性と広い視野を有する。
- ・心理、教育、福祉に関わる現場のリーダー（高度専門職業人）として、必要な理論と実践能力を身につけている。
- ・研究成果を学会などで発表し、学術論文として公表できる研究能力を備えている。あるいは、職場等の活躍する場において、問題を発見し、課題を分析し、問題解決に寄与できる知識・技術、課題解決能力を備えている。
- ・身につけた専門的知識と総合的判断力を生かして、心理、教育、福祉の現場のリーダー（高度専門職業人）として活躍できる資質と能力が備わっている。

○博士課程の学位授与方針（ディプロマポリシー）

*人間生活学専攻

人間生活学専攻では、自らの専門領域については言うまでもなく、関連分野を含めた広い領域についても大きな関心をもって勉学に努め、人間生活をめぐる心理臨床学、生活科学、社会科学の分野において、総合的、学際的視野にたつ人材の養成を目的とし、以下の学識・能力を有するに至ったものに博士（学術）の学位を授与する。

- ・自らの専門領域について深い学識と理解を有し、研究者・高度専門職業人として自立した活動をすることができる。
- ・新しい課題を解決することができる優れた研究能力を有することが、自らの研究成果によって証明できる。

11 教職課程の履修

大学において高等学校教諭（家庭），（美術），（英語），（公民）・中学校教諭（家庭），（美術），（英語）・小学校教諭及び幼稚園教諭の一種免許状を取得している者で，高等学校教諭（家庭），（美術），（英語），（公民）・中学校教諭（家庭），（美術），（英語）・小学校教諭及び幼稚園教諭の専修免許状を取得しようとする者は，教職課程に認定されている授業科目を24単位以上を履修しなければならない。

本学研究科において取得できる免許状は，次のとおりとする。

児童学児童教育学専攻	小学校教諭専修免許状 幼稚園教諭専修免許状
健康栄養学専攻	高等学校教諭専修免許状（家庭） 中学校教諭専修免許状（家庭）
造形学専攻	高等学校教諭専修免許状（家庭） 中学校教諭専修免許状（家庭） 高等学校教諭専修免許状（美術） 中学校教諭専修免許状（美術）
英語・英語教育研究専攻	高等学校教諭専修免許状（英語） 中学校教諭専修免許状（英語）
臨床心理学専攻	高等学校教諭専修免許状（公民）
教育福祉学専攻	高等学校教諭専修免許状（公民）

12 臨床心理士・公認心理師（臨床心理学専攻）

1. 臨床心理士

(1) 臨床心理士の受験資格

臨床心理士に関しては，（財）日本臨床心理士資格認定協会による所定の規定（「臨床心理士」受験資格に関する大学院指定運用内規）により，その資格認定指定大学院研究科の専攻において，所定の科目および単位を修得した者がその受験資格を得る，とされている。

本大学院は，文学研究科心理教育学専攻（臨床心理学コース）が平成14年度から「臨床心理士指定第一種大学院」に指定され，人間生活学総合研究科臨床心理学専攻も引き続き，第一種大学院の指定を受けており，臨床心理学専攻を修了した者は，臨床心理士資格審査の受験有資格者となる。

(2) 必要履修科目、単位とその修得

上記の規定により、以下に示す科目および単位の修得がその受験資格として求められている。

1) 開設科目及び単位

臨床心理学専攻での開設科目は、次のとおりである。

必修科目・単位：	臨床心理学特論	4単位
	臨床心理学面接特論Ⅰ	2単位
	臨床心理学面接特論Ⅱ	2単位
	臨床心理査定演習Ⅰ	2単位
	臨床心理査定演習Ⅱ	2単位
	臨床心理基礎実習	(2)単位
	臨床心理実習Ⅰ	(1)単位
	臨床心理実習Ⅱ	(1)単位
選択必修科目・単位：	A群 臨床心理統計法特論	4単位
	臨床心理学研究法特論	2単位
	B群 人格心理学特論	2単位
	認知心理学特論	2単位
	C群 社会病理学特論	2単位
	家族心理学特論	2単位
	D群 精神医学特論	2単位
	心身医学特論	2単位
	障がい児・者心理学特論	2単位
	E群 グループ・アプローチ特論	2単位
	発達臨床心理学特論	2単位

2) 修得方法

上記開設科目のうち、必修科目から8科目16単位、選択必修科目群（A、B、C、D、E）からそれぞれ2単位以上、計10単位以上、合計26単位以上を修得する。

必修科目・選択必修科目E群は、他の専攻からは受講できない。

3) 実習について

臨床心理基礎実習は1年次に、臨床心理実習Ⅰ・Ⅱは1年次10月より2年次にまたがって開講される。

(3) 修士論文のテーマ・内容

上記の規定により、「修士論文のテーマと内容が臨床心理学に関するものであること」が求められている。

2. 公認心理師

(1) 公認心理師の受験資格

公認心理師に関しては、公認心理師法に基づき、①～⑩の科目分野に含まれる科目を少なくとも1科目ずつ履修していれば、受験資格が得られる。

(2) 必要履修科目、単位とその修得

臨床心理学専攻での開設科目は、次の通りである。

I. 主な職域の相談、助言、指導、その他援助に関する科目

- | | | |
|------------------------------|-----|-----|
| ① 精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開） | 2単位 | 必修※ |
| 心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開） | 2単位 | 必修※ |

※いずれか1科目必修

- | | | |
|---------------------------------|-----|----|
| ② 障がい児・者心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開） | 2単位 | 選択 |
| ③ 学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開） | 2単位 | 選択 |
| ④ 社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開） | 2単位 | 選択 |
| ⑤ 産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開） | 2単位 | 選択 |

II. 観察分析、相談、助言、指導、その他の援助等についての理論科目

- | | | |
|--|-----|----|
| ⑥ 臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践） | 2単位 | 選択 |
| ⑦ 臨床心理学面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践） | 2単位 | 選択 |
| ⑧ 家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践） | 2単位 | 選択 |
| ⑨ 生徒指導・教育相談・キャリア教育（心の健康教育に関する理論と実践） | 2単位 | 選択 |

III. 心理実践実習（450時間以上）

- | | | |
|-------------------|-------|----|
| ⑩ 臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習） | (1)単位 | 必修 |
|-------------------|-------|----|

13 大学院生研究助成制度

1. 人間生活学総合研究科に、大学院生の学会発表を奨励することを目的として、平成24年4月1日から、以下の大学院生研究助成制度を設ける。

- (1) 大学院生が国内の学会で発表者（講演者）として学会に参加する場合、学会参加費、交通費（学割額）、宿泊費等を全額助成する。
- (2) 大学院生が上記以外で国内の学会に参加する場合、学会参加費、交通費（学割額）、宿泊費等を年1回、3万円を限度として助成する。
- (3) 大学院生が海外の学会で発表者（講演者）として学会に参加する場合、学部の基準に準じ、学会参加費については全額、交通費（学割額）、宿泊費等の旅費については50%以内を助成する。
- (4) 助成する経費の範囲等については、国内出張規程（助手相当）に準じた学会参加費、交通費、宿泊費等の実費とする。なお、交通費は学割額とし、日当は除く。

- (5) 造形学専攻在学生の制作における、審査のある国内の作品展への出品および大学院生個人による自主的な国内での作品展を、国内学会での発表相当とみなし、出品料、運搬費等を、学会参加費、交通費等と同様に研究経費助成の対象とする。

審査のない国内の作品展への出品は、国内学会への参加と、審査のある海外の作品展への出品は、海外学会での発表とみなす。

出品料、作品運搬費等の助成申請金額の妥当性については、必要に応じ助成金額の是正を行うことがある。

- (6) 大学院生研究助成は、大学院生が所定の申請書に研究指導者の承認印を得て研究科長宛申請し、専攻主任会議、研究科委員会の承認により助成の可否を決定する。

造形学専攻の出品料、運搬費等の助成金申請金額の妥当性は、専攻主任会議で検討し、研究科委員会で決定する。

2. その他

- (1) 2回目以降の国内学会参加経費、助成対象外の海外学会発表経費についても一定の予算枠内で経費助成される制度がある。
- (2) 研究助成等の経費申請書の記入方法、経費支払手続方法等については、別途、大学院事務室から連絡する。

14 東京家政大学大学院の院生に関する出産・育児休学取扱内規

1. 本学大学院の学生が、就学中に出産および1歳未満の子の育児のために就学が困難となった時には、就学時出産休学及び就学時育児休学を認める。この場合、当該休学の後、復学する予定となるものに限られる。

出産休学および育児休学の対象期間は、出産予定の6週間前から当該育児対象の子が1歳に到達する日までの間で、当該年度の半期単位の枠で取得することができる。

2. 上記の休学期間は、授業料、施設設備維持充実費等の学納金は免除される。但し、学生証の発行等学事関連諸経費は実費徴収とする。
3. その他の事項については、大学院学則による。

15 大学院生の学会発表, 学外研究活動

令和3 (2021) 年度 東京家政大学 大学院生 学会発表、学会参加

学会名	発表テーマ
2021年繊維学会年次大会 オンライン開催 R3.6.9～R3.6.11	TEMPO酸化セルロースナノクリスタル加工布の消臭性能
日本災害食学会2021年度学術大会 オンライン開催 R3.8.21	災害支援者の精神的ストレス状態と食事状態との関連
日本食品科学工学会第68回大会 オンライン開催 R3.8.26～R3.8.28	高溶解性ゼラチン摂取後にヒト血中に吸収するペプチド種の分析
	マウス種によって異なるコラーゲンペプチドによる皮膚創傷治癒促進効果
	シナモンおよびカシアの香気成分比較による産地判別方法に関する研究 第2報
日本調理科学会2021年度大会 オンライン開催 R3.9.7～R3.9.8	起泡卵白添加大麦粉蒸しパンの膨化性および嗜好性
日本パーソナリティ心理学会 第30回大会 オンライン開催 R3.9.25～R3.9.26	向社会的行動の自発性が幸福感に及ぼす影響－対人的満足感・対人的自己効力感を媒介としたモデルに向けて－
	HSP傾向と対人ストレスコーピングの関連
	大学生・大学院生の自殺に対する態度とレジリエンスの関連
	自己の可変性信念のあり方および形成要因と適応状態の関連
日本食品衛生学会第117回学術講演会 オンライン開催 R3.10.26～R3.11.2	牛乳のオフフレーバー物質2-Iodo-4-methylphenol発生防御に関する研究
日本描画テスト・描画療法学会 第30回大会 オンライン開催 R3.11.5～R3.12.24	雨中人物画に表現される発達障碍児のストレス対処特徴
日本食生活学会第63回大会(盛岡市) R3.11.6～R3.11.7	HPLCを用いた魚由来EPA・DHAの定量
日本健康心理学会第34回大会 オンライン開催 R3.11.15～R3.11.21	顕在/潜在的自尊心と自我脅威場面における攻撃行動の特徴
	女子大学生の困り感と援助要請スタイル, ソーシャルスキル関連
	女子大学生におけるネット依存度と自己分化度及びネガティブライフイベントに対する脆弱性との関連

学会名	発表テーマ
第59回高分子と水に関する討論会 (高分子学会) オンライン開催 R3.12.3	綿布への酸化セルロースナノクリスタル吸着量と消臭性能の関係
日本家政学会関東支部主催 第24回家政学関連卒業論文・修士論文発表会 オンライン開催 R4.2.11	災害支援者を対象とした健康・食事状況に関する研究～精神的ストレスと食事量の変化との関連～
日本食品科学工学会 令和4年度関東支部大会 オンライン開催 R4.3.5	ウコン中の香気成分の解析によるウコンの食品素材の探求
第14回日本医療教授システム学会 総会学術集会 オンライン開催 R4.3.17～R4.3.18	放課後児童支援員を対象にした児童の緊急時対応のe-ラーニング教材の開発

その他参加学会

日本家政学会、日本栄養改善学会、日本心理臨床学会、日本災害医学会

令和3（2021）年度 東京家政大学 大学院生 学外研究活動

論文関係調査・技術指導他	研究所（国立）、企業、国立大学、実験・測定調査、面接調査、アンケート調査、インタビュー調査
学外実習	国立病院、私立大学病院、私立病院、クリニック、教育支援センター、適応指導教室、福祉園
講習会	学会等ワークショップ・セミナー、学会研修会
学外授業	美術館見学
インターンシップ	官公庁

B. 令和4（2022）年度教育課程表
各専攻の授業科目，単位数，担当教員

1 修士課程

(1) 児童学児童教育学専攻

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考
保育学分野	保育学特論	2	選	教授 榎沢良彦	幼専
	保育学演習	2	選	教授 戸田雅美	幼専
	保育史特論	2	選	講師(兼任) 小久保圭一郎	幼専
	保育心理学特論	2	選	准教授 堀科	幼専
	児童文化特論	2	選	教授 是澤優子	幼・小専
	児童文化演習	2	選	准教授 森田浩章	幼・小専
保育実践学分野	保育実践演習	2	選	教授 戸田雅美	幼専
	障がい児保育特論	2	選	講師(兼任) 山田陽子	幼専
	保育マネジメント特論	2	選	講師(兼任) 田澤里喜	幼専
	保育内容実践研究(環境)	2	選	教授 大澤力	幼専
	保育内容実践研究(ことば)	2	選	教授 戸田雅美	幼専
	保育内容実践研究(表現)	2	選	教授 花輪充	幼専
	保育内容実践研究(健康)	2	選	兼任講師 鈴木隆	幼専
育児支援学分野	育児支援学特論	2	選	講師(兼任) 太田光洋	
	育児支援学演習	2	選	講師(兼任) 太田光洋	
	児童福祉学特論	2	選	教授 岩崎美智子	
	児童福祉学演習	2	選	准教授 松本なるみ	
	保育カウンセリング特論	2	選	准教授 武田洋子	幼専
	保育相談演習	2	選	教授 金城悟	幼専
	家族関係学特論	2	選	兼任講師 平野順子	
子ども臨床学分野	子ども臨床学特論	2	選	教授 宮島祐崇 准教授 阿部	幼専
	子ども臨床学演習	2	選	非開講	幼専
	小児健康保健学特論	2	選	兼任講師 及川郁子	幼・小専
	小児健康保健学演習	2	選	教授 高野貴子 准教授 細井香	幼・小専
	発達心理学特論	2	選	准教授 野口隆子	幼専
	子ども芸術療法特論	2	選	教授 池森隆虎 准教授 保坂遊子 佐藤邦子	幼専
	子ども芸術療法演習	2	選	教授 池森隆虎 准教授 保坂遊子 佐藤邦子	幼専

区分	授 業 科 目	単位数	必選別	担 当 教 員	備 考
教育実践学分野	教育実践演習(国語)	2	選	教 授 阿 部 藤 子	小専
	教育実践演習(算数)	2	選	教 授 石 田 淳 一	小専
	教育実践演習(社会)	2	選	准教授 二 川 正 浩	小専
	教育実践演習(理科)	2	選	教 授 大 澤 力	小専
	教育実践演習(音楽)	2	選	教 授 笹 井 邦 彦	小専
	教育実践演習(図画工作)	2	選	教 授 結 城 孝 雄	小専
	教育実践演習(家庭)	2	選	兼任講師 平 野 順 子	小専
学校教育学分野	教 育 学 特 論	2	選	講師(兼任) 藤 井 穂 高	幼・小専
	教 育 心 理 学 特 論	2	選	教 授 平 山 祐 一 郎	幼・小専
	学 級 経 営 特 論	2	選	教 授 半 澤 嘉 博	幼・小専
	道 徳 教 育 演 習	2	選	教 授 走 井 洋 一	幼・小専
	特 別 支 援 教 育 演 習	2	選	教 授 半 澤 嘉 博	幼・小専
	情 報 処 理 演 習 I	2	選	兼任講師 佐 藤 隆 弘	幼・小専
	情 報 処 理 演 習 II	2	選	教 授 平 山 祐 一 郎	幼・小専
研 究 指 導	特 別 研 究	10	必	教 授 花 輪 充 岩崎美智子 岩立 京子 榎沢 良彦 大澤 力 是澤 優子 笹井 邦彦 高野 貴子 戸田 雅美 走井 洋一 半澤 嘉博 平山祐一郎 宮島 祐 結城 孝雄 准教授 阿部 崇 武田 洋子 野口 隆子 細井 香 堀 科 森田 浩章	

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

※研究指導については、専攻・教員により受入れが認められれば、上記の教員の他、本学短期大学部在籍教員及び大学院客員教授による副指導を受けることができる。なお、短大教員、大学院客員教授による副指導を希望する場合は、必ず、希望教員の研究室訪問により受入の了承を得ること。

(2) 健康栄養学専攻

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考	
食品栄養調理科学分野	食品学特論	2	選	非開講	中・高専	
	食品学演習	2	選	非開講	中・高専	
	食品機能学特論	2	選	兼任講師 重村泰毅	中・高専	
				講師(兼任) 高尾哲也		
	食品機能学演習	2	選	兼任講師 重村泰毅	中・高専	
	食品機能学実験	1	選	兼任講師 重村泰毅	中・高専	
	食品応用学演習	2	選	講師(兼任) 高尾哲也	中・高専	
	H A C C P 特論	2	選	講師(兼任) 森田幸雄	中・高専	
	H A C C P 演習	2	選	講師(兼任) 森田幸雄	中・高専	
	食安全学特論	2	選	教授 佐藤吉朗	中・高専	
	食安全学演習	2	選	教授 佐藤吉朗	中・高専	
	食品産業特論	2	選	教授 鍋谷浩志	中・高専	
	食品産業演習	2	選	教授 鍋谷浩志	中・高専	
	発酵食品学特論	2	選	客員教授 宮尾茂雄	中・高専	
	食品開発学特論	2	選	講師(兼任) 笠松千夏		
				講師(兼任) 笠設樂弘之		
	調理科学	食品プロセス科学特論	2	選	准教授 赤石記子	中・高専
		食品評価特論	2	選	客員教授 峯木眞知子 准教授 赤石記子	中・高専
		調理科学特論	2	選	教授 小林理恵	中・高専
		調理科学演習	2	選	教授 小林理恵	中・高専
		調理科学実験	1	選	講師(兼任) 永塚規衣	中・高専
		官能評価論演習	2	選	客員教授 峯木眞知子	中・高専
	栄養学	分子栄養学特論	2	選	非開講	中・高専
		分子栄養学演習	2	選	兼任講師 林 あつみ	中・高専
		分子栄養学実験	1	選	兼任講師 林 あつみ	中・高専
		病態栄養学特論	2	選	非開講	中・高専
		病態栄養学演習	2	選	非開講	中・高専
臨床栄養学特論		2	選	教授 澤田めぐみ	中・高専	
臨床栄養学演習		2	選	教授 澤田めぐみ	中・高専	
臨床栄養学実験		1	選	教授 澤田めぐみ	中・高専	
スポーツ栄養学特論	2	選	講師(兼任) 川野 因			
生命科学分野	生命情報科学特論	2	選	教授 藤森文啓	中・高専	
	生命情報科学演習	2	選	教授 藤森文啓	中・高専	
	生命情報科学実験	1	選	教授 藤森文啓	中・高専	
	生理学・病態生理学特論	2	選	教授 太田一樹	中・高専	
	生理学・病態生理学演習	2	選	教授 太田一樹	中・高専	
	生理学・病態生理学実験	1	選	教授 太田一樹	中・高専	

区分	授 業 科 目	単位数	必選別	担 当 教 員	備 考
生命科学分野	生 化 学 特 論	2	選	教 授 大 西 淳 之	中・高専
				教 授 小 西 康 子	
	生 化 学 演 習	2	選	教 授 大 西 淳 之	中・高専
				教 授 小 西 康 子	
	生 化 学 実 験	1	選	教 授 大 西 淳 之	中・高専
	食 品 機 器 分 析 化 学 特 論	2	選	教 授 池 田 壽 文	中・高専
	食 品 機 器 分 析 化 学 演 習	2	選	教 授 池 田 壽 文	中・高専
	食 品 機 器 分 析 化 学 実 験	1	選	教 授 佐 藤 吉 朗	中・高専
				教 授 池 田 壽 文	
	代 謝 栄 養 学 特 論	2	選	教 授 尾 形 真 規 子	中・高専
	代 謝 栄 養 学 演 習	2	選	教 授 尾 形 真 規 子	中・高専
公 衆 衛 生 学 特 論	2	選	非開講	中・高専	
公 衆 衛 生 学 演 習	2	選	非開講	中・高専	
公 衆 衛 生 学 実 験	1	選	非開講	中・高専	
実践研究分野	臨 床 栄 養 学 栄 養 療 法 特 論	2	選	講 師 (兼 任) 勝 川 史 憲	中・高専
	臨 床 栄 養 学 栄 養 療 法 演 習	2	選	教 授 田 中 寛	中・高専
	N S T 特 論	2	選	講 師 (兼 任) 佐 藤 弘	中・高専
	保 健 医 療 福 祉 シ ス テ ム 学 特 論	2	選	教 授 和 田 涼 子	中・高専
				講 師 (兼 任) 蓮 村 友 樹 久	
	保 健 医 療 福 祉 シ ス テ ム 学 演 習	2	選	教 授 和 田 涼 子	中・高専
	公 衆 栄 養 学 特 論	2	選	非開講	中・高専
	公 衆 栄 養 学 演 習	2	選	講 師 (兼 任) 梶 忍	中・高専
				講 師 (兼 任) 秦 希 久 子	
	給 食 経 営 学 マ ネ ジ メ ン ト 特 論	2	選	講 師 (兼 任) 名 倉 秀 子	中・高専
	給 食 経 営 学 マ ネ ジ メ ン ト 演 習	2	選	講 師 (兼 任) 榎 本 真 理	中・高専
ロ コ モ ・ フ レ イ ル 特 論	2	選	教 授 清 水 順 市		
ロ コ モ ・ フ レ イ ル 演 習	2	選	教 授 齊 藤 展 士		
			教 授 准 教 授 清 水 順 市 樹 磯 直 樹		
ニ ュ ー ロ リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 特 論	2	選	教 授 下 田 信 明 誠		
研究指導	特 別 研 究	10	必	教 授 藤 森 文 啓 池 田 壽 文 太 田 一 樹 大 西 淳 之 尾 形 真 規 子 小 西 康 子 小 林 理 恵 佐 藤 吉 朗 澤 田 め ぐ み 清 水 順 市 鈴 木 誠 鍋 谷 浩 志 准 教 授 赤 石 記 子	

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

※研究指導については、専攻・教員により受入れが認められれば、上記の教員の他、本学短期大学部に在籍教員及び大学院客員教授による副指導を受けることができる。なお、短大教員、大学院客員教授による副指導を希望する場合は、必ず、希望教員の研究室訪問により受入の了承を得ること。

(3) 造形学専攻

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考	
服飾美術分野	被服科学	被服材料学特論	2	選	教授 濱田仁美	中・高専(家庭)
		被服材料学演習	2	選	教授 濱田仁美	中・高専(家庭)
		被服管理学特論	2	選	教授 葛原亜起夫	中・高専(家庭)
		被服管理学演習	2	選	教授 葛原亜起夫	中・高専(家庭)
		繊維加工学特論	2	選	客員教授 森俊夫	中・高専(家庭)
		繊維加工学演習	2	選	客員教授 森俊夫	中・高専(家庭)
		被服科学実験	1	選	教授 濱田仁美	中・高専(家庭)
	服飾造形学	被服構成学特論	2	選	教授 潮田ひとみ	中・高専(家庭)
					教授 高水伸子	
		被服構成学演習	2	選	教授 潮田ひとみ	中・高専(家庭)
					教授 高水伸子	
		被服構成学実験	1	選	教授 潮田ひとみ	中・高専(家庭)
					教授 高水伸子	
		アパレル設計学特論	2	選	准教授 田中早苗	中・高専(家庭)
		アパレル設計学演習	2	選	准教授 田中早苗	中・高専(家庭)
		和服造形学特論	2	選	准教授 寺田恭子	中・高専(家庭)
		和服造形学演習	2	選	准教授 寺田恭子	中・高専(家庭)
	服飾工芸演習	2	選	准教授 大塚有里	中・高専(家庭)	
	服飾デザイン学	服飾文化史特論	2	選	准教授 沢尾 絵	中・高専(家庭)
		服飾文化史演習Ⅰ	2	選	准教授 沢尾 絵	中・高専(家庭)
		服飾文化史演習Ⅱ	2	選	准教授 沢尾 絵	中・高専(家庭)
		染織史特論	2	選	講師(兼任) 須藤良子	中・高専(家庭)
		ファッション情報学特論	2	選	非開講	中・高専(家庭)
		ファッション情報学演習	2	選	非開講	高専(家庭)
		服飾デザイン特論	2	選	教授 石田恭嗣	中・高専(家庭)
		服飾デザイン演習	2	選	教授 石田恭嗣	中・高専(家庭)
		色彩表現論	2	選	教授 石田恭嗣	中・高専(家庭)
服飾デザイン表現演習	2	選	教授 桃木美恵	中・高専(家庭)		
造形表現分野	メディア表現	デジタルデザイン特論	2	選	准教授 宮本真帆	中・高専(美術)
		デジタルデザイン演習Ⅰ	2	選	准教授 宮本真帆	中・高専(美術)
		デジタルデザイン演習Ⅱ	4	選	准教授 宮本真帆	中・高専(美術)
		映像メディアアート特論	2	選	教授 兼古昭彦	中・高専(美術)
		映像メディアアート演習Ⅰ	2	選	教授 兼古昭彦	中・高専(美術)
	映像メディアアート演習Ⅱ	4	選	教授 兼古昭彦	中・高専(美術)	
	表現と社会	育ちのための表現特論	2	選	教授 岡田京子	中・高専(美術)
		育ちのための表現演習Ⅰ	2	選	教授 岡田京子	中・高専(美術)
育ちのための表現演習Ⅱ		4	選	教授 岡田京子	中・高専(美術)	

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考	
造形表現分野	美術史	美術史特論	2	選	准教授 和田 菜穂子	中・高専(美術)
		美術史演習Ⅰ	2	選	准教授 和田 菜穂子	中・高専(美術)
		美術史演習Ⅱ	4	選	准教授 和田 菜穂子	中・高専(美術)
	工芸	陶芸特論	2	選	教授 高田 三平	中専(美術)
		陶芸演習Ⅰ	2	選	教授 高田 三平	中専(美術)
		陶芸演習Ⅱ	4	選	教授 高田 三平	中専(美術)
		金工・ジュエリー特論	2	選	教授 押元 信幸	中専(美術)
		金工・ジュエリー演習Ⅰ	2	選	教授 押元 信幸	中専(美術)
		金工・ジュエリー演習Ⅱ	4	選	教授 押元 信幸	中専(美術)
		染色造形特論	2	選	教授 早瀬 郁恵	中専(美術)
		染色造形演習Ⅰ	2	選	教授 早瀬 郁恵	中専(美術)
		染色造形演習Ⅱ	4	選	教授 早瀬 郁恵	中専(美術)
		織物特論	2	選	講師 大木 敦子	中専(美術)
		織物演習Ⅰ	2	選	講師 大木 敦子	中専(美術)
		織物演習Ⅱ	4	選	講師 大木 敦子	中専(美術)
	平面表現	絵画特論	2	選	准教授 山藤 仁	中・高専(美術)
		絵画演習Ⅰ	2	選	准教授 山藤 仁	中・高専(美術)
		絵画演習Ⅱ	4	選	准教授 山藤 仁	中・高専(美術)
		グラフィックデザイン特論	2	選	教授 有馬 十三郎	中・高専(美術)
		グラフィックデザイン演習Ⅰ	2	選	教授 有馬 十三郎	中・高専(美術)
		グラフィックデザイン演習Ⅱ	4	選	教授 有馬 十三郎	中・高専(美術)
空間表現	住環境特論	2	選	教授 手嶋 尚人	中・高専(家庭)	
	住環境演習Ⅰ	2	選	教授 手嶋 尚人	中・高専(家庭)	
	住環境演習Ⅱ	4	選	教授 手嶋 尚人	中・高専(家庭)	
	インテリアデザイン特論	2	選	准教授 豊田 聡朗	中・高専(家庭)	
	インテリアデザイン演習Ⅰ	2	選	准教授 豊田 聡朗	中・高専(家庭)	
	インテリアデザイン演習Ⅱ	4	選	准教授 豊田 聡朗	中・高専(家庭)	
研究指導	特別研究・制作	10	必	教授 有馬十三郎 石田 恭嗣 潮田ひとみ 岡田 京子 押元 信幸 兼古 昭彦 葛原亜起夫 高田 三平 高水 伸子 手嶋 尚人 濱田 仁美 早瀬 郁恵 准教授 豊田 聡朗 宮本 真帆 山藤 仁		

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

※研究指導については、専攻・教員により受入れが認められれば、上記の教員の他、本学短期大学部在籍教員及び大学院客員教授による副指導を受けることができる。なお、短大教員、大学院客員教授による副指導を希望する場合は、必ず、希望教員の研究室訪問により受入の了承を得ること。

(4) 英語・英語教育研究専攻

区分	授 業 科 目	単位数	必 選 別	担 当 教 員	備 考
英語教育分野	小学校英語教育特論	4	選	准教授 吉野 康子	中・高専
	英語教育実践特論Ⅰ	4	選	教授 太田 洋	中・高専
	英語教育実践特論Ⅱ	4	選	教授 太田 洋	中・高専
	第二言語習得研究Ⅰ	4	選	准教授 田頭 憲二	中・高専
	第二言語習得研究Ⅱ	4	選	准教授 田頭 憲二	中・高専
	英語技能指導法演習	4	選	講師(兼任) ジャクソン・ケーン・イェッツ・リー	中・高専
	国際英語技能指導法研究	4	選	講師(兼任) ジャクソン・ケーン・イェッツ・リー	中・高専
	英語教育課程特論	4	選	講師(兼任) 齋藤 嘉則	中・高専
	英語教育評価特論	4	選	講師(兼任) 長沼 君主	中・高専
	英語教育リサーチメソッド	4	選	講師(兼任) 森田 光宏	中・高専
メディア教育研究	4	選	教授 小池 新	中・高専	
英語・英語文学分野	英語学特論	4	選	准教授 根本 貴行	中・高専
	英語学研究	4	選	准教授 鈴木 繁幸	中・高専
	英文学特論	4	選	教授 石塚 倫子	中・高専
	米文学特論	4	選	准教授 関根 全宏	中・高専
	英文学研究	4	選	教授 谷田 恵司	中・高専
	米文学研究	4	選	准教授 並木 有希	中・高専
	英米文化研究	4	選	講師(兼任) 原 恵理子	中・高専
	歴史言語学特論	4	選	教授 横田 由美	中・高専
共通分野	英語論文技法演習	4	選	講師(兼任) トム・エドワーズ	中・高専
				講師(兼任) ロバート・ジェイムス・ロウ	
研究指導	特 別 研 究	4	必	教授 谷田 恵司 石塚 倫子 太田 洋 小池 新 横田 由美 准教授 鈴木 繁幸 根本 貴行 田頭 憲二	

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

(5) 臨床心理学専攻

区分	授業科目	単位数	臨床心理士 必選別	公認心理師 必選別及び 科目分野	担当教員	備考
臨床心理学 基礎分野	臨床心理学特論	4	必		教授 福井 至	高専
	臨床心理学面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	2	必	選⑦	准教授 岡島 義	高専
	臨床心理学面接特論Ⅱ	2	必		教授 杉山 雅宏	高専
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	必	選⑥	准教授 岡島 義	高専
	臨床心理査定演習Ⅱ	2	必		講師 平野 真理	高専
	臨床心理基礎実習	(2)	必		教授 三浦 正江 講師 五十嵐 友里	高専
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	(1)	必	必⑩	教授 福井 至 教授 杉山 雅宏 教授 三浦 正江 准教授 岡島 義 講師 平野 真理 講師 五十嵐 友里 特任講師 齊藤 和貴 客員教授 相馬 誠一	高専
	臨床心理実習Ⅱ (多様な形式のスーパービジョンを含む)	(1)	必		教授 福井 至 教授 杉山 雅宏 教授 三浦 正江 准教授 岡島 義 講師 平野 真理 講師 五十嵐 友里 特任講師 齊藤 和貴 客員教授 相馬 誠一	高専
臨床心理学 専門分野	臨床心理統計法特論	4	選 (A群科目)		講師(兼任) 上野 雄己	高専
	臨床心理学研究法特論	2	選 (A群科目)		講師(兼任) 飯村 周平 講師(兼任) 田中 元基	高専
	人格心理学特論	2	選 (B群科目)		講師(兼任) 嶋田 洋徳	高専
	認知心理学特論	2	選 (B群科目)		講師(兼任) 高橋 秀明	高専
	社会病理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (C群科目)	選④	講師(兼任) 太田 大介	高専
	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会におけ る心理支援に関する理論と実践)	2	選 (C群科目)	選⑧	講師(兼任) 吉川 延代	高専
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (D群科目)	必①	講師(兼任) 中野 正寛	高専
	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (D群科目)	必①	講師(兼任) 太田 大介	高専
	障がい児・者心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (D群科目)	選②	講師(兼任) 中野 三津子	高専
	グループ・アプローチ特論	2	選 (E群科目)		客員教授 相馬 誠一	高専
	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2		選③	講師(兼任) バーンズ 亀山 静子	高専
	発達臨床心理学特論	2	選 (E群科目)		講師 平野 真理	高専
	産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2		選⑤	講師(兼任) 松本 真作	高専
生徒指導・教育相談・キャリア教育 (心の健康教育に関する理論と実践)	2		選⑨	教授 三浦 正江 客員教授 相馬 誠一	高専	
研究指導	特別研究	4	必		教授 福井 至 井上 俊哉 杉山 雅宏 三浦 正江 准教授 岡島 義 講師 五十嵐 友里	

※臨床心理学専門分野では、必修8科目の他、A群科目からE群科目の5群それぞれ1科目2単位以上を必ず履修する。

※公認心理師については、①～⑩の科目分野に含まれる科目を少なくとも1科目ずつ履修していれば、受験資格が得られる。(①はいずれか1科目必修)

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

※研究指導については、専攻・教員により受入れが認められれば、上記の教員の他、本学短期大学部在籍教員及び大学院客員教授による副指導を受けることができる。なお、短大教員、大学院客員教授による副指導を希望する場合は、必ず、希望教員の研究室訪問により受入の了承を得ること。

(6) 教育福祉学専攻

区分	授 業 科 目	単 位 数	必 選 別	担 当 教 員	備 考
生涯学習・社会教育分野	生涯学習学特論	2	選	准教授 宮地孝宜	高専
	生涯学習学演習	2	選	准教授 宮地孝宜	高専
	社会教育学特論	2	選	客員教授 山本和人	高専
	人間教育学特論	2	選	客員教授 山本和人	高専
	教育福祉学特論	2	選	客員教授 井森澄江	高専
	学校カウンセリング演習	2	選	講師(兼任) バーンズ亀山静子	高専
	障がい者教育特論	2	選	兼任講師 半澤嘉博	高専
社会福祉学分野	社会福祉学特論Ⅰ	4	選	教授 平戸ルリ子	高専
	社会福祉学特論Ⅱ	2	選	教授 田中恵美子	高専
	社会福祉学特論Ⅲ	2	選	教授 松岡洋子	高専
	精神保健福祉特論	4	選	准教授 福富律	高専
	スクールソーシャルワーク特論	2	選	講師(兼任) 澁谷昌史	高専
	現代家族法特論	2	選	講師(兼任) 金子和夫	高専
心理学分野	発達心理学特論	4	選	客員教授 井森澄江	高専
	臨床心理学特論	2	選	非開講	高専
	心理学特論	2	選	准教授 佐藤隆弘	高専
	教育評価・測定法	2	選	兼任講師 井上俊哉	高専
	検査法演習	2	選	客員教授 井森澄江	高専
	高齢者心理学特論	2	選	非開講	高専
研究法分野	社会調査法Ⅰ	2	選	客員教授 山本和人	高専
	社会調査法Ⅱ	2	選	客員教授 山本和人	高専
	心理学研究法Ⅰ	2	選	客員教授 井森澄江	高専
	心理学研究法Ⅱ	2	選	客員教授 井森澄江	高専
指導研究	特別研究	10	必	教授 田中恵美子 平戸ルリ子 准教授 佐藤隆弘	

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

2 博士課程

(1) 人間生活学専攻

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考
心理臨床学分野	発達臨床心理学特論	2	選	講師 平野真理	
	臨床心理学特論	2	選	教授 福井至	
	カウンセリング特論	2	選	客員教授 相馬誠一	
	心理療法特論	2	選	教授 三浦正江	
	統計解析特論	2	選	講師(兼任) 上野雄己	
人間発達学分野	発達教育心理学特論	2	選	教授 平山祐一郎	
	発達保健学特論	2	選	教授 宮島祐	
				兼任講師 及川郁子	
	発達栄養学特論	2	選	教授 太田一樹	
	人類遺伝学特論	2	選	教授 高野貴子	
	保育学特論	2	選	教授 戸田雅美	
				教授 榎沢良彦	
	育児支援学特論	2	選	教授 岩崎美智子	
臨床保育学特論	2	選	教授 岩立京子		
			教授 宮島祐		
			准教授 野口隆子		
准教授 細井香					
児童教育学特論	2	選	教授 半澤嘉博		
生活環境学分野	衣生活環境学特論	2	選	教授 潮田ひとみ	
	衣生活文化特論	2	選	准教授 沢尾絵	
	生命情報学特論	2	選	教授 藤森文啓	
				講師(兼任) 内田隆史	
	住生活環境学特論	2	選	講師(兼任) 川上裕司	
	生物環境学特論	2	選	講師(兼任) 森田幸雄	
	児童文化環境学特論	2	選	教授 是澤優子	
児童環境学特論	2	選	教授 大澤力		
生活材料学分野	衣生活材料学特論	2	選	教授 濱田仁美	
	食品材料評価学特論	2	選	客員教授 峯木真知子	
	食品材料利用学特論	2	選	教授 小林理恵	
	機能性食品素材開発学特論	2	選	教授 佐藤吉朗	
	分子生物学特論	2	選	教授 大西淳之	
	生体材料学特論	2	選	教授 池田壽文	
	酵素学特論	2	選	教授 小西康子	
	食品材料工学特論	2	選	教授 鍋谷浩志	
	食品材料プロセス特論	2	選	准教授 赤石記子	
機能性食品学特論	2	選	兼任講師 重村泰毅		

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考
生活管理学分野	被服管理学特論	2	選	客員教授 森 俊夫	
	臨床栄養管理学特論	2	選	教授 澤田 めぐみ	
	代謝栄養管理学特論	2	選	教授 尾形 真規子	
	健康管理学特論	2	選	非開講	
	食品管理学特論	2	選	客員教授 宮尾 茂雄	
	生活情報処理特論	2	選	非開講	
	病態代謝管理学特論	2	選	講師(兼任) 勝川 史憲	
	ロコモ・フレイル特論	2	選	教授 清水 順市	
	リハビリテーション科学特論	2	選	教授 鈴木 誠	
研究指導	特別研究		必	教授 澤田めぐみ 藤森 文啓 池田 壽文 井上 俊哉 岩崎美智子 岩立 京子 潮田ひとみ 榎沢 良彦 大澤 力 太田 一樹 大西 淳之 尾形真規子 小西 康子 小林 理恵 佐藤 吉朗 清水 順市 鈴木 誠 高野 貴子 戸田 雅美 鍋谷 浩志 濱田 仁美 半澤 嘉博 平山祐一郎 福井 至 三浦 正江 宮島 祐 准教授 赤石 記子	

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

※研究指導については、専攻・教員により受入れが認められれば、上記の教員の他、本学短期大学部在籍教員及び大学院客員教授による副指導を受けることができる。なお、短大教員、大学院客員教授による副指導を希望する場合は、必ず、希望教員の研究室訪問により受入の了承を得ること。

3 大学院共通科目（修士課程・博士課程）

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考
共通分野	論文作成のための統計解析入門	2	選	講師(兼任) 松本 真作	
	プレゼンテーション論	2	選	教授 藤森 文啓 教授 清水 順市 教授 小池 新	
	アカデミック・ライティング	2	選	准教授 並木有希 講師(兼任) トム・エドワーズ 講師(兼任) ロバート・ジェイムス・ロウ	

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

C. 令和4（2022）年度授業科目の講義内容（「特別研究」「特別研究・制作」以外）

1. 修士課程

(1) 児童学児童教育学専攻

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
保育学分野	保育学特論	2	榎沢 良彦	保育の現場において研究的実践ないし、創造性豊かな研究を進めるためには、保育学研究の特質を理解する必要がある。そこで、この授業においては、児童学児童教育学専攻の学位授与方針に基づき、研究対象である保育実践の存在特性とそれを研究することの意味と方法について検討し、実践研究を「学」として確立するための基礎固めをする。その上で、実践研究の重要な部分である子どもの体験世界を「生きられている空間」の側面から理解することを試みる。
	保育学演習	2	戸田 雅美	幼稚園・保育所ならびに認定こども園等の場で行われている保育実践を対象とした研究の在り方に関する理論とその実際を演習形式にて学ぶ。具体的には、まず、文献や諸資料などから実践研究の方法論とその課題をおさえる。そして、受講生の関心に即しながら、問題(研究目的)を設定し、観察法(参与観察を含む)ならびに面接法(インタビュー)等の方法を以て得られたデータに基づく受講生間の事例検討を介しながら、考察を加えていく。
	保育史特論	2	小久保圭一郎	明治初期公的に始まった日本の保育制度。そこで展開された保育内容、そして保育方法。それらが明治期以降どのような変遷を辿ったのか。これら保育制度と保育内容、保育方法の変遷を辿り、その背景と意味について検討する。また保育史上重要とされる人物に焦点をあて、彼らの理論の現代的意義について、史料をもとに検討する。
	保育心理学特論	2	堀 科	保育・教育の場、また家庭の中で子どもの生活や育ちを支えるとき、子どもを理解する手がかりとして保育では心理学が用いられている。とくに乳幼児期は個体として顕著な発達ステージがあり、こうしたステージを理解することは子どもの育ちの姿やその育ちに適した生活のありよう、そして遊びなどの子どもの深い理解と共に、子どもをとりまく事象の理解にもつながる。子どもの姿を心理学的な視点で紐解きながら、実際の子ども一人一人の具体的な援助へ学びを深める。
	児童文化特論	2	是澤 優子	児童文化は、「子どもがつくりだす文化」と「大人が子どものためにつくりだす文化」という視座を合わせ持つ概念である。本特論では、児童学児童教育学専攻の学位授与方針に基づき、子どもの幸せに児童文化の立場から貢献するために、児童文化の基本的概念と歴史的展開を理解し、文献や資料の読解を通して、近世から近代における子ども観および児童文化観の展開を概観する。児童文化が現代にいたるまで、どのように認識され展開してきたのかを考察することによって、現代の子どもの取りまく児童文化の諸問題と社会の諸要因との関係を、児童文化的な見地から具体的に検討していく。授業は講義ならびに受講生による報告と討論を組み合わせて進める。
	児童文化演習	2	森田 浩章	児童文化財、すなわち、児童文学、幼児演劇、幼児造形、子供の遊びと玩具、ペープサート、影絵、子ども向けアニメーションとマンガ本、その他、子どもをめぐる「楽しみと面白さ」としての児童文化財の各論を実践論としてレクチャーし、この提案に従って議論する。特に興味を持てる文化財については小論としてまとめられるよう指導する。子どもと劇の先駆者、村上幸雄氏の遺作および遺品を使った資料の読み込み等の研究にも一部参加し、調査研究の実際にも触れていきたい。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
保育実践学分野	保育実践演習	2	戸田 雅美	幼稚園・保育所ならびに認定こども園等の場で行われている保育実践を対象とした研究の在り方に関する理論とその実際を演習形式にて学ぶ。具体的には、まず、文献や諸資料などから実践研究の方法論とその課題をおさえる。そして、受講生の関心に即しながら、問題(研究目的)を設定し、観察法(参与観察を含む)ならびに面接法(インタビュー)等の方法を以て得られたデータに基づく受講生間の事例検討を介しながら、考察を加えていく。
	障がい児保育特論	2	山田 陽子	障がい児保育の理論と実践に関して講義を進めることと併せて、グループワークでの活発な議論の場を取り入れることで、学生間で各回の授業テーマへの意見や考えを共有して理解を耕し、柔軟な専門知識を身に付けていくことになる。培った専門知識を基盤にしながら、研究的実践者として子どもの傍らにいて、どの子どもにとっても楽しい園生活を子どもと一緒に創り出そうとする姿勢とスキルを身に付ける。
	保育マネジメント特論	2	田澤 里喜	厚生労働省の「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会」の中間報告をふまえて「議論のとりまとめ」をふまえて今後求められることを2020年7月に発表している。この中で「主な取組」の一つとして「保育士等一人一人の主体性を尊重し、職員間の対話を促す職場の環境作り(マネジメント)」がある。このマネジメントは保育所に限らず園長・施設の役割が非常に大きいのはもちろんのこと、主任などのミドルリーダーや保育士一人ひとりなど園全体で取り組むものである。本授業では、就学前施設等におけるマネジメントの実際を理解し、それぞれの立場におけるマネジメントのあり方について検討する。なお、授業では、実際に園長や施設長などへのインタビューを行うなど理論と実践の両面から進めていく予定である。
	保育内容実践研究(環境)	2	大澤 力	センス・オブ・ワンダーと幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領で述べられている保育内容(環境)の事項を尊重する。そのため、保育の実践現場での環境の活用においてセンス・オブ・ワンダーを実感すべく、日常保育でも活用できる身近な地域社会を取り入れた散歩、身近な動植物の飼育栽培、地・水・火・風など自然物を活用した遊び、自然現象を取り入れた科学遊びなど事前学習や事後学習、体験学習や課題レポートを多く取り入れ、理論と実践を結びつけたところでの学びを重視する。
	保育内容実践研究(ことば)	2	戸田 雅美	保育内容の領域「言葉」について、実践的に学ぶ。言葉の領域については、特に、小学校以上の教育との関連性も高く、乳幼児期に実際にどのように実践していくかが重要な課題となっている。この授業では、保育所や幼稚園における言葉の指導の実践研究を基に、具体的な指導方法について検討する。また、「人格形成の基礎」、小学校教育との接続を示す「10の姿」と言葉との関係について説明できるようにする。
	保育内容実践研究(表現)	2	花輪 充	領域「表現」は、音楽表現、造形表現、身体表現といった具合に、とかく分類的・狭義的に捉えられる傾向があり、「遊び」を通して統合的・自発的に内面を表出しようとする幼児たちの行動パターンと不一致を生じさせることも少なくない。本授業では、乳児期から幼児期に渡る子どもの発達と表現の特徴に焦点をあて、それぞれの時期にふさわしい表現活動について考察するとともに、保育者の受け止めと援助について明らかにしていく。
	保育内容実践研究(健康)	2	鈴木 隆	保育内容の領域「健康」について、実践的に学修する。この領域は体を動かす運動的遊びにとどまらず、生活習慣の獲得や安全教育、食育など、保育実践に照らして考えると多岐にわたる保育内容が対象となる。この授業ではこうした幅広い内容を前提としつつ、子どもの育ちを多面的にとらえて実践のあり方について考察していく。履修者の予定を考慮しながらではあるが、学外授業として保育現場の視察を複数回実施することを検討する。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
保育実践学分野	保育内容実践研究 (人間関係)	2	岩立 京子	幼児の人間関係の育ちの今日の問題の中から、道徳性、規範意識の発達について学ぶ。 子どもの社会化過程における子育てと社会道徳的価値の内化プロセスとの関係について学ぶ。 社会道徳的価値の内化が、子育てだけでなく、諸要因との相互作用で生じることを学ぶ。
育児支援学分野	育児支援学特論	2	太田 光洋	児童学児童教育学専攻の学位授与方針に基づき、わが国の育児と育児支援について批判的に検討し、今後の育児支援のあり方を構想するために、具体的な課題の検討、現在の育児支援にいたる社会的ニーズや歴史の変遷の検討を行い、子どもの最善の利益に資する育児支援のあり方について学びを深める。また、学生自身が育児や育児支援についての価値観を振り返り、自身のあり方を含め主体的に再構成することをめざす対話的な授業を行う。
	育児支援学演習	2	太田 光洋	児童学児童教育学専攻の学位授与方針に基づき、育児支援に関する政策、事業とその実践事例や課題の検討を通して、社会的ニーズをふまえて子どもの最善の利益に資する育児支援の基本理念とその実践のあり方について学びを深める。また、育児支援を園内や地域での連携や協働のあり方について、園経営、保育者のキャリアパスという観点から検討する。この授業の進め方としては、育児支援に関する実践事例、実践記録や論考、データ等を収集、報告し、議論を中心に展開し、研究的実践の基礎力を身につける。また、必要に応じて実践現場の観察、実践者へのインタビューなどの機会を設ける。
	児童福祉学特論	2	岩崎美智子	この授業では、二つのテーマについて社会学的な観点から講義する。一つは、現代社会に生きる子どもと家族の問題をそれらに対する福祉的対応、保育者の援助について検討する。二つ目は、保育者の生活史について、ライフヒストリー・ライフストーリー等の手法を用いて考察する。 上記二つのテーマについて、毎回問題提起をするが、受講者とともに討議しながら授業を進める。前半は、①子どもや家族が直面している問題の実態把握と検証、②子どもや家族を支える援助者としての保育者の困難や感情労働、および「ケアすること」や「支援すること」についても整理し、問い直しを試みる。後半は、保育者の実践や人生について、ライフヒストリー研究やライフストーリー研究に学びながら、文献や調査データ、語りをもとに論じる。保育者たちの保育・養護実践や人間性を多面的に理解することをめざす。
	児童福祉学演習	2	松本なるみ	児童養護の今日の問題における4つのテーマを中心に演習を進めていく。基本文献や資料をもとに、現代の子どもを取り巻く環境や社会状況と関連させながら児童養護問題の現状を把握し、複数の視点から検討し理解を深める。また、児童福祉法や4つのテーマに関する基本文献の解説(教員)・先行研究の講読(院生)、報告者と教員・院生間の議論をとおして、子どもが育つプロセスを理解し子どもを「権利主体」とした具体的な支援についても考えていく。
	保育カウンセリング特論	2	武田 洋子	保育現場での保護者面接は、面接のみで支援として成立するというよりは、保育の中での多方向かつ多面的に行われるチーム援助の中の一手法として機能するものと考えられる。従って、本授業では、保護者面接に必要な技術を取り上げるだけでなく、支援全体を俯瞰し、園内・園外の他援助と連動して有意義な支援となるための保育者による保護者面接のあり方、という視点を重視する。また、支援において核となるのは、支援対象への理解であるため、この点を押さえながら授業を進めていく。
	保育相談演習	2	金城 悟	保育現場において保育相談が必要とされる現代社会の現状と課題を理解し、保育相談に関する基礎的知識及び支援技術を文献・各種資料及び保育現場での実践を通して学ぶ。さらに、保育現場における保育相談の展開を体験し、保育相談の目的と保育者の役割について実践課題の分析と議論を重ねながら理解を深める。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
育児支援学分野	家族関係学特論	2	平野 順子	乳幼児・児童とその家族を取り巻く問題について、さまざまな論文・文献やデータや事例より、その問題点を整理し、対応、支援の実際について検討する。また、子どもと家族を支える地域資源の事例から、現場で抱える家族関係の現状について把握し、よりよい支援について考える。
子ども臨床学分野	子ども臨床学特論	2	宮島 祐崇 阿部 崇 (オムニバス)	昨今、幼児期から学齢期を含め「問題行動・気になる子」が増えていると話題になっている。児童学児童教育学専攻の学位授与方針に基づき、この講義では医学的見地と教育的見地の両面からオムニバス方式にて学びを深め、連携の実際を習得する。前期は医学的見地から神経発達症群の概念に至った経緯、および保育・教育の現場で問題となっている現状を鑑み、事例を交えての理解と対応について学修する。後期は教育的見地から知的障害児教育の歴史的変遷に加え、事例を取り上げて「個別の指導計画」の作成、さらに教材・教具の作成により理解を深める。また実際の授業を視聴し、授業分析の視点や評価の視点について検討する。講義時にはミニレポートの作成やグループディスカッションを取り入れて、知識の定着を図る。
	子ども臨床学演習	2		本年度非開講
	小児健康保健学特論	2	及川 郁子	子ども一人ひとりの健康を維持・促進することは、子どものLifeを豊かにするものである。本授業では、特に医療を要する子どもの健康に関わる基本的概念について理解を深めるとともに、子どもの発育と健康状態をアセスメントする視点を明らかにする。また、実践現場での事象や文献を通して、医療を要する子どもの健康について、家族、地域、社会との絡みの中で検討し、具体的支援内容について考える。
	小児健康保健学演習	2	高野 貴子	小児保健に関する知識をさらに深め、人が生まれて育つ過程とその健全な育成を妨げる諸問題を、文献や討論などを通して学究する。多角的に子どもの健康問題にアプローチできる学習を行う。概説の後、各人がテーマを調べ、発表する形式を取る。履修生の希望に沿った内容をテーマとして取り入れることも考慮する。
			細井 香	小児健康保健学特論での知識をさらに深め、乳幼児・小児期の子どもたちの発育、発達を妨げる諸問題について様々な観点から、参与観察を通して深く学ぶ。また子どもの健康に関する支援的環境の具体的方法を、創造的かつ確かな情報に基づく議論ならびに現場でのフィールドワークを通して考える。
	発達心理学特論	2	野口 隆子	子どもの発達と社会・文化との関連性について、発達心理学の主要な理論、方法論を取り上げて考える。子どもにとっての保育者や保護者、保育・教育場面や家庭場面の意味を理解し、探求する。
子ども芸術療法特論	2	池森 隆虎 保坂 遊 佐藤 邦子 (オムニバス)	現代における様々な子どもの成長・発達や心身の健康に対して、芸術表現活動がどのような手法によってどのような効果をもたらすことができるのか、それぞれの専門分野の教員によるオムニバス授業より、音楽、美術、身体的表現活動を用いた多様なアプローチを理解する。また、芸術が子どもを取り巻く教育、福祉、医療といった社会的環境の中でどのように活用することができるか検討し、乳幼児や児童をめぐる社会の多様なニーズへ対応できる専門性を身につける。 本科目は授業内容により、板橋校舎と狭山校舎へ併用して利用しながら開講する。	

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
子ども臨床学分野	子ども芸術療法演習	2	池森 隆虎 保坂 遊 佐藤 邦子 (オムニバス)	音楽、美術、身体表現を活用した様々な子どもを対象とした芸術表現活動並びに芸術療法の基礎的な方法論や援助技術について理解を深める。各領域の専門分野教員によるオムニバス授業によるアクティブラーニングを通して、現代社会が課題としている様々な子どもに対する教育方法や支援について芸術療法の技法をいかに活用していくことができるか、演習によって実践方法や社会的活用法について検討していく。 本科目は授業内容により、板橋校舎と狭山校舎へ併用して利用しながら開講する。
教育実践学分野	教育実践演習 (国語)	2	阿部 藤子	国語科教育における教科内容と指導法について考察する。まず、国語科の授業の理論と歴史、現代に要請される国語学力、授業設計や授業実践のあり方について学ぶ。国語教育の実践家の著作や実践記録を講読する。さらに具体的な授業実践を取り上げて、授業を振り返りながら授業の力量を上げるための営みについても学び、研究的実践の創造をめざす。
	教育実践演習 (算数)	2	石田 淳一	算数教育における指導方法について考察する。 まず、学び合いの授業づくりの授業設計や学び合いスキルについて学ぶ。次に具体的な授業実践事例を分析し討議して、主体的・対話的な学びによる深い学びを実現する算数授業について考察する。
	教育実践演習 (社会)	2	二川 正浩	戦後から今日に至る具体的な授業実践を取り上げながら社会科教育の目標や内容、方法論についての理解を深め、今日の学校現場における社会科教育の意義と課題についての考察を行う。次に、その課題の解決を念頭に、学習指導要領の改定の趣旨を踏まえて、地域学習を事例としながら小学校社会科における授業構成の理論と方法についての理解を深める。そして、これからの社会科教育の在り方について、授業分析や評価方法についての理論や方法への理解を図りながら、児童の主体的な学びという観点からの考察を行い、教育現場で求められる研究的実践の方法を修得していく。
	教育実践演習 (理科)	2	大澤 力	小学校の学習指導要領「理科」で述べられている教育内容を尊重すると共に、特に探究するための資質・能力の育成に主眼を置きつつ学修を展開する。そのため、理科の探究力を実感すべく、日常教育でも活用できる身近な自然環境との関わりを取り入れた体験学習や課題レポートを多く取り入れ、理論と実践を結びつけたところでの学びを重視する。
	教育実践演習 (音楽)	2	笹井 邦彦	子どもを取り巻く音楽環境は、社会の変化や文化の変化とともに複雑化してきている。例えば、公教育における明治以来の欧米音楽一辺倒から昨今での母国音楽教育の再導入、あるいは、マスメディアの発展とともに様々な音楽環境が存在している。つまり、これらのことは今の子どもたちと音楽との関わりを考えた場合、よりグローバルな視点からの考察が必要である。そのようなことから、ここでの演習は「日本の音楽の歴史的探求」あるいは「子どもたちの音楽環境の歴史的変遷」などのルーツを紐解きながら、今の子どもたちに対する音楽教育の在り方、及び本来の音楽教育の在り方などについて探求する。
	教育実践演習 (図画工作)	2	結城 孝雄	21世紀型教育が世界で加速度的に進行している。この「知識・スキルを活用する」教育の流れを歴史から、内容から俯瞰しつつ、現在実施されている教育内容を世界の優れた実践から学ぶ。芸術教育、造形活動のこれからの在り方を議論で深めながら、また、具体物、作品を見学しながら、学習者に見合った具体的実践について、指導計画を立案することを目的とする。
	教育実践演習 (家庭)	2	平野 順子	家庭科の分野の中でも、主に家族・福祉・公共・消費の分野を取り上げ、学生の授業前の準備学習をもとに、よりよい授業づくりのために討論を行う。最後には、実践計画を立て、発表・議論を行う。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
学校教育分野	教育学特論	2	藤井 穂高	今日の学校教育をめぐる改革の論点の1つは資質・能力(コンピテンシー)の問題である。しかし、肝心の資質・能力論については諸説あり必ずしも整理されていない。そこで本講義では、児童学児童教育学専攻の学位授与の方針(3点)に基づき、今日の代表的な資質・能力(コンピテンシー)をいくつか取り上げ、その理論的根拠を吟味するとともに、今後の学校教育(幼児教育も含む)において育成すべき資質・能力(コンピテンシー)の中味を考える。
	教育心理学特論	2	平山祐一郎	「教育」とは一定の方向性を持った価値に基づいた活動である。それに対して、科学性を標榜する「心理学」がどのように関与しうるのかを考えていく。児童学児童教育学専攻の学位授与の方針(3点)に基づき、この授業では、まず心理学・教育心理学の基礎事項の講義を行い、心理学の基本的な考え方を身に付けた上で、教育に関する報道を分析したり、「教育と医学」(慶應義塾大学出版会)や「指導と評価」(図書文化社)などの教育雑誌の論文を読み解いたりしながら、教育心理学の実践的な理解を深めていく。
	学級経営特論	2	半澤 嘉博	学級崩壊や不登校・いじめ、校種間の接続問題等、学級を取り巻く課題は山積している。 本講では、児童学児童教育学専攻の学位授与の方針(3点)に基づき、前半にこうした様々な課題に対してどのように対処し、解決を図っていくかを具体的な事例を通して討論を行う。 その上で後半は、望ましい学級経営を進めて行くにはどのような配慮や工夫を重ねていくかを、具体的な経営案作成を目指した演習を重ねる。 また、必要に応じて優れた学級経営を進めている教育現場を視察し、その経営のポリシーや技法を具体的に学ぶことができるようにする。
	道徳教育演習	2	走井 洋一	子どもの社会性の形成を支援するためには、世界観(何を正しいと考えるのかについての多様な見方)、子ども観(子どもを白紙とは見ずに、ヒトとしての特性を把握したうえで、その発達・形成の有り様と現状を理解すること)、教育方法観(これまで取り組まれてきた教育方法とその理論的反省)を踏まえることが求められる。本演習では、児童学児童教育学専攻の学位授与の方針(3点)に基づき、これらについて取り組むことを通じて、子どもの社会性の形成を支援する際の教師のもつべき視座の獲得を目指す。
	特別支援教育演習	2	半澤 嘉博	小学校における発達障害を含め、様々な障害のある児童への教育は、個別の教育ニーズに応じた支援や指導という視点が大切である。また、障害者の権利条約の批准に向けてのインクルーシブ教育の視点からの合理的配慮や障害理解が重要である。本授業では、児童学児童教育学専攻の学位授与の方針(3点)に基づき、このような状況から障害のある児童への専門的な指導や個別の指導計画の作成・実施、関係機関との連携等を効果的に行うことができる教員の資質向上が求められるため、知的障害や発達障害の事例を基に、演習を通して具体的な支援等の在り方を検討していく。
	情報処理演習 I	2	佐藤 隆弘	本演習では、児童学児童教育学専攻の学位授与の方針(3点)に基づき、研究に必要な情報検索や資料作成、データ分析・統計処理、プレゼンテーションなどの知識と技術の習得を目指す。パソコンを用いた演習課題を行い、文書の作成、表計算ソフトによる表・グラフの作成と集計、データの科学的分析のために必要となる基本的な統計処理、プレゼンテーションソフトの利用法とわかりやすい説明の技法などを学んでいく。さらに、研究活動において重要となる情報倫理についても取り上げる。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
学校教育学分野	情報処理演習Ⅱ	2	平山祐一郎	児童学児童教育学専攻の学位授与の方針(3点)に基づき、「情報処理演習Ⅱ」においては、パーソナル・コンピュータ及びインターネットを教育に活用する技術・方法を、①情報の「検索」、②情報の「読解」、③情報の「表現」の3つのポイントから実践的に身に付ける。さらに、こどもに情報の検索や読解、表現を指導する場合の効果的な手法について学び、その際に浮かび上がる種々の問題点を考える。そして、ディスカッションを通じて今後 に生じうるであろう諸課題について検討する。

※研究科所属の専任教員の論文等の情報は、東京家政大学HPの研究者情報データベースで確認できる。

(2) 健康栄養学専攻

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容	
食品栄養調理科学分野	食品学	食品学特論	2		本年度非開講
		食品学演習	2		本年度非開講
		食品機能学特論	2	重村 泰毅	2015年より、食品の機能性表示制度が大きく変化した。消費者にとって一連の制度は勿論、効果のメカニズムは理解し難い。本専攻の大学院生には食品摂取による健康状態改善メカニズムの理解を目標として講義を進める。講義のみではなく、ディスカッション、各自の課題について調査を行い、プレゼンテーションを行う。
				高尾 哲也	食品素材の有する機能は、大きく、保存性や商品性の向上など食品に対する機能と、生物・生理活性などの生体に対する機能に分けられる。このうち、食品素材の有する生物・生理活性は、近年重要な課題となっている健康維持・増進や生活習慣病の予防への、食品による生体調節機能として注目されている。本講では、これらの食品素材成分による生体調節機能について、活性測定及び解析、活性を有する成分の探索、作用機序等の基本的事項、食品成分による機能の具体例を概説し、食品素材機能成分の応用に向けた基礎知識の理解を深める。
		食品機能学演習	2	重村 泰毅	現在、食品科学の発展にともなって食品中の化学的反応や機能性メカニズムが明らかにされ、多種多様な食品へ利用されている。そこには、食品学に栄養学・化学・物理学等多くの学問が複合的に絡んでいる。本講義ではこれらを解説し、また受講生自身の研究テーマとの関連性についても関係づけを考えていく。
		食品機能学実験	1	重村 泰毅	本実験では、大学院生がタンパク質・アミノ酸を中心とした成分分析・成分変化・機能性を評価する実験方法を学び、その分析技術を習得できるようにする。 さらに、得られた分析結果の評価をできるようにする。 研究室の限られた設備で、自分の望む食品科学の評価に関する実験技術とアイデアを習得する。
		食品応用学演習	2	高尾 哲也	食品素材成分による生体調節機能の探索、研究、開発には、食品素材中の成分のみならず、生体調節機構の理解、機能や成分の探索、活性測定や製品開発への研究方法の理解などが欠かせない。そこで、生体調節機能についてのテーマを定めて情報を検索し、必要な情報を学術論文として取得する。その後取得した論文を購読、解説、ディスカッションする事により、生体調節機能の研究手法や成分、作用機序、健康維持・増進に果たす役割等に係わる基礎的事項について理解を深める。
		HACCP特論	2	森田 幸雄	講義によりHACCPを理解する。HACCPプランを構築するにあたり、危害要因分析がもっとも重要なので特に、危害要因を理解したのちに、HACCPを構築する。 厚生労働省HP：「HACCP導入の手引き」を基本とする。 また、今まで受講した「食品衛生学」の教科書等を持参する。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
食品栄養調理科学分野	HACCP演習	2	森田 幸雄	講義およびグループワーク、発表を実施。HACCPに関する教科書(厚労省HP: HACCP導入の手引き)を持参すること。また、講義の時は授業「食品衛生学」に使用した教科書等を持参する。講義内容はHACCPの構築ができる知識を習得するために授業とグループワークを実施し、グループで発表しあい、グループごとにその講評等を行う。
	食安全学特論	2	佐藤 吉朗	現在、世の中では食品の安全安心に対する関心はアンケート調査などの結果からも非常に高いことが明らかになっている。その内容を見ると、添加物、残留農薬、遺伝子組換えに対する不安が主なものである。科学的に考えて、食品安全に何が本当に求められるかを見極める力を付ける。見極めることができることを本授業の目的とする。
	食安全学演習	2	佐藤 吉朗	食品の安全に関し、各回に設定したテーマに関する論文を読み、それを下に討論形式で進める。大学院生は、設定したテーマに対して自分なりの考えを論理的に説明できる、相手に納得させることができる能力を養うことを目的とする。
	食品産業特論	2	鍋谷 浩志	食品の加工工程を工学的に取り扱う際に必要となる数値の取り扱いの基礎を学ぶとともに、基本的な単位操作に関する知識を習得する。また、食品の安全性確保、品質保持を図るための知識の習得、様々な食品の特性に対応した食品管理のあり方について、理解し能力を高める。
	食品産業演習	2	鍋谷 浩志	食品の加工工程を工学的に取り扱う際に必要となる数値の取り扱いの基礎を学ぶとともに、基本的な単位操作に関する知識を習得する。また、食品の安全性確保、品質保持を図るための知識の習得、様々な食品の特性に対応した食品管理のあり方について、例題を主体とした演習を通じて、理解し能力を高める。
	発酵食品学特論	2	宮尾 茂雄	発酵に関与する微生物の種類、性質、発酵様式について講義を行うとともに発酵と腐敗の相違について説明する。主な農産、畜産、水産発酵食品の製造(発酵)に関与する特徴的な微生物の種類、特性、について説明する。発酵に有用な微生物を自然界から分離、保存、育成する技法について解説するとともに実際例について討論を行う。
	食品開発学特論	2	笠松 千夏 設楽 弘之 (オムニバス)	大学院修士課程健康栄養学専攻における専門的知識習得のためのコースワークの授業として食品開発学を学ぶ。これを習得することにより食品開発分野において高度な知識を習得し、課題解決能力を会得することで、我が国の産業発展に貢献できる高度専門的職業人としての学識や能力を習得する。企業にとって、新製品開発は会社を存続させるために欠かせない。そこでアイデア創出から商品を発売し、定着させるまでに必要な工程を学び、商品開発の一連の作業を学習する。
調理科学	食品プロセス科学特論	2	赤石 記子	我々は多種多様な食品を調理加工することによって、消化吸収良く、嗜好性を満足させた食べ物に変化させている。その調理操作の中心に位置するのが加熱処理である。本講では食品の加熱中の食品内部の熱の伝わり方や加熱操作の仕組みと、調理加工のプロセスを熱エネルギーや調理機器と関連付けて講義し、調理面から人々の健康と社会の発展に貢献できるように専門的能力を養う。
	食品評価特論	2	赤石 記子 峯木真知子 (オムニバス)	食品は多糖、たんぱく質や脂質等の高分子物質や、単糖や塩類等の低分子物質などが複雑に結合あるいは分散した状態にある。調理加工を通して食品の状態は変化し、安全性やおいしさ、健康への影響も変わる。この変化の程度は力学物性的評価や組織構造的評価などにより把握される。本講義では、健康栄養学専攻の学位授与方針に基づき、人々の健康の維持増進と豊かな食生活に資するために、食品物性・組織構造分野を広く深く理解し、豊かな専門的能力を修得していく。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容	
食品栄養調理科学分野	調理科学	調理科学特論	2	小林 理恵	食品の好ましい性質を生かしたおいしい食べ物は、調理条件を調整することで作られる。健康栄養学専攻の学位授与方針に基づき本講座では、食物のおいしさに関わる知覚的要因を構築する化学的変化(味, 香り, 色)および、物理的変化(テクスチャー)について演習を交えながら理解を深め調理科学の専門的能力を習得していく。また、この変化を生じさせる種々の調理操作法の特徴を整理し、その効果的な利用方法について考える。
		調理科学演習	2	小林 理恵	国内外の調理科学および周辺分野の論文を精読し、課題の選択方法、測定手法や解析方法を含めた研究計画の立案とまとめ方について学ぶことを通して探求力及び問題解決能力を養う。また、Youtubeにてハーバード大学の「Science and Cooking」の1講座を視聴し、その概説をすることを通して、国際的なプレゼンテーションの場に対応する基礎的な演習をするとともに調理科学を広く理解する。
		調理科学実験	1	永塚 規衣	加熱による食材内部への熱移動現象を、加熱操作(板焼き, 蒸し, 茹で, 揚げの各加熱法)を変えた場合とモデル食材とを用いて加熱実験し、伝熱的な解析を試みる。次いで、ヒトの口腔内で感じられる主観的なテクスチャー(食感)に対応する性質をレオメータ, 粘度計などの測定機器を用い、巨視的に解析して食品の力学的特性を理解する。さらに、健康栄養学専攻の学位授与方針に基づき本授業では、専門的知識や技術を修得するために、動的粘弾性測定, 示差走査熱分析(DSC), 電気泳動分析など微視的な追跡も試みる。
		官能評価論演習	2	峯木真知子	官能評価とは、人の五感によって、事物を評価することおよびその方法を指している。人間の感覚器を測定器として、品質の特性および差を検出し、品質検査や工程管理にも応用する。品質特性やおいしさには、視覚, 聴覚, 嗅覚, 触覚も大きく関与している。この仕組みを理解することにより、食事の満足度を上げ、食事量の増減につながり、健康およびQOL向上にも関連つける。人を対象とした方法を用いるので、パネルの心理状態, 訓練度や環境なども厳密で正確さが要求されるので、実施にあたり工夫する。また、用いる用語の選出, 選定する官能評価法, 統計処理も重要なポイントになる。実際に多種の官能評価法を学修できる。
	栄養学	分子栄養学特論	2		本年度非開講
		分子栄養学演習	2	林 あつみ	栄養は健康の維持・増進にとって不可欠である。そこで前半は、栄養素の消化・吸収について生化学の原著を読み、さらに生活習慣病の発症分子機構の理解のため高血圧を取り上げ、昇圧の調節因子であるレニン・アンギオテンシン系に関する文献を読む。後半は、各自の研究にとって必要な情報を収集し、その内容を理解し報告・討論する。
		分子栄養学実験	1	林 あつみ	高血圧を中心とする生活習慣病の予防を目的として食品成分の効果を検討する。まず、食品材料から血圧の昇圧調節系であるレニン・アンギオテンシン系の阻害物質の抽出を行い、ACE阻害活性を測定する。阻害活性成分を実験動物に投与し、ACE活性およびレニン活性の測定を行う。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容	
食品栄養調理科学分野	栄養学	病態栄養学特論	2		本年度非開講
		病態栄養学演習	2		本年度非開講
		臨床栄養学特論	2	澤田めぐみ	栄養食事療法が特に重要と思われる病態及び疾患を広く取り上げる。授業で実際に取り上げる疾患は、肥満(及びやせ)・糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症・高血圧・動脈硬化及びその関連疾患・COPD・慢性腎臓病・貧血・骨粗鬆症・サルコペニア・ロコモティブシンドローム・フレイル・食物アレルギーと多岐にわたり、それぞれについて、成因・診断(自覚症状・他覚所見・検査所見など)・治療を学ぶ。
		臨床栄養学演習	2	澤田めぐみ	自然科学系論文について、その概要を学んだうえで、実際に与えられたテーマに沿って文献検索を行い、選択した文献を読み込んで抄読会で発表を行う。英語論文の抄読会については、多くの論文にふれることより、基本的な英語力の向上を目指し、基本から段階を踏んで実施する。
		臨床栄養学実験	1	澤田めぐみ	基本的な血圧測定から始まり、循環器系の各種検査、呼吸器系の各種検査、画像検査、病理検査など、実際に自らが体験可能な検査については実習を行う。その他の検査はビデオ映像などを用いて知識を深めると共に、高度な専門的能力を習得し、さらにそこから自ら課題を見出し探求していく能力を身につけていく。
		スポーツ栄養学特論	2	川野 因	スポーツ(身体活動)と食事はヒトの健康的な生活づくりという【車】の両輪に位置付けられ、日々の生活場面に必要不可欠な要素である。近年では、従来の栄養学の概念に加え、日々の生活場面における身体活動の質と量の変化が健康な身体づくりに与える影響への理解も増してきている。健康栄養学専攻の学位授与方針に基づき、この講義では、人の健康保持・増進にスポーツ・栄養学の分野から貢献することを目指し、また、食生活を広く深く理解し、豊かな専門的能力を修得していく。
生命科学分野	生命情報科学特論	2	藤森 文啓	遺伝子解読技術の向上により、100ドルゲノムの時代が現実化し、ヒトやモデル生物に限らず、あらゆる生物のゲノム解析が世界中で行われており、そこから得られる情報は莫大になっている。このように日々増え続ける遺伝子情報を解析することで得られる新たな知見は衣食住を対象とした「暮らしを科学する」領域においても有用な情報を与えてくれる。そこで本特論では、研究対象物の遺伝子情報を探ることから始め、最終的には自らの研究対象に有用な解析手法を学ぶ。	
	生命情報科学演習	2	藤森 文啓	インターネット上に存在する遺伝子情報データベースは様々であるが、使い方の基本である相同性解析(BLASTサーチ)から高度なパスウェイ解析などを知ることで目的とする解を手軽に得ることができる。基本的な解析手法の考え方は統一されておりその基本を学ぶことで応用が広がる。そこで本演習では、遺伝子情報のアクセスの仕方から、個人の目的に合致した遺伝子情報の取得方法、最終的には多変量解析等によるデータ解析の実践を学ぶ。	

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容	
生命科学分野	生命情報科学実験	1	藤森 文啓	遺伝子情報はシーケンスによって解読される。古くはマキサムギルバート法やサンガー法などによりシーケンスされていたが、最近ではマイクロアレイ法によるシーケンス技術など新手法が様々に開発され、精度よく長く解読できるようになっている。このような解析に到達するには基本となるPCR法による遺伝子増幅法が欠かせない。そこで本実験では自らの興味の対象物であるタンパク質(遺伝子)の配列解析のために、遺伝クローニングと配列解析について学ぶ。	
	生理学・病態生理学 特論	2	太田 一樹	摂食・消化吸収・エネルギー代謝は、中枢神経系・消化器系・内分泌系など様々な系が互いに連携をとることで調節されている。また、疾病時にはそれぞれの系に特徴的な変化が観察される。本授業では、生理的な状態における摂食・消化吸収・エネルギー代謝調節の機序と様々な系の関わり並びに疾病時における調節機構の変化について学ぶ。	
	生理学・病態生理学 演習	2	太田 一樹	エネルギー代謝は生体の維持に必要な基本的機能のひとつであり、各臓器の相互連関によって調節されている。また、疾病により様々なエネルギー代謝調節機構の変化が観察される。本授業では、生理的な状態におけるエネルギー代謝調節機構並びに感染症やがんなどの様々な疾病でみられる調節機構の変化について、原著論文や総説を検索・精読し、検討していく。	
	生理学・病態生理学 実験	1	太田 一樹	血糖調節機構は各臓器の相互連関によって維持されている。その機序を探索するために、動物の飼育、扱い方、薬剤投与、血糖測定方法について学ぶ。また、得られた結果を元に、データの解析方法を学ぶことで、栄養学の中でも生理学・病態生理学に関する専門的研究を行うための基本となる技術を修得する。	
	生化学特論		2	大西 淳之	『NUTRITION and MENTAL HEALTH』と『LINKING NUTRITION TO MENTAL HEALTH』の英文教科書の輪読を通して栄養素や食事内容、食生活が身体とこころ(精神)に及ぼす作用や影響について理解を深める。本特論の参加人数に応じて上記のテキスト各章の割り当てをおこなう。毎回、セミナー形式の発表を通して、英語論文の読解力とプレゼンテーション力の向上に努める。
				小西 康子	生体の主成分である水と生体分子(アミノ酸、タンパク質、酵素、補酵素、糖質、脂質、生体膜)の構造と機能について取り扱う。テキストを用いて、履修者の人数に応じて各章の割り当てを行う。セミナー形式の発表および質疑応答を通じて、理解力とプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。
	生化学演習		2	大西 淳之	女性の心身の健康と食との関連について、代謝生化学や栄養シグナル伝達、精神栄養学の視点から教授していく。特に女性の月経周期や月経前症候群(PMS)に関する知見や、妊娠・授乳期にまつわるストレスや疲労感に関する最新知見を学ぶために、演習前半では関連教科書の輪読を行い基礎的な理解を身につけ、演習後半では英語論文を検索しセミナー形式でプレゼンテーションする。この際、研究計画の立案、準備、研究実施に必要な技術や手法、考察の仕方について理解を深める。
小西 康子				生体の主成分である水と生体分子(アミノ酸、タンパク質、酵素、補酵素、糖質、脂質、生体膜)の構造と機能について取り扱う。テキストを用いて、履修者の人数に応じて各章の問題の割り当てを行う。セミナー形式で演習問題の解答を説明発表するとともにそれに対する質疑応答を行い、理解力とプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。	

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
生命科学分野	生化学実験	1	大西 淳之	心身のストレス状況(特に疲労感)を、生化学的、生理的、および心理的な指標から評価するための実験を行い、研究者に必須であるデータの整理、解読する能力を養う。具体的には、軽い心理的な混乱を引き起こす Stroop Color Word Conflict Test の前後で、心理アンケート、唾液中のアミラーゼ活性、指尖加速度脈波を測定して、テストで受けたストレスを評価する。また、得られた結果をまとめパワーポイントを用いてプレゼンテーションすると同時に、論文形式のレポートを作成する。
	食品機器分析化学特論	2	池田 壽文	最新の分析機器を利用するために必要な基礎知識である「スペクトル」「クロマトグラフィー」を修得したうえで、実際にどのようにその知識が応用されるのかを理解することが重要である。本授業では、食品の安全を確保するために現在多用されている最新分析機器を使用するための入門編である。
	食品機器分析化学演習	2	池田 壽文	最新の分析機器を利用するために必要な基礎知識である「スペクトル」「クロマトグラフィー」を修得したうえで、実際にどのようにその知識が応用されるのかを理解することが重要である。本授業では、食品の安全を確保するために現在多用されている最新分析機器を使用したあとに得られるデータを読み解く力を修得する食品機器分析化学特論の応用編である。
	食品機器分析化学実験	1	佐藤 吉朗	実際の食品を用いた食品成分(糖類、アミノ酸類、脂肪酸類)の分析を高速液体クロマトグラフィーを用いて実施する。また、食品のにおい成分分析、食品の異臭分析についてもガスクロマトグラフィーを用いて実施し、機器使用法を習得する。
			池田 壽文	最新の分析機器を利用するために必要な基礎知識である「スペクトル」「クロマトグラフィー」を修得したうえで、実際にどのようにその知識が応用されるのかを理解することが重要である。本授業では、食品の安全を確保するために現在多用されている最新分析機器を使えるようになるための食品機器分析化学特論の実践編である。
	代謝栄養学特論	2	尾形真規子	英文教科書 Principles of Anatomy and Physiology, Essential Cell Biology, Color Atlas of Pathophysiology などを読むことで健康な体のしくみを分子・細胞レベル理解する。そのうえで代謝疾患の病態、加療に関して学ぶ。各章ごとに割り当てを行うことで、プレゼンテーション能力、他人の発表を聞いての質疑応答などの考察・情報交換能力を養う。議論の結果を含め、さらに文献検索を行い、レポートを提出する。
	代謝栄養学演習	2	尾形真規子	Pancreatic Islet Biology を中心に英文教科書を読解、さらには他の英語論文レビューを選び、分担し抄読していく。睥島細胞を理解したところで、培養細胞の継代手技の習熟、培養睥β細胞を用いたカルシウム反応などの測定を行う。
	公衆衛生学特論	2		本年度非開講
公衆衛生学演習	2		本年度非開講	

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
生命科学分野	公衆衛生学実験	1		本年度非開講
実践研究分野	臨床栄養学栄養療法特論	2	勝川 史憲	近年、臨床栄養学は著しく進歩した。管理栄養士は、生活習慣病や高齢者のフレイルの予防や治療・改善において、医療、保健、福祉の場でチームの必須職種として活躍しており、より広く深い専門的な栄養管理の知識が求められている。講義では、生活習慣病やフレイルの病態と、その予防、治療の手段としての栄養療法の効果について概観し、臨床における栄養ケアマネジメント、疾患の栄養療法について理解し、高齢社会における医療、保健、福祉に対応する幅広い栄養ケアマネジメントのあり方、栄養療法の実践的に学ぶ。
	臨床栄養学栄養療法演習	2	田中 寛	臨床の場において、病態ごとに適正な栄養療法を実施する際、その適応や処方、効果判定を客観的に行う必要があり、栄養アセスメントの実施意義は大きい。そのため、アセスメント分類から評価項目等を修得し、総合的な栄養評価（予後推定栄養評価）に至るまで、テキストに基づき学修する。また、関連する事例集や学術誌掲載の論文から結果・考察の妥当性等について議論する。臨床現場でのチーム医療活動において、管理栄養士の果たす役割等を大規模病院での見学体験を踏まえ修得する。
	N S T 特論	2	佐藤 弘	NSTの一員として活躍できるような知識と実践能力を養うことを主眼とする。前半で必要な知識を習得する。評価方法から始まり、輸液や経腸栄養などの必要な知識を身に付ける。後半は、実際にプランニング出来るように模擬患者を用いて演習を行う。常にチーム医療の一員であることを理解し、自主的に評価し、栄養管理を実践できる能力を習得できることを目標とする。
	保健医療福祉システム学特論	2	和田 涼子 蓮村友樹久 (オムニバス)	少子高齢社会に対応できる保健・医療・教育・福祉の向上に寄与できるよう管理栄養士の実践に必要な保健・医療・福祉の各分野における法律や制度および歴史的背景、それぞれの制度が抱える問題点と今後のあり方等について諸外国の事例等も含め講義する。また、地域栄養・食育活動のリーダーとして実践指導ができるように地域ケアに注目し講じる。 (蓮村友樹久／6～13回) 我が国の社会保障制度の分野における医療保険制度および介護保険制度と医療・介護の場における栄養ケアに着目した計画・評価に関する事項等について講義する。 (和田涼子／1～5, 14回) 我が国の社会福祉と社会保障、人々のQOLの向上を目指す管理栄養士の役割について講義する。
	保健医療福祉システム学演習	2	和田 涼子	我が国の高齢社会における保健医療福祉システムについて、各分野での健康施策や介護予防などの取り組みの現状などから管理栄養士実践研究に必要な情報を収集する。特に高齢者の健康寿命の延伸と介護予防に関する栄養教育に視点をおき、管理栄養士として地域において専門的に取組むことができるように事例を検討し、支援の方法を習得する。
	公衆栄養学特論	2		本年度非開講

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
実践研究分野	公衆栄養学演習	2	梶 忍 秦 希久子 (オムニバス)	少子・高齢社会の健康・栄養問題に的確に対応できる専門職としての人材の育成を目指す。管理栄養士は、「健康増進法」、「健康日本21」や「食育の推進」などの行政施策の推進を図るとともに、地域の人々との関係を通してQOLの向上を目指す実践活動が求められている。地域の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力と、さらにそれらを活かして特徴ある公衆栄養プログラムを計画・実施・評価する技術を習得する。また、広く社会資源を活用した地域連携の実際について事例を通して検討・考察する。
	給食経営学マネジメント特論	2	名倉 秀子	健康栄養学専攻の学位授与方針に基づき、実践研究分野を理解し、高度な専門知識を修得、探究・研究課題解決能力を有する構成とする。給食利用者のニーズを的確に捉えるマーケティング、効率性の発揮できる組織作り、給食提供の仕組みとして生産システムなど給食サービスに展開するための高度で専門的な給食経営マネジメントの知識を解説する。食を取り巻く環境、経済情勢の変化に伴う給食業務のアウトソーシングや生産管理における新システムの導入など様々な給食経営の展開を具体的に説明し、それらの給食マネジメントに対してディスカッション(意見交換)を行う。
実践研究分野	給食経営学マネジメント演習	2	榎本 真理	給食とは、特定の集団を対象に目的を持って継続的に食事を提供し、利益をもたらすことといえるが、その対象集団によって目的や利益は異なってくる。業務内容そのものは、その組織の運営・経営理念に左右されることは否めず、当然ながら、一律な考え方や手法では適切な給食経営は出来ない。ここではとくに病院給食を取り上げるが、これは国民皆保険による医療の中での給食であるため制約が多く、また患者の病態はきわめて様々であり、治療食ではあるが生活食でもあり、安全、楽しみなども十分に考慮しなければならず等等と、その運営、管理は容易でない。実際の病院給食の現場において、衛生管理、感染対策、医療安全、品質管理がどのように行われているか、その運営を学び、患者にも病院にも、また周辺にも利益をもたらす、よりよい医療に役立つ病院給食を模索する。
	ロコモ・フレイル特論	2	清水 順市	人は加齢に伴い身体的および精神的に多くの変化が生じる。本授業では、身体的および精神的に表出する特徴的現象、症状について解説するとともに、予防のための運動刺激や飲食物等が身体変化に与える影響について考える。
	ロコモ・フレイル演習	2	齊藤 展士 清水 順市 磯 直樹 (オムニバス)	人は加齢に伴い身体的および精神的に多くの変化が生じる。本授業では、身体的および精神的に表出する特徴的現象、症状の変化を捉えるための具体的な検査・測定法について解説し、データの採取法を修得する。
	ニューロリハビリテーション特論	2	下田 信明 鈴木 誠 (オムニバス)	人が行動を円滑に遂行するためには、感覚情報の識別と運動の実行という脳の入出力処理を環境に合わせて行わなければならない。本授業では、環境に応じた脳の入出力処理を最適化するニューロリハビリテーション法について解説するとともに、食物等の環境要因が脳の入出力処理に及ぼす影響について考える。

※研究科所属の専任教員の論文等の情報は、東京家政大学HPの研究者情報データベースで確認できる。

(3) 造形学専攻

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
服飾美術分野	被服材料学特論	2	濱田 仁美	被服材料の大半は繊維製品からなり、原材料の繊維及び繊維集合体の構造や性質は、最終製品である被服の性能に密接に関連している。天然繊維や合成繊維の構造及び特性、機能性繊維の開発動向について講述する。教材は英文のテキストを使用する。 服飾美術分野において、繊維についての専門的知識を修得し、専門英文の読解力を向上させる。
	被服材料学演習	2	濱田 仁美	被服材料としての繊維の特性、繊維材料の物性に関しての、英文文献の輪読を行う。科学文献の読み方を学び、英文の読解力を向上させると共に、過去の研究結果や既存技術の把握を行う。必要なキーワードから、適切な文献を検索する方法を習得する。 服飾美術分野において、繊維材料物性についての専門的知識を修得し、適切な文献を検索する力及び専門英文文献の読解力を向上させる。
	被服管理学特論	2	葛原亜起夫	大切な被服を損傷させず、かつ効率良く汚れを洗浄する上で、素材に適した衣料用洗剤を選択すること、品質表示に沿った適切な洗浄を行うことが重要となる。 ここでは、被服管理学 (Fabric Care Science) の中心と考えられる洗剤・洗濯を基本に、基剤 (界面活性剤など) の働きと性質などの基礎的な知識を習得する。また、汚れの付着メカニズム、洗浄 (汚れの除去) メカニズム、着用・洗濯・漂白・保管などによる被服の損傷メカニズムを、物理、化学、生物、数学などの基礎科学、および被服材料の構造や化学的性質と関連づけることにより、理論と実際の有機的な理解力を深める。
	被服管理学演習	2	葛原亜起夫	被服管理学に関連した国外学術文献を講読し、関連する単語、文章を理解し、科学文献講読力を身につける。この授業で得られた英語力により自身の研究内容のまとめ、英文科学論文が作成できる力を養う。
	繊維加工学特論	2	森 俊夫	繊維製品には、繊維の種類により異なる染料が使用され、各種の染色が行われている。また、繊維製品の快適性、高性能化を目指し、多くの加工が行われている。それらを解説するとともに、最近の動向を捉え、問題点を挙げ、今後の繊維加工の方向性について考え、修了後、専門分野で活かせるよう指導する。
	繊維加工学演習	2	森 俊夫	繊維加工に関連した海外文献の探し方、読み方、まとめ方、発表の仕方を学び、現在どのような研究が進められているか、また、これらの文献を利用した研究の進め方について学ぶ。
	被服科学実験	1	濱田 仁美	主要な被服材料である天然繊維や合成繊維から成る繊維製品を対象として、力学的特性や機能性などの物性評価を行うことを中心に、各自の研究課題に関連した実験に取り組む。 服飾美術分野において、繊維製品の試験法を理解し、自ら試験する技能を身につけ、結果を考察する高度な専門性を修得する。
服飾造形学	被服構成学特論	2	潮田ひとみ	人体と衣服とのかかわりを、人の体温調節機構や身体特性、衣服が健康に及ぼす影響、近年開発された機能性衣服の特性から理解させ、着心地のよい被服設計を行うために必要な評価法について概説する。
			高水 伸子	人間は気候風土に適合する被服材料を工夫し、着装方法と関連付けた制作技術を発展させてきた。 その歴史から先人の知恵と、素材の特性や価値観を引き出すテクニックを学び、日常的な衣服から非日常的な舞台衣装までを視野に入れた衣服制作に関して、実践的な知識を深める。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
服飾美術分野	被服構成学演習	2	潮田ひとみ	健康で快適な衣生活に関する文献を講読することで、被服構成学特論における知識・理論をより深く理解できるようになる。受講者の研究内容に関連する文献や資料を検索させ、健康で快適な衣生活に役立つ研究論文の講読を行わせる。
			高水 伸子	主に19世紀以降のイギリス、アメリカ、フランスにおける婦人雑誌や衣服制作関連専門書を題材に、受講生同士、輪番制で関連事項を調べ、発表する。資料は主にデジタルアーカイブより閲覧することとし、実際に本学所蔵の稀観書を手に取って閲覧する機会を数回設ける。1/2サイズのトワール制作は、各自のテーマにより、体数及び実施のタイミングを変更することがある。
	被服構成学実験	1	潮田ひとみ	被服構成学特論での知識・理論をもとに、実験やその評価・解析を通して、健康で快適な衣生活のあり方について理解を深めることができる。受講生の研究テーマに応じて、実験内容は適宜調整する。着用快適感といった快適性の評価法にかかわる測定器具の扱い方やデータ解析の方法、質問紙調査法・官能評価によるデータ収集の方法とその評価の方法について理解させる。
			高水 伸子	審美性と機能性を兼ね備えた衣服を制作する技術を研鑽し、造形学服飾美術分野の学位授与方針に基づき創作の専門家として産業や舞台美術などの方面で貢献できる力を修得する。基本的な立体裁断技術は既に修得していることを前提とし、授業は夏期休暇中に連続して4日間集中とする(日時は相談の上で最終決定する)。必要な道具は、各自で持参すること(シルクペン、ピンクッション、製図用筆記具、方眼定規、裁ちばさみ、しつけ糸、手縫い用針)使用する素材について、実費がかかります。
	アパレル設計学特論	2	田中 早苗	グローバルな視点でアパレルのサイズをとらえるためには世界共通の人体形態把握法の理解が不可欠である。3D計測が一般化する現代こそ、計測点や計測部位の専門的知識が求められる。授業の前半は人体計測法を学び、後半は計測データを用いて基礎的な統計解析を学ぶ。
	アパレル設計学演習	2	田中 早苗	アパレルのグローバル展開を見据える3DCADは、システムの高度化と操作技術者の育成が課題とされる。学部で学んだ2DCADの操作技術を活かして3DCADの機能と操作を学ぶことにより、原型理論とドレーピング技術の知見を促すことを目的とする。
	和服造形学特論	2	寺田 恭子	私達の祖先は季節感豊かな四季に恵まれた風土の中で、季節ごとに最も適した生地、色彩、紋様の衣服を身につけてきた。和服の持つ美しさ、合理性、機能性、また和服独自の構成方法などはヨーロッパ世界に強い印象を与え、ファッションデザインに大きな影響を与えてきた。これらの和服の伝統的な流れに着目し、明治時代以降に普及した女物について、社会的、経済的な影響を受けながら流動的に変化してきた様子を文献や標本、映像を通して考察し、専門的知識を修得する。
	和服造形学演習	2	寺田 恭子	和服造形学特論で学んだ理論をより深く理解するために、文献や標本をもとに、多種多様な構成技術やその応用について具体的に演習を行う。長い歴史の中で完成された和服は、創造的、文化的価値が高く、種類や格、素材や構成方法など多くの種類がある。長着や長襦袢や羽織などの種類別、絵羽模様や付け下げや小紋などの格別、絹や毛織物や木綿や麻などの素材別、袷や単衣などの構成別などの造形方法を理解する。また和服の着装を体験して、体形と寸法、和服独自の直線を主体とする構成を理解し、実践できる技能を習得する。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容	
服飾美術分野	服飾造形学	服飾工芸演習	2	大塚 有里	世界各地には独自の様式を持つ多くの服飾工芸が存在している。その中から刺繍、編物、レースを取り上げ、代表的な種類や技法の知識の習得に努め、その技法に適した基布、糸、針、道具を操り、ステッチや編目などを施した小物やサンプラー作りを体験しながら、服飾における多様な表現方法、創作方法を学ぶ。最終的にはそれらを応用して発展させた作品制作を期待したい。また、デザイナーのコレクション等の中に服飾工芸的要素がどのように表現されているのかも探りたい。
	服飾デザイン学	服飾文化史特論	2	沢尾 絵	服飾・染織に関わる文化史研究では扱う資料の範囲が多岐にわたる。本講義では江戸時代の小袖意匠と染織技法に注目し、現存する実物資料、版本、絵画、技法書・教養書・小説などの文献、同時代の工芸品を研究資料として、これらの調査・分析方法について論じる。また、各資料研究から得られる事象を服飾史の視点からどのように位置づけることができるのか、併せて明確にしていく。履修者は、資料の分析を試行することで研究の手法を学び、服飾文化研究への理解を深める。また、展覧会見学を通して実物資料の活用についても考えていく。
		服飾文化史演習Ⅰ	2	沢尾 絵	日本の服飾史を支えてきた染織品には、アジアをはじめとする諸外国・地域と共通する技法が多く存在する。ここではまず、アジアという視点から染織に関する基礎的事項を確認し、改めて日本の染織品の特質を理解する。後半は特に日本の江戸時代に着目し、雛形本や教養書・解説書等を読み進め、当該期の服飾文化を探る資料の多様性や方法論を学ぶ。履修者はあらかじめ担当箇所の翻訳・解説の解題を準備し、これをもとに発表形式で進めていく。また、展覧会見学を通じて実物資料にも数多く触れ、服飾・染織史的な視点から考察する方法を身につける。
		服飾文化史演習Ⅱ	2	沢尾 絵	日本およびアジアの服飾・染織文化史研究に関する論文の講読を行う。履修者は大学および博物館・美術館の紀要、学会誌掲載論文を講読し、これをまとめて発表および議論を行う。その過程において、研究テーマの設定、研究方法、資料の検証、論文の構成、研究論文に適した表現方法などを修得していく。また最新の研究動向を自ら探索し、客観的な評価を行うことで、自身の研究に応用する力を養う。
		染織史特論	2	須藤 良子	この授業では、インドをはじめ、ミャンマー、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム、インドネシアなどの染織品について、その素材、技法などについて学ぶ。また各地域でどのように技法が発達し、それがどのように他地域へ伝播していったのかなどの事象を、実物資料を観察しながら関係づけ、染織の多様性について学ぶ。
		ファッション情報学特論	2		本年度非開講
		ファッション情報学演習	2		本年度非開講

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容	
服飾美術分野	服飾デザイン学	服飾デザイン特論	2	石田 恭嗣	デザインを考える上で時代性や社会性といった外的要因は、流行との関係において重要である。それらを考慮しながら衣服のデザインは行われている。また、衣服は人体を覆うものであることから、人体との関係についても考える必要がある。衣服は外部環境と内部環境(身体)の境界に存在し、さまざまな目的を達成するための機能や装飾、デザインが生まれた。 ここでは、さまざまな時代で流行するデザインや建築様式、芸術との関係から服飾デザインを造形的観点から考察する。また、デザイナーの表現から服飾デザインに対する考え方などについて学ぶ。 この授業は学生とのコミュニケーションを重視し、アクティブラーニングの手法を取り入れて行う。
		服飾デザイン演習	2	石田 恭嗣	服飾において経済性、ファッション性などの実用的な観点からだけでなく、造形的な側面から衣服について考えることで、より質の高い衣服のデザインを行うことができる。衣服を造形の基本要素である形、色、テクスチャに分解し、各要素が衣服と身体、衣服と環境のなかでどのように作用または関係しているのかを考察する。そして、それらを総合することで目的に応じたデザインを生み出すことができる。 ここでは、造形の基本要素である形、色、テクスチャそれぞれをテーマとした着装可能なオブジェを制作し、各回の最後にテーマやコンセプトを発表してもらう。
		色彩表現論	2	石田 恭嗣	色は身近な存在であるため、色の本質について考えられることは少ない。また、色に関する知識がなくても誰もが自由に扱うことができる。そのようなことから、色は感覚的に使われる傾向が高い。 しかし、イメージや情報の伝達において色の知識は重要であることから、色の基本を学ぶことから初め、さまざまな表現のなかで使われている色のはたらきや効果について考える。 この授業は学生とのコミュニケーションを重視し、アクティブラーニングの手法を取り入れて行う。
		服飾デザイン表現演習	2	桃木 美恵	ファッションデザイン画の表現方法として、人体プロポーション・クロージング・彩色・マテリアル等、服の構造等の基本を把握した上で、アイテムコーディネートを学ぶ。更に、トレンド分析し調べる事によりファッションデザインの可能性を探る。ファッションイメージを具体的に表現する技術を身に付け、感性をデザインへと展開する応用力を修得する事を学位授与の方針とする。
造形表現分野	メディア表現	デジタルデザイン特論	2	宮本 真帆	メディア表現の分野は広範にわたり、発達するテクノロジーは生活様式や価値観を多様化させ多彩にまた細分化し日々進化して行く。この授業ではデジタルメディアの発達過程と過去から現在までの多様な作品を検証し、現代社会に於けるデジタルメディアの役割とデザイン面の特性を隣接分野との関係を踏まえ研究する。そしてデジタルメディアデザインにとって要となる点について個々に考察し、高度なデザイン計画に不可欠な知識を得る。造形学専攻の学位授与方針に基づき、デジタルメディアを社会と人の生活に役立てるためのデザイン表現について考察し、これを実践できる専門的能力を習得する。
		デジタルデザイン演習I	2	宮本 真帆	多様・細分化されたメディア表現活動について考察し、ネット空間におけるメディア表現をWEBを対象に研究する。特に情報コンテンツの構成とユーザ・インタフェース、インタラクションの関わりについて評価・分析し、一般の問題点を抽出した上で、これに対して実際の解決策を模索し、最終的に独自のWEBデザインモデルを考案し試作する。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容	
造形表現分野	デジタルデザイン 演習Ⅱ	4	宮本 真帆	実空間におけるデジタルデザインの制作を行う。現在のデジタルデバイスの中心はPC、スマートフォンだが、これは表示装置である液晶モニタとタッチパネルやマウスなどの入力装置を予めセットアップした製品でしかない。実際には各々を別個に選択し組み合わせることが可能であり、この場合、実空間とデジタル表現を高度に融合する事ができ、更に幅広い造形作品の制作が可能になる。多くのマテリアルを扱える造形学専攻の特徴を活かして繊維・陶器・金属・絵画などとの結合も行なえる。この授業ではこうした制作に必要な技術の基礎を学び、実際に作品を作ることで、デジタルメディアを核とし他分野とも横断した表現力豊かな造形デザイン能力を養う。	
	映像メディアアート 特論	2	兼古 昭彦	メディア表現の重要な領域である映像表現の幅広い知識を身につける。 現代の映像表現の広がりを俯瞰しながら、映像表現の形式や様式を分析し解説を行う。多種多様な表現を考察しながら、写真表現や動画表現が表す空間と時間への考えを深める。授業では、多くの参考映像作品を観ることで映像表現への理解を促し、また学外の施設・展示などへの見学も行いレポート課題に取り組むなど、映像表現を幅広く研究・制作する能力を養成する。	
	映像メディアアート 演習Ⅰ	2	兼古 昭彦	様々な研究領域にとって必須なメディアとなってきた映像表現への柔軟な発想と技能を身につけることで、各自の研究テーマの幅を広げる。また造形表現のためのメディアとして映像を再考察し、表現の素材として利用することを学ぶ。演習課題としては、参考作品の分析と撮影の模倣から始め、各自の研究テーマに準じ撮影した動画の作品発表、検討・評価を行う。	
	映像メディアアート 演習Ⅱ	4	兼古 昭彦	各自の研究テーマに必要なメディア表現の考察を行い、研究テーマを空間と時間から捉え直していく。演習課題としては、各自が研究・考察し決定したテーマに基づき、さまざまな撮影状況を設定し研究素材を撮影しながら、編集加工する制作演習を行い、演習課題での作品の発表・検討、評価する。	
	表現と社会	育ちのための表現 特論	2	岡田 京子	子供の発達段階を踏まえ、造形、図画工作、美術教育の目標、性格、歴史、領域や内容を学び、専門的な知識を習得する。さらに、指導、学習環境、ICTの活用の在り方などを学び、実践につながるようにする。
		育ちのための表現 演習Ⅰ	2	岡田 京子	乳幼児、小学生、中学生、高校生の造形表現を発達段階に沿って、実践していく。大枠を理解したのちに、簡単な実践を計画し、実践する。そして振り返りをしまとめ、造形、図画工作、美術教育全体を踏まえた、育ちのための表現の在り方について考える。
		育ちのための表現 演習Ⅱ	4	岡田 京子	乳幼児、小学生、中学生、高校生の造形表現の中から、自分の研究の方向性に沿って、年齢層を絞り対象を決める。文献調査、ワークショップや授業について、子供の作品や活動の捉え方などの研究を踏まえ、ワークショップ及び授業を計画し実施する。それらを通して、造形、図画工作、美術教育全体を踏まえた、育ちのための表現の在り方について、さらに理解を深める。
	美術史	美術史特論	2	和田菜穂子	通史として、西洋美術史および建築・デザイン史を俯瞰する。紀元前の古代オリエント文明から今世紀までを対象とし、それぞれの時代背景にある芸術運動と都市文化の成り立ちを理解する。学生によるプレゼンテーションやディスカッションを交えながら、各国の芸術文化の比較を行い、理解を深めていく。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
美術史	美術史演習Ⅰ	2	和田菜穂子	「美」とは何だろうか？調和のとれたものは概して美しい。「幸せ」とは何だろうか？アートは人々の心に訴えかける力を持っており、「幸せ」をもたらすことも可能である。本授業では展覧会鑑賞および街歩き散策等によってじっくりと対象に向き合い、観察力を身につけることを行う。現代における都市、建築、美術の果たす役割を考え、それらの関係性をじっくり紐解き、新たな気づきや発見に結びつける。そして「幸福な暮らし」を実現するための芸術の存在意義について考察を加える。
	美術史演習Ⅱ	4	和田菜穂子	各自の関心に応じたフィールドワークを行い、その領域の芸術批評等を行う。例えば展覧会のリサーチや展覧会批評などがあるが、現地調査のほか、ヒアリング調査、資料調査、文献調査等を行い、多角的なリサーチを進める。
	陶芸特論	2	高田 三平	日本は古代より大陸から流入した文化を取り入れアレンジして、独自の文化を形成してきた。陶芸もその影響を顕著に受けて変遷を続けている。古代から現代迄の陶芸のあり方や特徴を、各時代の社会的背景と関係づけながら比較し自己の制作に応用していく。
	陶芸演習Ⅰ	2	高田 三平	陶芸の基礎を学習する。 伝統的成形技法・釉薬・焼成技術を学び、陶芸による形表現の基をつくる。
	陶芸演習Ⅱ	4	高田 三平	陶芸の多様な技法の中から電動ロクロを導入し、関心のある装飾技法を選択し制作する。 はじめに、選択した技法の代表的作品を模刻する。 その後、完成した模刻作品を基に試行し、自己の作品を完成させ発表する。
	金工・ジュエリー特論	2	押元 信幸	授業計画に示すように、人類と金属の出会いから、時系列にそって授業を進めることで、金工・ジュエリーについての専門的な知識を修得していく。前半は、金工品や装身具の歴史をたどりながら、金工・ジュエリーの発展と特徴を理解し、その文化史的な意味を特定する。後半は工芸造形表現の基本概念を様々な視点から文献、作品、作者を通覧し比較検討する。
	金工・ジュエリー演習Ⅰ	2	押元 信幸	それぞれの研究課題について、被服造形に係わるジュエリーまたは広義の金属造形表現を関連づけできるように、制作計画を立て、独自の発想に基づく作品を制作していく。そのためには、制作に至る導入と経緯について、的確に整理し議論しなければならない。作品制作中に、素材・技法や表現方法について具体的にアドバイスすることで、自己表現としての作品制作に必要な実践力、技能を身につけていく。
	金工・ジュエリー演習Ⅱ	4	押元 信幸	学生の研究課題について、目的、制作計画、学術的背景、方法論、調査領域などに関するアドバイスと議論を行う。また、学生の実作研究について、素材・技法や表現方法の実技指導、企画・発表・コミュニケーションなどの能力を修得し、実社会において専門技術者、教育者として自立できるよう動機づける。
	染色造形特論	2	早瀬 郁恵	生活空間の中で「テキスタイル」は様々な工芸素材の領域のうちで最も触れる機会が多い身近な素材のひとつにあげられ、衣服やインテリア＝ファブリックなど生産を前提としたものから一品制作としてのアート作品まで幅広く存在している。この教科では、生活の中で「テキスタイル」の持つ役割や必要性を歴史的に考察し論説する。さらにディスカッションにより表現手段として布や繊維とどのように取り組んだらよいのかを、様々な技法や加工法の実例を通して理解する。
	造形表現分野	工芸		

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容	
造形表現分野	工芸	染色造形演習Ⅰ	2	早瀬 郁恵	染色造形において、発想を具現化する要因として素材や技法の占める割合は極めて大きく、それらによっては表現形態が大きく変わってくる。この教科では、蠟や糊、絞りによる防染やスクリーン捺染、ブロックプリント等の染色技法とそれに基づく表現方法について、論説と演習を通してより深く理解する。さらに各種素材の特性を生かした表現効果についても制作演習により検討、批評を行なう。
		染色造形演習Ⅱ	4	早瀬 郁恵	各自の研究するテーマの充実を図るためには、幅広い視野とより高度な表現力が要求される。この教科では、染色造形演習Ⅰで学んだ染色技法だけでなく、テキスタイル加工と他のカテゴリーの表現技法や異素材との組み合わせを論説と制作演習により模索する。表現の幅を広げ、新しい視点から捉えた染色作品(平面から立体作品まで)の展開を試み検討、批評を行なう。
		織物特論	2	大木 敦子	織物の歴史は人間の文化的生活の歴史であり、その技術の発展は時に人類の歴史の転換点に大きく関わってきた。「衣」「食」「住」のすべてに関わる織物の役割とその変遷、世界各地の織物の技術や道具を含め歴史的背景を比較し考察する。またアートとしてどのように造形要素が確立されてきたのかを考察し、今後のテキスタイルアートの可能性を議論する。
		織物演習Ⅰ	2	大木 敦子	織物の基本構造の理解と専門的知識の習得のためには組織図を理解することが必要である。 三原組織(平織・綾織・朱子織)をはじめ各組織を読み解くことができ、オリジナルの組織図をおこすことが出来るようになることを目指す。また各組織と素材の関係を考察し、作品制作の中で応用していく。
		織物演習Ⅱ	4	大木 敦子	織物の作品制作においてこれまで習得してきた技法や、素材体験を更に深める。 各々のイメージの具現化に必要な技法や素材を見極めるための実験・試作を重ね、展示方法、演出方法を含め完成度の高い作品を制作する。
	平面表現	絵画特論	2	山藤 仁	ラスコー洞窟壁画、アルタミラ洞窟壁画、ショーヴェ洞窟壁画について講述とディスカッションにより考察を始める。絵画の歴史を参照しながら現在の美術表現まで重要な絵画の諸運動を取り上げる。20世紀初期では、後期印象派、キュビズム、フォービズム、アンフォルメル、シュルレアリスム、バウハウス等を、第2次大戦後では、抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、ニューペインティング等を取り上げる。これらを鑑賞・分析し、ディスカッションを通じて絵画と社会との関わり近・現代の美術表現における美とは何かを考察する。この学修を基に自身の研究制作活動と関連づける。
		絵画演習Ⅰ	2	山藤 仁	近・現代の絵画表現では、数々の絵画運動のなかから多様な素材・技法による表現が試みられてきた。この科目では、近代の作家と作品について、制作演習を通じてより具体的に考察を深め、それを各自の表現の応用に発展させることが目的である。具体的な方法として、数名の作家の作品についての模写による構図研究、作家が試みた素材と技法の制作演習により、作家作品をより詳しく分析する。制作過程を追体験することにより作家がどのような意識で制作に望んだかその概念とは何かを理解し技術を修得する。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容	
造形表現分野	平面表現	絵画演習Ⅱ	4	山藤 仁	現代の美術は、平面から立体、オブジェ、映像、パフォーマンス、コンセプチュアルアート等、近代美術からさらに多様に多彩な表現が展開されてきている。この科目では、現代の美術と作家・作品とその意味合いについて解説、制作演習を行い平面表現の可能性を追求することが目的である。例としては、抽象表現主義の作家ポロックのドリップングの技法による平面表現、また、多くの作家により試みられている様々な素材を併用したミクストメディアやインスタレーション(パブリックアート含む)等の近代から現代の美術に発展してきた表現の意味合いを学修しより専門性の高い研究と操作を行う。
		グラフィックデザイン特論	2	有馬十三郎	視覚・コミュニケーションデザインにおけるグラフィックデザインを生活文化との関係で研究し、社会性を重視した計画立案を前提としたデザインの意義を検討する。造形学専攻の学位授与方針に基づき、広告のグラフィックデザイン、視覚・コミュニケーション表現、イラストレーション、写真表現などさまざまな領域でのグラフィックデザインの特徴を比較し、グラフィックデザインの専門的能力を習得していく。
		グラフィックデザイン演習Ⅰ	2	有馬十三郎	視覚・コミュニケーションデザインにおけるグラフィックデザインは様々なデザインの研究領域にとって関連する分野といえる。そのデザイン表現において、柔軟な発想と技能を身につけることは、各自の研究テーマの幅を広げる。造形学専攻の学位授与方針に基づき、演習課題は参考作品の分析から始め、各自の研究テーマに準じデザインの作品発表、検討・評価を行う。
	グラフィックデザイン演習Ⅱ	4	有馬十三郎	各自の研究テーマに必要な視覚・コミュニケーションデザインにおけるデザイン表現の考察を行い、研究テーマを平面から捉え直していく。造形学専攻の学位授与方針に基づき、課題は各自が研究・考察し決定したテーマに基づき、さまざまなメディア媒体を設定し、研究素材を選定しながら制作演習を行い作品の発表・検討、評価等を行う。	
	空間表現	住環境特論	2	手嶋 尚人	「表現とまちづくりの関係性について」をテーマとし、講義形式で行う。住民主体のまちづくりが、日本において言われてから既に30年以上が経つが、そのプロセスの大変さや合意形成の難しさなどから未だ定着できていない。近年、アート表現によるワークショップやイラストレーションによる視覚的な情報伝達の効果などまちづくりにおける役割が注目されている。また、地方においてもものづくりとまちづくりの関係が重要視されており、表現とまちづくりの関係を学ぶことの意義は大きい。具体的には、時間軸による分析と併せ事例の紹介をおこなっていき考察する。
		住環境演習Ⅰ	2	手嶋 尚人	空間表現特論においてテーマとしている表現とまちづくりの関係性について事例調査・研究を行い、その結果をプレゼンテーションし、表現の持つまちづくりにおける役割について議論し考察する。特に、アート表現における価値の転換や再発見の力、またワークショップなどによる合意形成するコミュニケーション力を中心課題として考えていく。具体的には、まちづくりアートプロジェクトへの参加やアートNPOへのヒアリングを通して、現状を把握分析し今後の課題を発見考察していく。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容	
造形表現分野	空間表現	住環境演習Ⅱ	4	手嶋 尚人	継承とまちづくりをテーマとして行っていく。まちづくりの分野において、全国の重要伝統的建造物群保存地区など伝統的民家や町家、町並みの保存を資産、課題として行っているものは多い。近年、その中において、文化財としてのモノではなく、地域の生活文化としてまちづくりへ転換していかうという動きも増えている。ここでは、継承をキーワードとし、地域の生活文化とまちづくりについて考察する。具体的には事例調査を行うとともに具体的なエリアを取り上げ、そこにおける継承とまちづくりの可能性について検討考察する。
	空間表現	インテリアデザイン特論	2	豊田 聡朗	「社会とデザインの関係性」を人間らしさ・豊かさをサブテーマにしなが講義+ディスカッション形式で行う。近代史から現在までのデザインの社会への関わりは、技術・戦争・思想の変化・ムーブメント・経済・環境問題・エネルギー問題・AIなどの影響を受けつつ私たちの生活に直接届いている。作られ続けるデザインが、私たちの生活環境となり、私たちの感性を育む要因でもある。デザインはクライアントの思惑と社会の理想を背負う運命を辿るのだが、この複雑克つ矛盾を孕む状況下で1人のデザイナーとして判断する力・思想の礎を幅広い視点から養う。この講義は、造形学専攻の学位授与方針に基づき、デザインの生活美術における役割、産業、教育における役割を多角的に理解し専門分野としての学識を修得していく。
		インテリアデザイン演習Ⅰ	2	豊田 聡朗	「人と物の関係性」を「椅子という機能」と「人と人をつなぐ」をテーマの中心に考え、人間の観察、在り様を深く考察する。椅子は座るだけの道具ではなく、人の居場所や地位を表し、同じ空間を共有する者同士が相互を感じ対話やコミュニケーションのきっかけを作る。このような視点に考慮しながらデザインを試みる。 また、物の魅力・美しさの要素を様々な分野に視野を広げながらデザインの可能性を探る。 この演習では、身近な「家具」を通し、生活美術の可能性と意義を追及、専門分野の学識を広げ、能力を修得していく。
		インテリアデザイン演習Ⅱ	4	豊田 聡朗	「人と空間の関係性」：見せる空間・集う空間・滞留する空間・往来する空間等の観点から、各自がテーマとする実際の空間の特性を分析評価する。更にその空間の機能、社会的役割を歴史的経緯、文化性、生活者のアイデンティティー、景観、環境などに広げ、「場・空間」の魅力を引きだす計画を試みる。 「人と物の関係性」：物を作る人(職人)・材料産地・地域産業の関わりを学びながら、生活空間を彩る商品の開発を試みる。職人の技術と地域の資材を活かす「人と人をつなぐ」・「技術と地域をつなぐ」ことを趣旨にデザイン業務の可能性を探る。

※研究科所属の専任教員の論文等の情報は、東京家政大学HPの研究者情報データベースで確認できる。

(4) 英語・英語教育研究専攻

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
英語教育分野	小学校英語教育特論	4	吉野 康子	<p>多様な専門書や論文に触れながら、主に次の内容を論じ、理解を深めさせ、到達目標の達成をめざす。特に扱う題材は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼少期の外国語習得の特徴、早期英語教育の目的 2. 近隣諸国の早期英語教育の現状 3. 日本の英語教育行政の歴史と小学校外国語科導入まで 4. 社会的ニーズとしての早期英語教育と学校教育 5. 早期英語教育の理念と児童英語指導法の概要 <p>これらを通して小学校英語教育に関する理解を深め、専門的知識を獲得し理論に通暁し、実践力を高める。他の英語教育系科目を履修する上での基礎となる「概論」的内容も多く扱うこので、英語教育に関わる高度職業人としての視野を広げ、資質を高めることになる。</p>
	英語教育実践特論Ⅰ	4	太田 洋	<p>理論・研究と実践両面から英語教育の様々なトピックについて、これまで何がわかっている、何がわかっていないか、どのような課題があるのか理解を深める。そして理論・研究の結果を基に、これまでの実践を振り返り、どのような実践を行うことが望ましいのかを考察し、具体案を作る。「英語教育実践特論Ⅰ」では授業づくりを支えるトピックについて扱う。授業は1つのトピックを3回分の授業時間をかけて行う。— 1. 理論・研究に関する文献・論文を読む 2. 様々な教師により行われてきた実践を調べ、発表、考察する 3. 自分の実践にどのように生かすか考える—</p> <p>*この授業は「第二言語習得研究Ⅰ、Ⅱ」と連携して、隔年開講で行う(令和4年度非開講)。</p> <p>[学位授与方針] 英語・英語教育研究専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育学や言語習得理論の最新の情報を取り入れながら多角的に研究し理解を深めている。 ・研究の成果を生かし、高度職業人として教育の現場で指導的教育実践活動ができる。
	英語教育実践特論Ⅱ	4	太田 洋	<p>理論・研究と実践両面から英語教育の様々なトピックについて、これまで何がわかっている、何がわかっていないか、どのような課題があるのか理解を深める。そして理論・研究の結果を基に、これまでの実践を振り返り、どのような実践を行うことが望ましいのかを考察し、具体案を作る。「英語教育実践特論Ⅱ」では、1単元、1時間の授業づくりに関するトピックについて扱う。授業は1つのトピックを2回分の授業時間をかけて行う。— 1. 理論・研究に関する文献・論文を読む 2. 様々な教師により行われてきた実践を調べ、発表、考察する 3. 自分の実践にどのように生かすか考える—</p> <p>*この授業は「第二言語習得研究Ⅰ、Ⅱ」と連携して、隔年開講で行う。(令和4年度開講)</p> <p>[学位授与方針] 英語・英語教育研究専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育学や言語習得理論の最新の情報を取り入れながら多角的に研究し理解を深めている。 ・研究の成果を生かし、高度職業人として教育の現場で指導的教育実践活動ができる。
	第二言語習得研究Ⅰ	4	田頭 憲二	<p>第二言語習得研究(Second Language Acquisition, SLA)の概略を紹介し、今後の英語教育実践にどう生かしていくべきかについて、現在までに行われてきた先行研究などを例として具体的に考察していく。その際、実践的な課題を用いることで、具体的な教授場面を基に講義を進める。具体的には、英語または日本語で書かれた第二言語習得に関する基本的な文献を取り上げ、教員による講義、担当者による報告、全体討議等を行う。</p> <p>*この授業は隔年開講で行う。(令和4年度非開講)</p>

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
英語教育分野	第二言語習得研究Ⅱ	4	田頭 憲二	第二言語習得研究 (Second Language Acquisition, SLA) における個人差要因を扱った研究の概略を紹介し、今後の英語教育実践にどう生かしていくべきかについて、現在までに行われてきた先行研究などを例として具体的に考察していく。その際、実践的な課題を用いることで、具体的な教授場面を基に講義を進める。具体的には、英語または日本語で書かれた第二言語習得の個人差に関する基本的な文献を取り上げ、教員による講義、担当者による報告、全体討議等を行う。 *この授業は隔年開講で行う。(令和4年度開講)
	英語技能指導法演習	4	ジャクソン・クーン・イエツ・リー	The purpose of this class is to understand and discuss frameworks in teaching productive skills (writing and speaking), as well as to explore practical applications of such frameworks. The spring semester focuses on topics related to EFL writing pedagogy, and the fall semester focuses on speaking pedagogy. Through discussing with classmates and reflecting upon the knowledge gained in this class, students will share and critically examine their current beliefs to teaching productive skills and aim to apply the new knowledge to improve their current teaching approaches.
	国際英語技能指導法研究	4	ジャクソン・クーン・イエツ・リー	The purpose of this class is to study and discuss the theoretical background of teaching English as a Lingua Franca, as well as to explore and practice applications of such concepts in Japanese classrooms. Through weekly reading and discussions, students will have opportunities to share and challenge different approaches and ways of thinking related to this topic, with the aim that the results of such discussions will help students gain new perspectives and practical approaches to use in their current/future teaching contexts.
	英語教育課程特論	4	齋藤 嘉則	1990年に設立された日本カリキュラム学会の最新の研究動向を捕捉しつつ、言語教育のカリキュラムの編成・実施・改善の要諦を確認する。理論面の検討は、テキストである Language Curriculum Design.の内容を素材として批判的に吟味、検討する。事例研究は、理論面と並行して小中高等学校など校種別の代表的な事例を分析しつつ、高度職業人として教育の現場で、指導的教育実践活動に携わることができる豊かな知識と技能を習得する。
	英語教育評価特論	4	長沼 君主	言語能力評価に焦点をあて、言語能力を伸ばすにはどうするかを考える。現在、世界各国で代替評価としての自己能力評価の利用が目立っている。現在、ヨーロッパ共通言語参照枠 (CEFR) などいくつかの代表的な言語能力発達段階の枠組みを取り上げ、その背後にある理念とともに日本の外国語習得環境における能力評価のあり方を考える。また、学習志向評価や逆引き設計による学習デザインについても合わせて考えながら、日本の外国語習得の教室においてどのように評価を用い、能力を伸ばしていくか、また、自律的学習者をいかに育成していくかを議論する。本授業では英語教育学や言語習得理論の最新の知見を取り入れながら、高度職業人として教育の現場に理論を還元し、指導的教育実践活動ができるようになることを目指す。
	英語教育リサーチメソッド	4	森田 光宏	研究課題を設定し、その目的に合わせた研究手法を用いることは、どんな学問分野でも当然のことと考えられるが、英語教育という学際的な分野では、さまざまな課題と手法が用いられる。本講義では、研究課題の設定方法を学ぶとともに、その課題を適切に分析・検討する方法論について、基本的な知識を体系的に学ぶ。また、英語教育に関連した論文を取り上げ、その研究課題や手法を検討することで、自らの研究課題に対する適切な分析を行う方法を身につける。
	メディア教育研究	4	小池 新	本授業は、情報メディアを活用した教育の事例を参照し、教育工学研究の視点から、問題の所在、有用性、改善点について議論を行います。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
英語・英語文学分野	英語学特論	4	根本 貴行	生成文法は人の言語機能についての理論であり、説明的妥当性を満たす研究が求められている。いくつかの構文研究においては、同一構文の説明であっても見解が大きく分かれるものも見れるが、母語獲得過程を考慮に入れた上で、構文の獲得ということを見ると、興味深い結論に至ることが考えられる。この授業では、成人の文法と母語の獲得過程を並行して、言語機能の興味深い側面を概観していく。
	英語学研究	4	鈴木 繁幸	本講座では、語用論の概念研究と、それを通じたレトリック(修辞)に関し論理的に論証する事が求められる。 語用論とは、Pragmatics is the study of speaker meaning(Yule,1996)とあるように、発話者が使用する表現そのものよりむしろ、その表現の意図するところを研究する学問である。そして、その研究範囲は広範囲にわたっているが、本講座ではAdvertising Language(Tanaka,1994)を中心に精読することで、広告において使用されるレトリックを、語用論の視点から研究する。 前期は主に和訳を行い、広告とレトリック、そして語用論に関する知識を深める。 後期は、Advertising Languageの講読を続けるとともに、前期に研究した知識を基に、自ら調査した広告の特徴について発表し、議論する。
	英文学特論	4	石塚 倫子	この講義においては、イギリス近代初期の社会、政治、宗教、経済、歴史、文化を視野に入れながら、シェイクスピア作品を取り上げ、さまざまな解釈の可能性を探る。取り上げる作品は、悲劇、喜劇の各ジャンルからそれぞれ1作品を選び、伝統的な批評史を踏まえながら、現代におけるシェイクスピア解釈につなげて考察する。総合して学位にふさわしい学識・能力を修得する。
	米文学特論	4	関根 全宏	環境思想、ネイチャーライティングにおける基本概念をおさえながら、自然をめぐる文献を精読し、現代を生きる我々人間と自然とのあり方について考えていく。具体的には、国内外における自然をめぐる文学批評理論(エコクリティシズム)の主要な先行研究を精読し、議論をする。それをふまえ、ネイチャーライティングの祖とされるヘンリー・D・ソローの『ウォールデン』を読み、人間と自然との関係について考えていく。 (学位授与方針)英語文学作品を研究し、人間、社会、文化、歴史の仕組みについて理解を深めている。
	英文学研究	4	谷田 恵司	イギリスの小説家L・P・ハートリーの作品を研究する。代表作の一つであるEustace and Hilda三部作の第一作 <i>The Shrimp and the Anemone</i> を読む。この長編小説では、子供の心理、姉と弟の関係、階級制度などの問題が、物語の中で詳細かつ鮮明に描写され分析される。そうした点に注目し、当初は主にテキストを精読して行き、その後は担当者の発表を中心にして討論や質疑応答を交えて授業を進める。
	米文学研究	4	並木 有希	都市と文学をテーマに、19世紀半ばから現代までのニューヨークを扱った作品を時系列に沿って鑑賞する。近代ニューヨークにおいては、急激な摩天楼の発達、移民の流入があり、世界に類を見ない重層的で複雑な都市空間が成立した。文化表現が都市の発展をどのように表象したのかを考察する。 小説を中心とし、詩、戯曲、他の芸術作品なども紹介することで、包括的な理解を進める。
	英米文化研究	4	原 恵理子	まず「文化とは何か」という定義と特徴を考える。曖昧なまま使われる「文化」という用語と考え方がもつ概念や理念の機能や変遷について学ぶ。文化が今日に至るまでにどのような変容を遂げているのかについて検証し、イギリスとアメリカ双方の文化史の知識を深める。とくに最近のカルチュラル・スタディーズの研究動向を踏まえたうえで、比較文化、コミュニケーション、異文化間交流、多文化理解、ジェンダー、人種、民族、国家の観点から文化研究の理論や実践の方法を身につける。 (学位授与方針)英語文化に関する研究能力を有した視野の広い総合力を持った人材の養成を目的とする。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
英語・英語文学分野	歴史言語学特論	4	横田 由美	歴史言語学とは時の流れによって言語はどのように変化するかだけでなく、何故変化をするのかを追求する学問である。概して言語が変化することは負と捉えられる傾向があるが、長い目で見ると自然の摂理であることが分かる。言語は言語そのものと言語使用の2つに分けられ、前者にそれが現れて来るのは後者に起因していることが多い。ことばは意思疎通を図るために社会集団内で使用され、個の集団での関係性の中に言語変化へ導く要素が集約されているからである。
	異文化コミュニケーション研究	4	五十嵐淳子	前期は、主に異文化コミュニケーション研究の分野で扱われる様々な基礎的な知識や理論について学び、その理解を深める。後期は、主に実際に研究する場合の方法論を習得する。学位授与方針にある「視野の広い総合力を持った人材の養成」につながる授業である。
共通分野	英語論文技法演習	4	ロバート・ジェイムス・ロウ	This class will help students understand how to complete a thesis. Students will develop a thesis proposal and then develop this idea into a meaningful piece of writing. A particular focus will be placed on learning how to create clear paragraphs and then how to link these parts together in a logical manner. Additionally, students will work on recognizing and correcting common grammatical errors and review different means of organizing a text. The exact content of the class will depend on students' abilities and needs; therefore, the content of this syllabus may change in order to best help students complete their theses.
			トム・エドワーズ	In this class, students will learn some of the key points of coherent and clear academic writing. They will learn first the elements of writing paragraphs with a focus on introducing, linking, and contrasting ideas. They will then be introduced to methods of referencing, and ways of avoiding plagiarism and paraphrasing sources.

※研究科所属の専任教員の論文等の情報は、東京家政大学HPの研究者情報データベースで確認できる。

(5) 臨床心理学専攻

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
臨床心理学基礎分野	臨床心理学特論	4	福井 至	本講義では新たに提唱されつつあるものも含めて、臨床心理学に関する種々の理論と技法について学ぶ。また、各々の理論・技法間の関係を構造的に考察する機会とする。前期の1回～14回は、医療保険が適用されている、うつ病の認知行動療法と、不安障害の認知行動療法について学習していく。また後期の15回～28回は、各種心理療法について、その開発過程や人間観、および病理論などについて理解し、その治療法の実際をビデオで確認し、ディスカッションしていく。 本講義を通して、臨床心理士・公認心理師として必要な理論と実践力を身に着けることが期待される。
	臨床心理学面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	2	岡島 義	臨床心理面接では精神分析理論や認知・行動理論など、心理療法ごとの理論に基づいた支援が行われている。本講義では、各心理療法の理論と方法、およびその実践内容を理解するとともに、目の前のクライアントに応じた支援方法について学ぶ。
	臨床心理学面接特論Ⅱ	2	杉山 雅宏	心理面接の始め方、終わり方、目標設定、守秘義務などを説明する。個々の面接技法(基本・応用)、防衛や多弁といった対応の難しいクライアントの特徴とその対処方法をについて理解する。各自の発表と講義形式によりすすめる。個々の面接技法(基本・応用)について説明した後、ロールプレイ、グループワーク、グループ発表を行う。
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	岡島 義	臨床場面では、クライアントを多面的に理解することで適切な支援を提供することができる。本講義では、心理アセスメントの意義、倫理、アカウントビリティを理解した上で、各心理検査の理論と方法、及びその実践方法を知るとともに、ケースフォーミュレーションの理論と方法について学ぶ。
	臨床心理査定演習Ⅱ	2	平野 真理	心理職にとっての心理査定は、人間理解の一つの方法として非常に重要なものである。本演習では投影法を取り上げる。単なる知識の修得ではなく、クライアントを総合的に理解・把握するための実践的なスキルを修得することに力点を置く。ロールシャッハ検査について複数名に対する検査実施を行い、検査の実施、スコアリング、解釈のスキルを習得する。本授業を通して心理職として必要な投影法を用いたアセスメントの理論と実践能力を身につけることを目指す。
	臨床心理基礎実習	(2)	三浦 正江 五十嵐友里 (オムニバス)	本実習は、2年次の臨床心理実習に向けて、授業の到達目標を達成するために、オムニバス方式で実施する(全28回)。 1～14回(五十嵐)：基礎的な臨床心理実習に関する知識とスキルについて学習する。 15回～28回(三浦)：同一のクライアントロールに対する3回の継続した心理面接(ロールプレイ)とカンファレンスを通して、クライアントの問題におけるアセスメントや心理支援の実施について具体的に学習する。
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	(1)	福井 至 杉山 雅宏 三浦 正江 岡島 義 平野 真理 五十嵐友里 齊藤 和貴 相馬 誠一 (複数教員担当)	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)の時間は450時間以上で、担当ケース(心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援等)に関する実習時間は計270時間以上(うち、学外施設における当該実習時間は90時間以上)とすべきことと国から指定されている。さらに、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の主要5分野のうち3分野以上の施設において実習を実施し、保健医療分野は必須とされている。 そのため、本実習では保健医療分野病院実習は、精神科実習として国立国際医療センター、埼玉医科大学総合医療センター、高月病院、赤坂クリニック、睡眠総合ケアクリニック代々木、小石川東京病院のいずれか2施設で実習を行う。また、福祉分野としては加賀福祉園で、教育分野としては北区教育委員会とさいたま市教育委員会のいずれかで実習を行う。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
臨床心理学基礎分野	臨床心理実習Ⅱ (多様な形式のスーパービジョンを含む)	(1)	福井 至 杉山 雅宏 三浦 正江 岡島 義 平野 真理 五十嵐友里 齊藤 和貴 相馬 誠一 (複数教員担当)	臨床心理実習Ⅱでは、個人スーパービジョンと集団スーパービジョン、およびケースカンファランスを含む実習を行う。
臨床心理学専門分野	臨床心理統計法特論	4	上野 雄己	心理学を科学たらしめる要素の一つは、心や行動の定量化およびその統計的解析にあるといえる。それゆえ、心理学を学び、実践する者にとって、心や行動についてのデータの特徴を理解することは不可欠である。本授業では、データをもとに人の心や行動を理解することを主眼として、そのために求められる基本的な統計的知識を学ぶ。基本的にHADの統計解析ソフトを用いた実習形式で行い、知識、統計解析、プレゼン等のスキルの獲得を目指す。そして、受講者の興味・関心に合わせて、研究内容・計画を立案し、データ収集から分析、研究論文の作成、プレゼンを通して、臨床心理学の研究や実践に求められる心理統計学への総合的な理解を深めてもらいます。
	臨床心理学研究法特論	2	飯村 周平 田中 元基 (オムニバス)	研究テーマの設定の仕方、問題と目的の明確化、自分の研究の特徴・独自性、対象者の選定、データの収集と分析の方法(実験法・観察法・面接法・質問紙法・事例研究法)、結果の解釈・考察、結論の導き出し方などについて学ぶ。また、自分の研究テーマに関する先行研究の紹介(各自発表)を通じて、自分の研究計画を練り直すきっかけとする。
	人格心理学特論	2	嶋田 洋徳	心理臨床場面において、クライアントの訴えを理解し、援助の具体的な方策を考える際に、クライアントのパーソナリティを理解することは不可欠である。本講義では、精神力動的な背景を持つパーソナリティ理論や人間性心理学を基盤にしたパーソナリティ理論との対比を行いながら、学習理論、行動理論、および認知行動理論を背景としたパーソナリティ理論について、典型的な症例を取り上げながら概観する。なお、本科目は、学位授与方針における心理臨床に関する理論と知識の基礎に位置づく。
	認知心理学特論	2	高橋 秀明	われわれ人間は、日常生活を送る上で、さまざまな認知活動を行っている。認知心理学は、実験的な方法ばかりでなく、調査や観察といった方法によっても、認知活動にアプローチしている。本講では、認知心理学の各領域からいくつかの課題を体験し、日常生活での意味について検討することを通して、認知心理学の研究手法と理論とを身に付けることを目標とする。また、臨床心理学と認知心理学との接点についても議論する。
	社会病理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	太田 大介	社会病理学は人間が生きていく過程で現れる社会的異常をとりあつかう分野である。そこには、個人と集団の病理から地域社会や社会全体の病理までが含まれている。わが国では地下鉄サリン事件などの集団テロ事件のほか、昨今は公共の場での無差別傷害事件も頻発している。このような時代背景を踏まえて、本講義では臨床心理士および公認心理師が、その専門的知識の基盤の上に、生物、心理、社会を含む多角的視点から、それらの問題をどう理解し介入していくべきか検討する。
家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	吉川 延代	比較的新しい学問領域である家族心理学について、時代的な流れを踏まえながら考えてゆく。授業は家族心理学に関する主たる概念を学習するとともに、家族心理学の基本的なパラダイムを理解する。また、家族心理学は臨床的必要性に応じて成立し理論化されてきたという歴史的経緯があることから、家族療法の技法やその特徴についても言及する。特に従来の心理療法との異同、それへの影響や最近の動向についても学習する。	

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
臨床心理学専門分野	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	中野 正寛	保健医療分野における臨床心理士および公認心理師の業務の実践に必要な精神医学の概要、主要な精神疾患の症状、経過、診断、治療などの基本事項を正しく理解する。精神障害を有する人々が抱える困難を知り、適切な支援方法を具体的に考える力を養う。主に、講師から与えられた課題について学生が調べてまとめ、それを発表し、その課題について議論することによって授業を進行する。
	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	太田 大介	心身医学は内科学ほかの身体医学および心理学を基盤として疾病の心身相関について研究する学問である。そのため、身体疾患への知識、精神疾患の知識、さらには心理学の知識も必要である。本講義は講師から与えられた課題(テーマ)を調べ、講義の中でプレゼンテーションをおこない、質疑応答に答えられることを目的とする。発表形式は紙媒体だけではなく電子媒体も駆使できることが望ましい。また、学生の疑問からの課題もあり得る。
	障がい児・者心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	中野三津子	発達障がいにかかわる歴史的な流れから、2005年発達障害福祉法が施行され、2013年に公表されたDSM-5の内容を踏まえて、現在の発達障がいを理解する。発達障がいは脳の疾患であり、独特の発達をすること、健常児と発達障がいを持つ児との違いを生活・学習・人間関係などから理解する。小児ばかりではなく、成人の発達障がいの問題点についても理解することができる。
	グループ・アプローチ特論	2	相馬 誠一	本授業では、学校で起こっている問題、子どもたちの成長課題や日常的な悩み、さらに軽度発達障害などに触れ、その予防・援助方法として展開できるグループ・アプローチの計画実施をできるように学ぶ。計画実施のプロセスを演習を通じて行い、学校やコミュニティで仕事をするときに必要な考え方を身につける。
	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	バーンズ亀山 静子	今日の学校臨床はいじめ、不登校、非行などの実践的な課題の対応に迫られている。これらの課題は、ただ単なる対処療法や単一理論では、解決が困難である。そこで、学校臨床心理学の意義と役割を明らかにし、教育分野に関わる公認心理師の理論と実践について理解する。具体的には、児童期・青年期の心の発達と危機を踏まえて、学校臨床心理学の実践として「不登校」「いじめ」「非行」などの課題と現状を分析し理解する。
	発達臨床心理学特論	2	平野 真理	この授業では、発達臨床を考える上で重要なキーコンセプトであるレジリエンス概念を扱う。レジリエンスとは、困難または脅威的な状況にもかかわらず、うまく適応する力のことである。もともとは発達に負の影響を与えるようなリスクを抱えながらも適応的に発達した子どもたちへの研究から発展した概念である。前半は、ワークに取り組みながらレジリエンス(心理的回復力)概念およびアプローチの理論と具体的な実践を体験的に学ぶ。後半は、レジリエンスの個人差と多様なあり方を理解する視座を得た上で、効果的な心理支援の可能性を考案できることを目指す。
	産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2	松本 真作	動機づけ、組織の活性化、就労支援、キャリア支援等、また、職場の人間関係、メンタルヘルス、ストレス等における理論や測定方法をみていきます。また、産業、組織、労働の分野で、公認心理師、キャリアコンサルタントとして活躍するには、産業や仕事の変化と現状、労働関係の法令、各種支援制度等々に関する知識も必要であり、これらもみていきます。最後にcase studyとして、学んだ知識やスキルを活用し、今日の社会で実際によくある問題にどのように対応するか検討します。
	生徒指導・教育相談・キャリア教育 (心の健康教育に関する理論と実践)	2	三浦 正江 相馬 誠一 (オムニバス)	心の健康教育、生徒指導、教育相談、キャリア教育の基本的な知識および基本的なスキルの習得を目的とする(オムニバス方式/全14回)。 (相馬/1回~7回)基礎的な知識とスキルについて学習する。 (三浦/8回~14回)心の健康教育の基盤となる理論や実践例を学び、様々な分野で心の健康教育を行うために必要な知識とスキルを習得する。

※研究科所属の専任教員の論文等の情報は、東京家政大学HPの研究者情報データベースで確認できる。

(6) 教育福祉学専攻

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
生涯学習・社会教育分野	生涯学習学特論	2	宮地 孝宜	ユネスコの生涯教育論を出発点とするこれまでの政策動向、生涯学習を支援するための諸方策について、幅広く取り上げる。ただし、受講者のこれまでの学習状況により、授業内容を変更する場合もある。なお、本授業は、社会教育・生涯学習の現場におけるリーダー（高度専門職業人）としての人間性と広い視野の獲得を目指すものである。
	生涯学習学演習	2	宮地 孝宜	本授業は、成人教育および成人教育者の役割について検討する。具体的なテーマは授業計画の通りである。なお、本授業は、教育に関わる現場のリーダー（高度専門職業人）として、必要な理論と実践能力を身につけることを目指す。
	社会教育学特論	2	山本 和人	社会教育学特殊講義では、学校教育に対して理解しにくい社会教育について、教育学における社会教育学の位置、生涯学習との関連性を検討したうえで、学校・家庭・社会の領域における教育の特徴と関連性、職業生活、地域生活、余暇生活などと、社会変化の激しい時代における学習活動の意味と位置づけを検討する。場合によっては、課題追及的に一部を取り上げる。
	人間教育学特論	2	山本 和人	人間の個人的な発達、家庭に始まり、学校や社会（集団）の中における教育的働きかけで達成されていく。そのプロセスの中で、どのような環境・条件、いかなる方法で、どのような教育的働きかけが行われていくのかについて検討する。また、集団や社会状況、およびそこで求められる「人間像」について明らかにする。
	教育福祉学特論	2	井森 澄江	人間の発達と家庭環境、特に親子関係との関連について、発達心理学の観点から学ぶ。各時期の親子関係について概略を学んでから、子どもの発達と家庭環境をめぐる重要な論文の講読を行い、地域社会や学校にあって人を支援するために必要な知識や技術、また社会的決定への示唆についても学ぶ。
	学校カウンセリング演習	2	バーンズ亀山 静子	学校カウンセリングの意義と役割を明らかにし、学校カウンセリングの理論と実際について理解を深める。具体的には、学校臨床心理学の理論と実践的課題について、単一理論の安易な適応論ではなく、本質的な心理学的な課題について質疑を深めていきたい。また諸外国における学校カウンセリングや学校臨床心理学の現状課題を検討し対応の視点を深める。
	障がい者教育特論	2	半澤 嘉博	平成19年度からの特別支援教育への転換により、様々な障害者の教育は、個別の教育ニーズへの支援という視点から大きく見直しがなされている。また、障害者の権利条約の批准や共生社会づくりに向けてのインクルーシブ教育の重要性が示されている。このような状況を踏まえ、障害者教育の在り方や個別の支援計画の作成・実施を実践的に積み重ねていくことが重要である。知的障害や発達障害の事例を通して、具体的な支援の在り方を検討していく。
社会福祉学分野	社会福祉学特論I	4	平戸ルリ子	前半は基礎文献を用い、社会福祉がどのように変化・発展してきたかを理解する。後半は、急速な社会変動と、それに伴う生活ニーズの変化に対応した近年の福祉改革に注目し、社会福祉の制度・対象・支援・財源等がどう変わろうとしているのか、課題と今後の見通しについて、ディスカッション等を変え認識を深める。ゲストスピーカーや現場機関の訪問も予定している。社会福祉の諸理論を学び、現状や課題を理解できる。社会福祉の今後の動向について考察できる。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
社会福祉学分野	社会福祉学特論Ⅱ	2	田中恵美子	社会福祉学特論Ⅱでは、社会福祉分野において専門的研究を進めるために必要な障害に関する知識の習得を目指す。特に障害の社会モデルの考え方に則り、多様な障害のとらえ方について理解を深める。授業では内外の文献にあたるほか、ゲスト講師などを交えての議論も検討する。より実践的な知識・技術の習得を目指して、可能であればフィールドワークも行いたい。各自の関心テーマに沿ったプレゼンテーションの機会を与える予定なので、各自が活動・議論に積極的に参加し、自分の意見をまとめ他者に伝える技術の習得も行えるようにしたい。
	社会福祉学特論Ⅲ	2	松岡 洋子	エイジング・イン・プレイス(地域居住)概念と実際について、基本参考書と内外の文献をもとに高齢者居住(住宅政策)と地域ケア(ケア政策)の理論を踏まえながら学ぶ。テキストを使用するが、論文購読(英文含む)を多く取り入れ、最新の動きにふれることができるように工夫する。 論文を批判的に読むことを通して、論文の構成、調査手法、論旨の進め方などについても学び、修士論文執筆の土台形成に役立てる。授業形式は、前半は講義形式、後半は課題発表にて構成する。
	精神保健福祉特論	4	福富 律	精神保健福祉分野における実践を、ソーシャルワーク研究の観点をもち、フィールドワークを通して理解する。現場実践に寄与できる研究、実践力を高めることにつながる研究を意識して、双方向に授業を展開する。多種多様な環境、地域性を踏まえて行われてきた各地の実践の特性を検討することから、現在求められている実践に示唆するものは何かを探る。心理・教育・福祉の現場のリーダーとして、必要な理論と実践能力、課題解決能力を身につけられるようにする。
	スクールソーシャルワーク特論	2	澁谷 昌史	我が国のスクールソーシャルワーク実践にかかる専門知識の体系的理解に焦点を当てた講義である。具体的には、以下の3つの内容について取り扱う： 1. 学校という組織の特性とはどのようなものなのか。 2. どのような制度のもとでスクールソーシャルワーカーの実践の場が作られているのか。 3. スクールソーシャルワーカーが何を考え、どのように行動しているのか。 なお、本授業は、教育福祉学専攻の学位授与方針に即し、我が国のスクールソーシャルワーク実践にかかる専門知識を身につけることで、学校におけるチーム支援に従事する高度専門職業人として活躍できる人材養成につながるものである。
	現代家族法特論	2	金子 和夫	家族法は民法の親族法と相続法からなるが、この授業では、おもに親族法の理解を深めることを目的とする。具体的には、社会福祉の現場における権利行使や権利救済等の観点から、親族法・相続法に係わるいくつかの問題をテーマとして設定し、実態・法制度(判例を含む)・課題等について受講生とディスカッションを行いながら授業を展開する。テーマとしては、現代社会における家族形態の変化、婚姻・離婚、親子関係、扶養関係、相続の領域に関する問題を取り上げ、各種統計資料や新聞等で実態を明らかにしたうえで、それに対応する法制度・政策研究、判例研究を行い、課題を検討する。
分野心理学	発達心理学特論	4	井森 澄江	生物的存在でありながら社会的存在である人間の生涯にわたる発達について、まず、発達に関する諸理論・学説を概観する。その後、周産期・乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期各発達期の課題とその発達支援について考える。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
心理学分野	臨床心理学特論	2		本年度非開講
	心理学特論	2	佐藤 隆弘	心理学は人間行動を科学的に理解し、人々がよりよく生きるための知見を提供する学問である。現代社会においては、人々の心や行動に関する様々な問題が生じており、多くの分野で心理学の重要性がますます増している。この授業では、人間の行動について理解するための心理学の考え方や研究法を学び、いかにして教育や福祉などの実践分野に役立てられるのかについて考察する。さらに、受講者自身の研究テーマについて心理学の視点からどのようなアプローチができるのかを検討する。
	教育評価・測定法	2	井上 俊哉	指定の教科書を読み進める。重要な点については、さらに詳しい文献を読んで、理解を深めていく。教員側からの一方通行の講義形式はとらず、受講者からの積極的な発言も求める。予習・復習を怠らず、自ら学ぶ気持ちを持って授業に臨んでほしい。
	検査法演習	2	井森 澄江	心理検査を使う最終目標は、他者や自己を理解するという実践的なものであるが、なぜ心理検査で知的能力や性格を測定できるのかという理論的背景を知らずにこれを利用することは危険である。この授業ではいくつかの代表的な心理検査について、理論的な知識を持ったうえで有効性や限界などを検討しつつ、その実施法・利用法を学ぶ。
	高齢者心理学特論	2		本年度非開講
研究法分野	社会調査法Ⅰ	2	山本 和人	教育学や社会福祉学、心理学に共通して用いられる研究方法として用いられている調査方法を理解する。各自の関心にもとづき、仮説やモデルを作り、調査対象の選択から、質問紙の作成、実施、結果の分析まで、実習・演習を取り入れて、一通り実践的に理解する。論文作成や課題研究などに取り組み際に、理解してほしいことを伝える。
	社会調査法Ⅱ	2	山本 和人	教育学、社会福祉学、心理学に共通する研究方法としての社会調査のうち、質的な研究方法を教授する。調査対象数が非常に限定された事例研究の場合や、文字・テキストや語りについての内容分析、インタビューや言葉のやり取りなど、数量的にとらえられない対象についての研究方法について、一方的な講義ではなく、院生の関心を踏まえて、実習・演習方式を取り入れて行う。
	心理学研究法Ⅰ	2	井森 澄江	「ある」けれども「実体としてしめすことのできない」人の心を心理学は研究の対象にしている。そこで、心の研究を進めるために心理学はさまざまな研究法を発展させてきた。心理学研究法Ⅰではこの多彩な心理学の研究法について、実験、観察、調査という代表的な研究法を柱に整理しその中に新しい研究法の流れのいくつかを取り上げ、その意義と限界を検討していく。
	心理学研究法Ⅱ	2	井森 澄江	心理学研究法Ⅱでは特に観察法、教育的介入法、事例研究、心理検査法を取り上げる。これらは教育・支援現場において心を捉える重要な方法といえよう。研究テーマを選んだうえで、これらの方法のうちのいくつかを用いてデータをとり、分析を行いレポートにまとめる。その過程で具体的手法を学ぶとともに、それぞれの長所を利用して心をいかに理解できるか検討していく。

※研究科所属の専任教員の論文等の情報は、東京家政大学HPの研究者情報データベースで確認できる。

2 博士課程

(1) 人間生活学専攻

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
心理臨床学分野	発達臨床心理学特論	2	平野 真理	本授業では、人の発達プロセスにおいて、その時々に必要な関係性の獲得をサポートするための心理支援について、必要な知識と実践スキルを具体的に学ぶ。今年度は育児期女性に焦点をあて、育児期女性の抱える困難や、その背景にある社会的課題について、実際の調査データの統計的・質的分析を用いて読み取る。その上で、対象者らに必要な関係性を支える上で有効な心理支援の方法論について文献から検討し、実際の支援デザインを行う。これらの学びを通じて、発達の視点から人の心理支援を捉え、理解し、支援を考えることのできる専門性を培う。
	臨床心理学特論	2	福井 至	認知行動療法に関するこれまでの研究をテーマごとに概観し、未解決な問題を見出し、その解決ができる研究計画を立て、研究を実施する。また、実験や調査が終了したら、論文を作成し、ジャーナルに投稿していく。本講義を通じて、研究成果を学会などで発表し、学術論文として公表できる研究能力をつけていくことができる。
	カウンセリング特論	2	相馬 誠一	学部や修士課程で学んだカウンセリング理論と実践上の課題を深め発展させることを目的とする。再度、クライアント中心療法理論、精神分析理論、行動療法理論などの各カウンセリング理論と技法について理解する。その上でカウンセリングに関連する医療・教育・福祉・地域・産業などの分野についての応用について広く学習し、実践的スキルが身につけるように学ぶ。その上で、豊かな専門的能力を修得していく。
	心理療法特論	2	三浦 正江	広く心理的ストレスに関連するテーマを一つ取り上げ、それに関する論文講読を行う。これによって、特定のテーマに関する研究動向を説明することができる。 テーマを一つ設定し、それに関する国内外の研究論文を収集して講読し、発表を行う。最終的にはレビュー論文としてまとめる。
	統計解析特論	2	上野 雄己	心理学の理解に求められる基本的な統計的知識を復習したのち、多くの研究にとってよく用いられる手法を学ぶ。基本的に本授業は、HADやR等の統計解析ソフトを用いた実習形式で行い、知識と統計解析スキルの両方の取得を目指す。
人間発達学分野	発達教育心理学特論	2	平山祐一郎	人間生活学専攻の学位授与の方針(2点)に基づき、「発達教育心理学特論」では、的確に子どもの発達を理解し、その上で、どのように適切な教育を行うかについて、心理学的に考える。具体的には、①データをもとに子どもの発達(成長や成熟等)を読み取り、②それを論理(理論)的に理解し、③様々な要素の因果関係を推測しながら、有効な教育(指導・支援)の在り方を検討する。心理学的な観点を中心とはするものの、身体発達との関連や社会状況の分析など、学際的な視点の広がりも持ちながら、講義をし、議論を行っていく。初回に詳細な説明を行う。なお、受講者数・受講者状況・受講者ニーズにより、概要と計画を変更することがある。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
人間発達学分野	発達保健学特論	2	宮島 祐	慢性疾患や心身障害のある子どもたちの生物学的特性を中心に、その日常生活に関わる保健や年齢を重ねていくときに生ずる併発障害などについての文献講読を行う。さらに受講者によっては、その研究課題に即した文献についても、講読を行い、科学的な視点からの議論を展開する。子どもの発達と保健に関する問題についての考察が主たる課題であるが、議論を通して科学的な視点をもつことの重要性を強調する。
			及川 郁子	研究課題に関連する概念や理論、研究方法について文献講読を通して理解を深めるとともに、保健・医療の場における子どもたちを生活者として捉え、子どもたちと支援者を取り巻く現状分析を行い、自らの専門領域における研究課題の位置づけを明確にする。また、研究課題によっては予備的研究を通して研究枠組みや理論基盤を明確化していく。
	発達栄養学特論	2	太田 一樹	妊娠期から高齢期までのどの過程においても、栄養の過不足は人体に様々な影響を及ぼす。例えば母体の栄養状態は胎児に大きく影響する。また、高齢化社会に伴い、高齢期の栄養の過不足についても重要性が増している。本授業では、それぞれのステージにおける生体の機能と栄養の重要性について理解するとともに、栄養障害について論理的に考えていく。
	人類遺伝学特論	2	高野 貴子	子どもの発達の過程を遺伝学的観点から捉えることを教示する。受精から胎児期、出生、乳幼児期から思春期にいたる成長と発達に、遺伝や環境が及ぼす影響を学ぶ。遺伝的要因と、それによる疾病について学び、自ら調べる方法を学習する。具体的な事例を通して現代的な問題点を考える素地を培う。学んだ事柄をわかりやすく発表し、相互討論し、学習を深める。
	保育学特論	2	戸田 雅美 榎沢 良彦 (オムニバス)	保育の現場において高度な専門的職業人としてないし新たな課題について高度な研究を行うためには保育の根源について理解し、保育実践を考察する力を身に付ける必要がある。そこで、この授業においては「保育」とは何かを理解し、その上で、現在の保育実践の在り方と課題を検討することを通して、新たな課題を解決できる優れた研究能力と専門職業人としての高い実践力を習得する。(オムニバス方式/全14回) (榎沢良彦/7回)「保育とは何か」という最も根本的な問いに迫る議論について理解を深める。 (戸田雅美/7回)現在の保育の具体的な在り方について、具体的な保育の実践事例を検討することを通して学ぶ。また、現在の保育現場が抱えている課題等についても検討していく。
	育児支援学特論	2	岩崎美智子	現代社会の特質をとらえ、子育てと支援について検討しながら、支援者としての保育者の役割と意義を考察する。新たな議題を探究できる優れた学識と研究能力を習得する。 保育所における親子支援や児童養護施設における家族支援を具体的な実践事例を通じて理解し、討議を重ねながらその内容と方法を検討する。また、家族が直面している問題の検討と、援助者として保育者が感じる困難や感情労働を育児支援の観点から考察する。
	臨床保育学特論	2	岩立 京子 宮島 祐 野口 隆子 細井 香 (オムニバス)	4名の教員によるオムニバス形式である。一人ひとりの子どもに向き合う保育・教育を臨床保育と捉え、その考え方を築いていくための基礎的な知識を涵養するため、各教員の専門領域から、最新のトピックスを交えて講義を行うとともに、履修院生の経験、考え方も発表する形で双方向的な授業を行う。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
人間発達学分野	児童教育学特論	2	半澤 嘉博	時代の流れの中で、児童の教育はどのように変遷したかを振り返るとともにあるべき児童教育の姿を多面的な視点から考察する。小学校教育においてどのような改革がなされようとしているのか、実際の小学校現場を観察、分析することにより、小学校教育の望ましい姿を考察する。児童理解、児童の発達にもとづいた指導方法を特別支援の視点も取り入れながら考察する。
生活環境学分野	衣生活環境学特論	2	潮田ひとみ	衣服着用時の快適感を構成する要因を人間-衣服-環境系ととらえ、人間と衣服、衣服と環境、人間と環境といった視点から分析する。快適な衣生活を送るための要因、安全な衣生活を送るための要因、健康な衣生活を送るための要因について、新着文献等を参考にしながら概説し、衣生活の向上について考察する。
	衣生活文化特論	2	沢尾 絵	歴史上に確かに存在した服飾やこれを形作る染織品は、人が自らの手によって作り出したものであり、その時代の社会状況や生活者の立場・嗜好を顕著に表している。実在した服飾・染織品、人々の衣生活、これを取り巻く社会状況等を広く文化史的に捉える研究を実践するために、本講義では江戸時代前期の染織品をテーマとし、さまざまな視点から考察し、論じていく。まずは既存の研究による通説を、資料と共に正しく理解し、検証する。その上で、新たな研究の核となり得る資料を提示し、内容の解説・分析から資料の評価、同時代の資料の再検討の方法、その意義、歴史的視点を踏まえた文化史的なアプローチの方法論について述べる。
	生命情報学特論	2	藤森 文啓 内田 隆史 (オムニバス)	各種データベースの閲覧、データ取得、解析、理解を深め、特にヒト塩基配列決定法としての基本であるサンガー法に加え、次世代型シーケンサーが採用しているハイブリダイゼーション法を活用したアレイ法やナノポア技術などを理解したうえで、生物ゲノムから見えてくる事象について考察する。ゲノム解析から得られるデータの意義や活用方法について、特に生命活動に関係する食糧問題・人口問題・環境問題を絡めながら、その関係性などの解析をどのように進めるかについても学ぶ。
	住生活環境学特論	2	川上 裕司	家政学と関連が深い住環境の現状(問題点)と快適な住環境や住まい方(対策)をバックグラウンドとして、室内環境学(衛生学)を中心テーマとした講義、討論、小論文の作成を毎回行う。博士課程の大学院生向けの講義であるため、博士となるために必要な理系的思考を養うために適切な最新論文の輪読も授業に盛り込む。また、小論文は、20分以内で論点をまとめることによって、博士論文制作のために不可欠な「論文執筆力を養うこと」を目的として指導する。
	生物環境学特論	2	森田 幸雄	バイオハザードとバイオセーフティーについての考え方を基礎としながら、生物(細菌・ウイルスも含む)の生態、有用性、健康危害について理解を深める。その後、関連法令(「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」、「食品衛生法」等)に記載されている病原体のリスクおよび環境(室内環境も含む)や食品に起因する病原体(感染症、動物由来感染症、室内環境からの病原体)について微生物学的な特徴や本病原体による食中毒や感染症発生時の疫学的解析方法について習得する。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
生活環境学分野	児童文化環境学特論	2	是澤 優子	児童文化は、子どもの成長発達に深く関わる文化であり、「子どもがつくりだす文化」と「大人が子どものためにつくりだす文化」という視座を合わせ持つ概念である。本特論では、日本近代における児童文化史の分析を通して、人間生活学専攻の学位授与方針に基づく総合的・学際的視野に立つ人材育成に、児童文化環境学の側面から貢献する。 具体的には、明治後期から昭和初期にかけて展開した児童用品研究、児童博覧会といった社会的活動を基軸に据える。明治期に出版された雑誌や文献、関係資料を読み込みながら、子どものための文化環境を大人が意識してつくりだす営みが産学協同の形をとりながら社会的規模で始まった背景と要因、展開歴史的意義を考察する。授業は、講義ならびに受講生による報告と討論を組み合わせて進める。
	児童環境学特論	2	大澤 力	子どもや児童を対象とした環境教育の重要性と可能性を理論的理解および実践的理解を融合した形で学び、実践事例や体験的演習を経て、身近な環境から地球規模までの時代的課題の克服法を検討しつつ、その具体的な手立てを考察し、各自における今後の研究と学修に資する。
生活材料学分野	衣生活材料学特論	2	濱田 仁美	衣服材料の大半は繊維製品からなり、原材料の繊維の性質は最終製品である衣服材料の性能に密接に関連している。繊維は高分子であり、高分子の構造や性質、合成法、反応機構を理解することは、繊維特性のより深い理解につながり、自身の研究の考察を行う上でも重要な知識となる。 これらの学習を通して、衣服材料の特性についてより包括的な考察を行い、課題を探究できるようになることは、学位を取得する上で重要である。
	食品材料評価学特論	2	峯木真知子	興味のある食品素材について、調理特性を予備実験より調べ、その栄養効率、加工特性を考え、その評価法を学修する。また、それらの食品素材をどのように研究していくのかのテクニックも検討する。
	食品材料利用学特論	2	小林 理恵	食物の嗜好性を高め健康増進に寄与するだけでなく、社会貢献へと結び付けられるように食品材料を有効利用するためには、自然科学的アプローチに加えて、人文科学および社会科学的理解が必要である。本講座では社会および経済的背景、歴史的背景、国内外における利用の現状など、さまざまな観点から研究動向と利用状況を調べ、テーマに関わる課題を抽出した上で、さらなる有効利用法を見出す意義と重要性を考える機会としたい。
	機能性食品素材開発学特論	2	佐藤 吉朗	飽食の時代にあって、食品に対する日本人の欲求はおいしさに留まらず食品の機能特にその食品を食することによって我々がどのような健康に対する恩恵を受けるかという点に興味を持たれている。実際に機能性食品を開発するに当たって、どのような点に力点を置くべきなのかを理解できる。講義、文献調査及び討論という形で機能性食品について開発の道筋を習得してゆく。
	分子生物学特論	2	大西 淳之	心身の健康と食との関連について、代謝生化学や栄養シグナル伝達の視点から解説する。この特論では細胞間や細胞内での情報伝達の基本原理と、外界からの刺激による細胞の応答に関する分子機構を理解する。特に、細胞質と核内との間で行われる物質輸送の調節機序については、栄養素の関わりに着目して最新の知見をもとに解説する。加えて、核内イベントのうち栄養条件に応じたクロマチンの構造変化と、それに伴う遺伝子発現制御についても解説する。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
生活材料学分野	生体材料学特論	2	池田 壽文	「生体材料」とは一般に医療分野で使用される言葉で、生体適合性を示す材料および物質のことである。例えば、人工関節や人工心臓弁など本来の機能を失った臓器・器官の代わりに生体内に移植される材料などがそれである。しかし、医療分野のみならず、工学・化学・生物学といった様々な分野との融合によって、新たな機能性材料を生み出している現状もある。 本講義では生体機能に関連した高分子素材に焦点を当て、実際どのような形で生活の中で活用されているのかを中心に解説する。
	酵素学特論	2	小西 康子	ヒトの健康と食に関係する酵素について、その遺伝子、立体構造、生理機能、反応速度論的性質、さらに利用開発をも含む幅広い観点からの知識を習得し、生体触媒としての酵素を深く理解することで、食生活の課題を解決する能力を養う。ヒトから微生物に至る種々の酵素を対象として、講義と文献紹介、討論を組み合わせた授業展開を行う。セミナー形式の発表および質疑応答を通じて、理解力とプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。
	食品材料工学特論	2	鍋谷 浩志	食品加工における基本的な工程に関して、単位操作別に学習し、それらを工学的に取り扱う際の基礎的な知識を習得する。
	食品材料プロセス特論	2	赤石 記子	本授業では、食品の調理・加工による物性(テクスチャーなど)、栄養成分および機能性などの変化について理解を深めるとともに、持続可能な食生活を送るための調理・加工のプロセスについて考える。そのために、授業では食品材料からのアプローチと調理・加工のプロセスからのアプローチを行う。調理加工の主要操作の一つである加熱処理の基礎的理論や仕組みと食品に与える様々な影響を講義し、調理面から人々の健康と社会の発展に貢献できるような専門的能力を養う。
	機能性食品学特論	2	重村 泰毅	機能性食品は、消費者向けの市場が存在するからこそ価値がある。まず、その商品化や消費者に向けて何を訴求する必要があるかを理解していく。並行して、現状訴求できる文言についても理解する。さらに現在の機能性食品のトレンドや、今後のニーズとシーズも予測できるような視野を現在の研究情勢を論文等から読み解いていく。
生活管理学分野	被服管理学特論	2	森 俊夫	近年、多くの機能性繊維、エコフレンドリー繊維が開発され、素材の多様化、複合化が進んでいる。これら繊維製品の購入時の状態を長く保持するには、素材の特性を知り、正しい取扱いを行う必要がある。そこで、取り扱い中に事故につながりやすい洗濯、ドライクリーニングを中心に、事故事例を紹介し、化学物質を含む繊維製品の正しい取扱い方法を理解する。日本のみならず、海外ではどのような取扱いをしているか、また、クリーニングに関する最近の文献も紹介する。
	臨床栄養管理学特論	2	澤田めぐみ	栄養状態、血行動態など循環器分野、呼吸機能、腎機能などの評価について知識を深める。
	代謝栄養管理学特論	2	尾形真規子	糖尿病・骨粗鬆症の病態について、細胞生理学から理解していく。ある程度の知識を得たところで、基本的に英語論文による抄読会方式を取る。 学生が、毎回興味のある事例・論文に付き調べ、発表し、その内容についてお互いに検討していく。質問に返答できなかった場合は次の回までに調べ、発表し、さらに議論をしていく。 学生が、最終的に自分の興味を持った事柄に関するレビューをまとめ、レポートとして提出する。

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
生活管理学分野	健康管理学特論	2		本年度非開講
	食品管理学特論	2	宮尾 茂雄	食品の安全性確保、品質保持を図るための知識の習得、様々な食品の特性に対応した食品管理の在り方について、食品製造工程における危害分析、重要管理点、モニタリングに関する専門的知識を修得する。また、食品の安全性確保において重要な位置を占める微生物の生態および制御方法に関する高度な専門的知識について深く理解し、能力を高める。
	生活情報処理特論	2		本年度非開講
	病態代謝管理学特論	2	勝川 史憲	少子化の進展により、今後わが国では生産年齢人口の減少が深刻となる。この授業の目的は、生産年齢期の健康の維持・増進対策、とくに生活習慣病の対応に関連する多角的な視点を得ることにある。具体的には、生活習慣病の疫学・病態生理学、食事・運動療法の歴史的背景と有効性のエビデンス、政策の状況、保健事業の立案・効果分析の手法について把握し、生活習慣病対策の多面的な理解を深めることを目指す。
	ロコモ・フレイル特論	2	清水 順市	人は加齢に伴い身体的、精神的および社会的な影響を受ける。その因子として、疾病や環境(感染症を含めて)、社会的役割や食生活の変化が挙げられる。本授業では、身体的および精神的に表出する特徴的現象、症状について解説するとともに、国及び自治体の予防策のあり方について考える。 ロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイルは運動系の症状として取り上げられるが、その問題が生じる基盤には、各種疾患が潜んでいることや栄養状態が関係していることがわかっている。この授業ではリハビリテーションと栄養を結びつけて考察していく方法を修得する。
	リハビリテーション科学特論	2	鈴木 誠	リハビリテーションは、神経生理学、心理学、生体力学、情報学などの多岐に亘る学問領域を基盤として成立している。そのため、リハビリテーションを効果的に実施するためには、多角的な観点から人の活動に関する法則を科学的に探究する必要がある。本授業では、人の活動を多角的に計測および解析するための方法について考える。

※研究科所属の専任教員の論文等の情報は、東京家政大学HPの研究者情報データベースで確認できる。

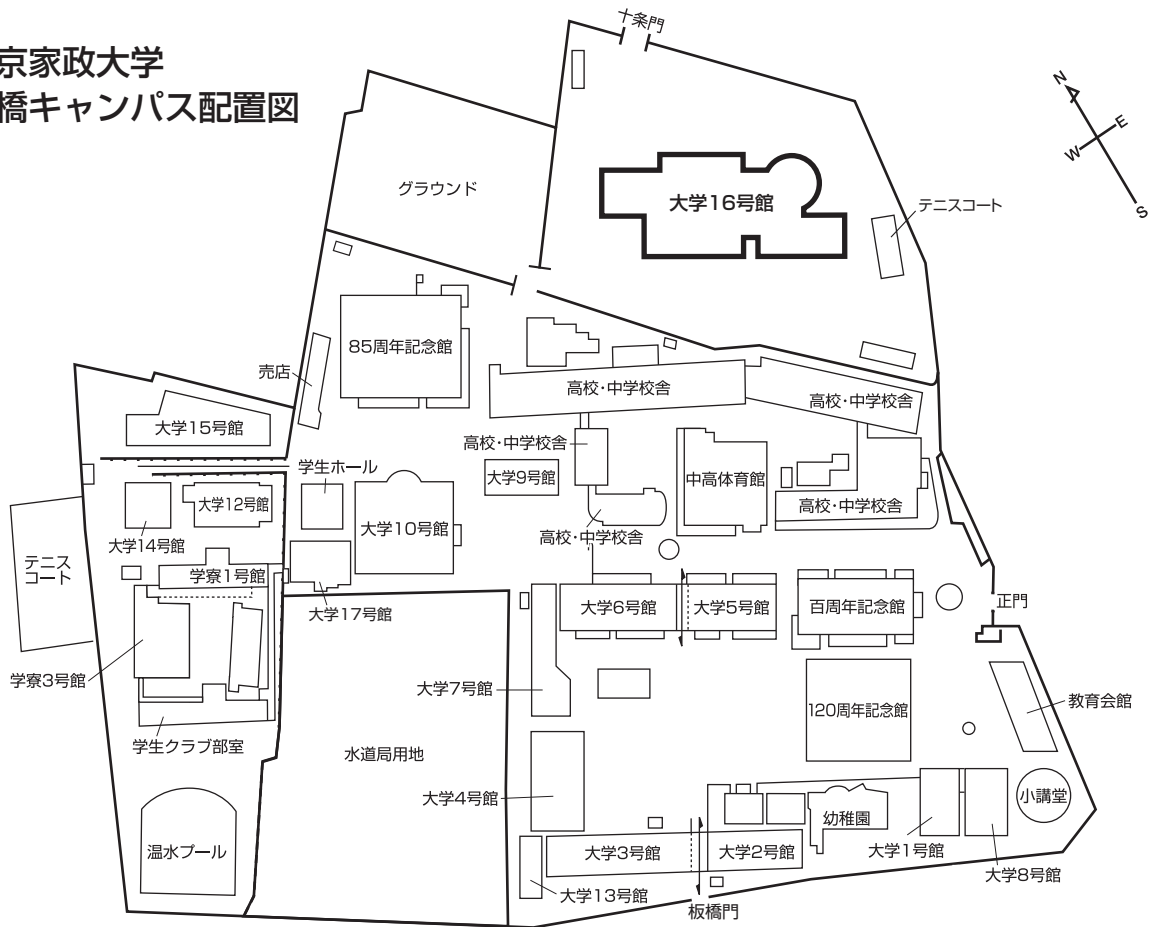
3 大学院共通科目（修士課程・博士課程）

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	講義内容
共通分野	論文作成のための統計解析入門	2	松本 真作	重回帰分析, 主成分分析, 因子分析, クラスター分析, χ^2 検定, t 検定, 分散分析, 多重比較など, 研究でよく用いられ, 論文作成に必要な代表的統計解析を学ぶ。 今日, 最も使われている統計解析ソフトウェア SPSS を使って, 実際のデータ (約 500 の職業や仕事を多面的に数値化したオープンデータ) で, 各自, 処理して結果を出し, その読み方を学ぶ。
	プレゼンテーション論	2	藤森 文啓 清水 順市 小池 新 (オムニバス)	大学院の細分化された各領域で, 各人が行っている研究内容は異分野の人達には理解し難い。しかし, 最近は研究内容を第三者にも分かるように説明することが文書でも口頭でも求められている。この授業では, 大学院生の研究内容を簡潔に表現 (文書と口頭) することを学習する。なお前半では, 発表機器およびソフトウェアの概要について学ぶ。
	アカデミック・ライティング	2	並木 有希 ロバート・ジェイムス・ロウトム・エドワーズ (オムニバス)	講義: 論理的な英文の書き方の基本的なルールを学び, そのルールに則した英文が書けるようにする。学術的な英語の文章の構成や表現を知る。添削: 講義で学んだことを踏まえて制作した文書について, ネイティブ教員の添削及び指導を受け, 英語力を高める。

※研究科所属の専任教員の論文等の情報は、東京家政大学 HP の研究者情報データベースで確認できる。

Ⅲ. 東京家政大学板橋キャンパス配置図・大学院事務室

東京家政大学
板橋キャンパス配置図



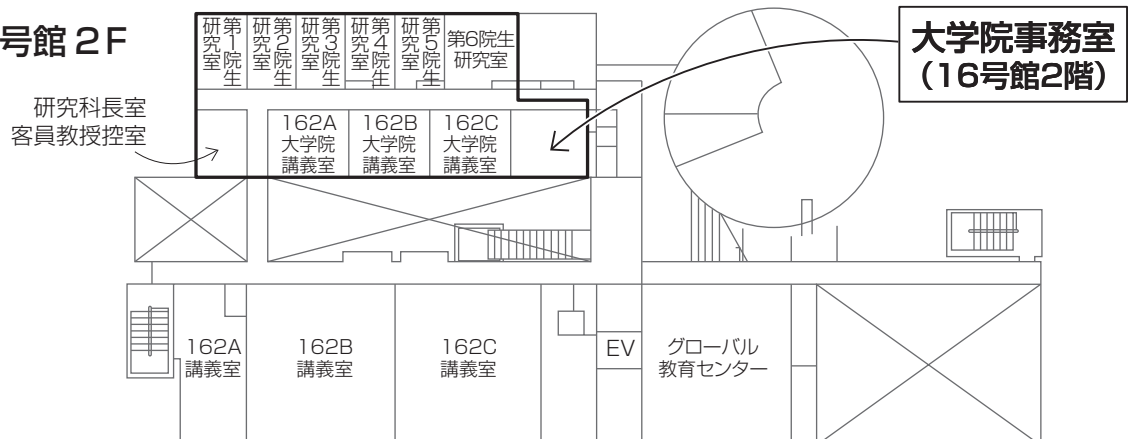
大学院事務室

大学院事務室は、16号館 2Fにあります。

2F 大学院事務室 (16-204 (2)) TEL: 03-3961-3473 (内1401、1400)

大学院講義室・院生研究室 研究科長室 (16-201) TEL: 03-3961-6038 (内1202)

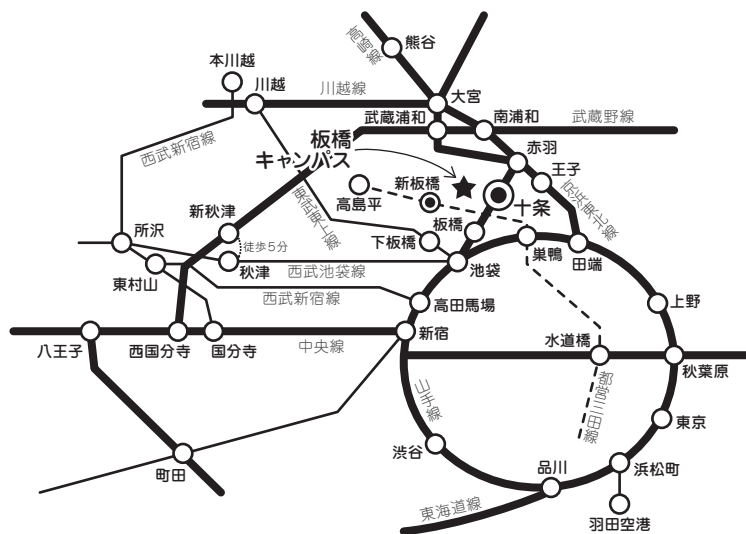
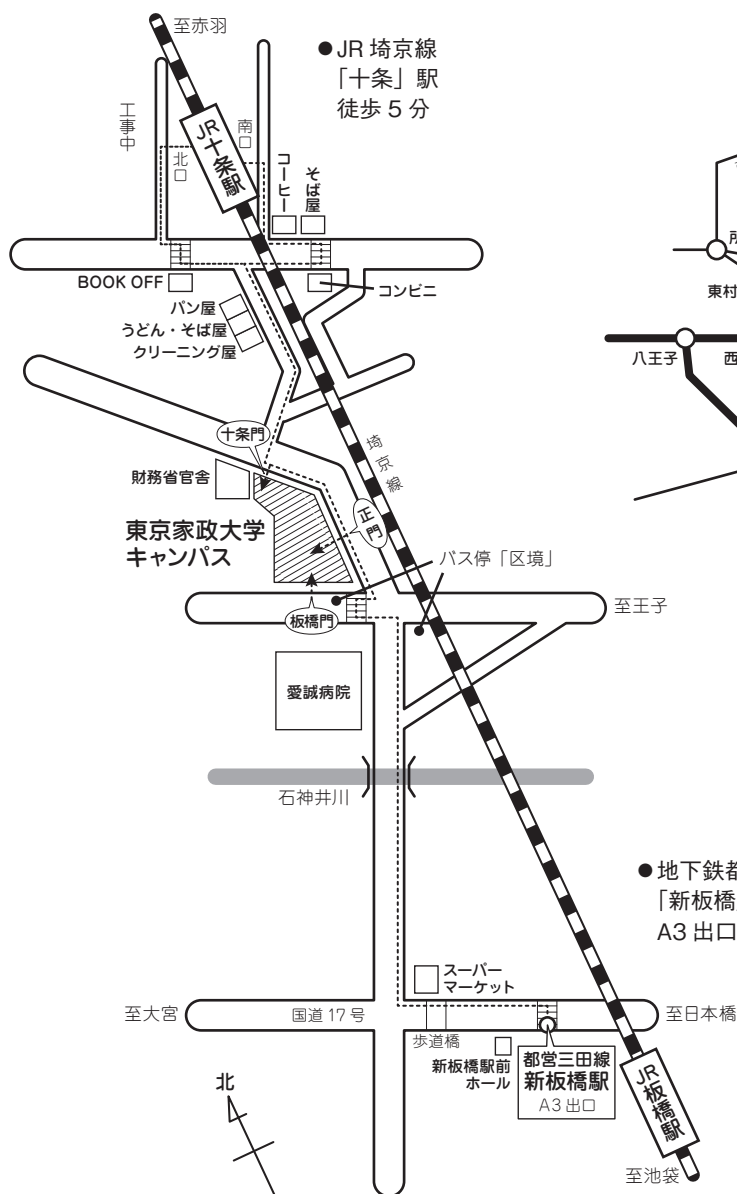
大学16号館 2F



板橋キャンパスまでの最寄駅からの地図

JR埼京線 十条駅 利用がもっとも便利です。所要時間…徒歩5分

板橋キャンパスへのアクセス



■ 問合せ先

東京家政大学大学院事務室

〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1

電話 03-3961-3473 FAX 03-3961-5260

メールアドレス

daigakuin@tokyo-kasei.ac.jp

ホームページアドレス

<https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/graduate/index.html>

- JR 埼京線「十条駅」下車 徒歩 5分
- 地下鉄都営三田線「新板橋駅」下車 徒歩 12分
- JR 京浜東北線「東十条駅」下車 徒歩 15分
- JR「王子駅」より国際興業バス「板橋駅」行にて約7分、バス停「区境」下車 徒歩 1分

ホームページはこちらからも
ご覧いただけます。 →



Graduate School of Tokyo Kasei University